



0028682000

0028682-000

382-19木

銀行論

山崎覚次郎・著

有斐閣書房

訂12版

昭和5

ADI

5. 6. 13

574
17

法學博士山崎覺次郎講述

銀行論

180





銀

行

論

法學博士山崎覺次郎講述



銀行論 目次

第一章 緒論

第一節 「銀行」ナル名稱

第二節 銀行ノ定義

第三節 銀行業務ノ種類

第二章 銀行券ノ發行

第一節 銀行券ノ性質

第二節 銀行券發行ノ集中

第三節 中央銀行ヲ國有トナスノ可否

第四節 銀行券兌換準備ノ制度

第五節 業務ノ制限其他ノ規定

銀行論目次

一 一 二 六 八 八 三 〇 七 六

第三章 預金

- 第一節 預金ノ沿革
- 第二節 預金ノ種類
- 第三節 小切手
- 第四節 振替制度及ビ手形交換制度
- 第五節 準備金及ビ預金ノ運用法

第四章 債券ノ發行

- 第一節 不動産抵當銀行ノ債券
- 第二節 動産銀行ノ債券

第五章 手形ノ割引

- 第一節 手形ノ割引ガ手形所持人ニ與フル利益

二

六七

六七

七二

七八

八二

九一

一〇二

一〇二

一〇八

一一五

一一五

第六章 貸付

- 第二節 資金使用法トシテノ手形割引
- 第三節 割引歩合
- 第四節 割引政策
- 第五節 擔保品附手形割引
- 第六節 手形引受業務

一三九

一三九

一四三

一四三

一四五

一四七

一四九

第七章 爲替

銀行論目次

三

一五一

信用
有價証券
不動産

割引

第一節	內國爲替	四
第二節	外國爲替ノ意義	一五一
第三節	外國爲替發生ノ原因	一五四
	并ニ爲替手形ノ需用及ビ供給	一五八
第四節	爲替相場	一六五
第五節	變動ノ甚シキ爲替相場	一七三
第六節	爲替相場變動ノ影響及ビ其調節方法	一八一

銀行論目次終

銀行論

法學博士 山崎覺次郎講述



第一章 緒論

第一節 「銀行」ナル名稱

「銀行」ナル語ハ今ヤ吾人ノ耳目ニ熟スト雖モ其ノ一般ニ用キラル、ニ至リシハ實ニ明治五年ニ制定セラレタル「國立銀行條例」ニ基因スルモノトス是ヨリ先キ慶應三年神田孝平氏「經濟小學」ヲ譯述スルヤ「金館」ナル文字ヲ用キ慶應二年印行ノ「英和字彙」(Bank)ヲ譯シテ「金銀」ヲ預リ爲替ヲ組ム座ト云ヘリ然ルニ一八六

第一章 緒論 第一節 「銀行」ナル名稱

六年香港ニ於テ出版セル「英華字典」ハ同字ノ譯語トシテ「銀行」ヲ第一ニ置クガ故ニ明治三年福地源一郎氏ノ譯セル「會社辨」ノ序ニ「銀行」ナル文字アリト雖モ是レ果シテ氏ノ案出ニ係ルヤ否ヤ予ハ寧ロ「英華字典」ニ據レルモノト信ズルナリ何トナレバ當時我邦ノ貨幣制度ハ紊亂ヲ極メテ本位未ダ確定セズ從テ特ニ「銀」ノ字ヲ選ブノ理由ナク且「行」ナル文字ヲ店舗ノ意義ニ用キルハ我國ニ於テハ甚ダ稀ナレバナリ然ラバ則チ「國立銀行條例」制定ノ際ニ採用セラレ遂ニ人口ニ膾炙スルニ至レル「銀行」ナル語ハ「英華字典」ニ淵源スト云フモ不可ナキガ如シ翻テ「バンク」(Bank)ナル原語ノ來歴ヲ案ズルニ英人マクラウド(H. D. Macleod)ハ類ニ反對スト雖モ中古伊太利ノ兩替商ノ用キタル卓子即チ「バンコー」(Banco)ヨリ來レリトノ說ヲ唱フル學者多シトス

第二節 銀行ノ定義

「銀行トハ貨幣ノ需要者ト供給者トノ間ニ立チ自己ノ計算ニ於テ廣ク兩者ト信用取引ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ」

銀行ノ定義ハ從來其數少ナカラズ其内容區々ニシテ之ガ選擇取捨極テ困難ナリトス是ヲ以テ比較的適切ト信ズルモノ數種ヲ折衷シテ前掲ノ如キ定義ヲ下サント欲スルナリ而シテ何故ニ斯ノ如キ定義ニ歸著セルヤニ就テハ其理由ヲ左ニ述ベシ

一 從來ノ定義中資本ナル語ヲ用キタルモノ少ナカラズト雖モ此語ハ其意義頗ル廣ク例ヘバ家屋機械ノ如キモ亦一種ノ資本タルヤ疑ナキナリ然レドモ銀行ハ家屋又ハ機械ノ貸借ヲ業トスルモノニ非ズ其取扱ニ係ルモノハ資本ノ一種ナル貨幣ナリトス論者或ハ曰ハン銀行ハ貨幣ノミヲ取扱フモノニ非ズ例ヘバ小切手ヲ以テ預金ヲ爲スガ如キ場合ハ如何ニ之ヲ説明スルヤト蓋シ小切手若クハ其基礎タル當座預金ハ一種ノ貨幣ト見做シ得ザルニアラズ假令之ヲ貨幣ナラズト爲スモ小切手ノ表示スル所ハ即時ニ使用シ得ベキ貨幣ノ一定量ナルヲ以テ小切手ヲ預ケ入ル、ハ結局貨幣ヲ供給スルニ他ナラザルナリ學者往々如上ノ疑義ヲ避ケントシテ「購買力」(Purchasing Power)ナル語ヲ用ウルト雖モ此語ハ抽象的ニ過グルノ嫌ナキニ非ズ而シテ此購買力ヲ體現スルモノハ實ニ貨幣

ニ他ナラズ即チ貨幣ハ一ノ社會ニ於テ殆ド何人ニ對シテモ且何時ニテモ直ニ使用シ得ベキ購買力ヲ保有スルモノナリトス

- 二 信用取引トハ當事者一方ノ給付ハ現在ニ行ハレ之ニ對スル他方ノ給付ハ將來ニ屬スルモノヲ謂ヒ之ヲ信用取引ト稱スルハ給付者ガ將來ニ於ケル反對給付ノ受領ヲ豫メ信ズルニ基因スレバナリ而シテ銀行ノ主要業務ハ皆貨幣ニ關スル信用取引ニシテ所謂信用ノ授受ナルモノハ銀行ノ銀行タル要件ナリトス
- 三 銀行ハ信用取引ノ媒介ヲ爲スモノナリト云フ者アリト雖モ媒介ナル語ハ誤解ヲ惹起スルノ恐ナキニ非ズ何トナレバ媒介ト云フトキハ單ニ紹介周旋ノ勞ヲ執ルニ過キズ取引ノ責任ハ之ヲ負擔セザルガ如キ觀アレバナリ然ルニ實際銀行ノ主要業務ハ決シテ代理又ハ仲立ヲ爲スニ非ズ預金ヲ受入レタルトキハ預金者ニ對シテ自ラ債務者トナリ手形ノ割引ヲ行フヤ自ラ債權者ノ地位ヲ取ルモノトス是レ媒介ナル語ヲ用キズシテ特ニ自己ノ計算ニ於テ「ト明記シタル所以ナリ
- 四 貨幣ノ需要者又ハ供給者ニ對シテ一面ノ信用取引ヲ爲ス者アリ例ヘバ質商

又ハ金錢貸付業者ノ如キハ主トシテ自己ノ貨幣ヲ貸與スルモノニシテ廣ク公衆ヨリ貨幣ヲ吸收スルモノニアラズ又郵便貯金ノ如キハ類ニ公衆ヨリ貨幣ヲ預リ入ル、ト雖モ他ノ一方ニ於テ廣ク信用取引ヲ爲スモノニ非ズ從テ此二者ノ如キハ之ヲ銀行ト稱スルヲ得ザルナリ前掲ノ定義ニ於テ特ニ「兩者」ナル語ヲ用キタルハ信用取引ノ兩面ニ互ルコトヲ明示センガ爲メノミ

五 「業トス」トハ繼續的ニ業務トシテ營ムノ謂ニシテ其經營ノ形式ハ個人企業タルト將タ會社組織タルトヲ論ゼズ又私立若シクハ官立タルヲ問ハザルナリ而シテ銀行モ他ノ企業ト同ジク利潤ヲ得ルヲ目的トスルモノ大多數ヲ占ムベキハ勿論ナレドモ必ズシモ然リト云フベカラザルナリ

論者或ハ曰ハン過去ノ歴史ニ鑑ミ現今ノ狀態ニ照スモ銀行ノ業務ハ全ク信用取引ノミニ限ルモノニ非ズ而シテ一言ノ他ノ業務ニ及バザルハ何ゾヤト蓋シ近代ノ銀行業ハ貨幣ノ兩替保管等ニ淵源シ彼ノ「振替銀行」(Girobanken)ノ如キハ殆ド授信的業務ナルモノヲ行ハザリシト雖モ既ニ過去ノ事實ニ屬シ現今ノ銀行ニ於テモ兩替或ハ保護預等ノ業務ヲ營ムモノ少ナカラズ殊ニ振替業務ハ歐洲大陸諸國

ノ中央銀行ニ於テ往々大規模ニ之ヲ行フト雖モ要スルニ皆副業タルニ過ギズ又債券株式ノ賣買引受等ヲ盛ニ行フ銀行諸國ニ多ク見ル所ナリト雖モ是等ノ業務ハ各種ノ銀行ニ共通スルモノニアラザレバ之ヲ定義ニ掲ゲザルヲ以テ寧ロ其當ヲ得タルモノト信ズルナリ

第三節 銀行業務ノ種類

前述ノ如ク現今ノ銀行ハ貨幣ノ信用取引ヲ以テ主眼ト爲スモノナルガ故ニ其業務ハ之ヲ左ノ二種ニ大別スルコトヲ得ベシ

一 受信的業務 (Passivgeschäfte)

二 授信的業務 (Aktivgeschäfte)

而シテ受信的業務ノ主タルモノハ銀行券ノ發行預金ノ受入及ビ債券ノ發行ニシテ授信的業務ノ重要ナルモノハ手形割引及ビ貸付トス彼ノ爲替ニ至リテハ受信的業務タルト同時ニ又授信的業務タル性質ヲ有スルモノニシテ其他附隨ノ業務ハ保護預取立及支拂ノ代理貨幣ノ兩替債券株式ノ賣買引受等是ナリ。

以上列舉シタル業務ハ何レノ銀行ト雖モ悉ク之ヲ行フニ非ズ各専門トスル所ヲ選ブモノトス是レ即チ銀行ノ分業ニシテ銀行ニ幾多ノ種類ヲ生ズル所以ナリ然レドモ其境界ハ必ズシモ截然明確ナルニ非ズ例ヘバ發券銀行モ其授信的業務トシテ手形ノ割引又ハ短期ノ貸付ヲ行フハ他ノ銀行ト異ル所ナク又發券銀行ノ數甚ダ多キトキハ銀行券ノ發行ヲ以テ銀行普通ノ業務ト看做サルヲ得ザルナリ從テ銀行ノ種類ヲ標準トシテ講述スルトキハ往々重複スルコトアルベキヲ以テ業務ノ種類ヲ順次ニ説明シ銀行ノ種類ハ之ニ附隨シテ述ベント欲ス

銀行ガ社會ニ與フル利益ニ至リテハ其營ム業務ノ種類異ルニ從ヒテ同ジカラザレバ各種ノ業務ヲ説明スルニ當リテ自ラ論及スル所アルベシト雖モ獨逸ノ經濟學者コンラード(J. Conrad)ノ言ハ概括的ニ論評シテ能ク肯綮ニ中ルヲ以テ之ヲ掲ゲン氏曰ク人或ハ銀行ヲ以テ動物ノ心臟ニ比スルハ譬喩其當ヲ得タルモノト云フベシ蓋シ心臟ノ職能タル身體ノ各部ニ清血ヲ送リテ活動ヲ喚起シ汚血ヲ吸收シテ之ヲ分解スルニ在リ而シテ銀行ノ用ハ實ニ之ニ酷似ス

第二章 銀行券ノ發行

第一節 銀行券ノ性質

銀行券ハ計算ニ便ナル端數ナキ金額ヲ表示スル證券ニシテ同一金額ノモノ多數ニ發行セラル、ヲ以テ全部印刷セラレ單ニ引渡ニ依リテ移轉スルモノトス而シテ之ヲ發行セル銀行ハ所持人ノ要求次第何時ニテモ之ヲ金屬貨幣殊ニ本位貨幣ニ兌換スルノ義務ヲ有スルヲ常例トス其性質ヲ分解スレバ即チ左ノ如シ

一 銀行券ハ貨幣ノ一種ナリトス若シ世人ノ銀行券ヲ授受スルハ早晚之ニ依リテ金銀貨ヲ得ルガ爲メナルニ於テハ銀行券ハ貨幣ノ代表物ニ過ギズト謂ハザルヲ得ズト雖モ事實上少ナクトモ本邦ノ銀行券ニ就テ之ヲ見レバ(民衆ノ多數ハ金銀貨ニ兌換シ得ラル、コトヲ知ラズ假令之ヲ知ルモ之ガ爲メニ銀行券ヲ尊重スル者ハ極メテ少ナク世人ノ一般ニ喜デ之ヲ受納スル所以ハ之ニ依リ諸種ノ財貨ヲ買入レ諸般ノ支拂ヲ爲スコトヲ得レバナリ或ハ曰ク銀行券ハ交易

ノ媒介タル職能ヲ竭スト雖モ價值ノ尺度タル職能ヲ備ヘザルガ故ニ貨幣ニ非ズト然レドモ價值ノ尺度トハ貨幣ノ數量ヲ以テ價值ヲ表示スルコトニ他ナラズ例ヘバ本邦ニ於テ(圓)ト稱スルハ貨幣ノ一定量ニシテ金ノ一定量ニ非ズ十圓金貨ノ十圓モ十圓銀行券ノ十圓モ十圓タル貨幣ノ數量トシテ何等ノ差違ナシトス即チ我國ニ於テ價值ノ表示ニ用キラル、貨幣ノ數量ハ金貨ノミノ數量ヲ謂フニ非ザルナリ

二 然レドモ銀行券ハ同時ニ信用證券(Kreditpapier)ノ一種ナリト謂ハザルヲ得ズ蓋シ信用證券ノ意義モ一定セズ之ヲ狹義ニ解スルトキハ信用關係即チ貸借關係ヲ表示スル證券ニシテ一定ノ金額ヲ記載シ通例裏書又ハ引渡ニ依リテ讓渡シ得ベキモノヲ謂フ而シテ銀行券ハ一定ノ金額ヲ表示シ引渡ニ因リテ移轉シ之ヲ發行セル銀行ハ何時ニテモ之ヲ金屬貨幣殊ニ本位貨幣ト引換フルコトヲ約スルモノナルガ故ニ銀行ト銀行券所持人トノ關係ハ一ノ貸借關係ニ他ナラズ即チ銀行券ハ信用券ヲ狹義ニ解スルモ其一種ナリトス其發行ヲ以テ受信的業務ト爲スハ此理由ニ基ヅクモノニシテ兌換停止ノ場合ニハ信用證券タル性

銀行券ト信用
証券ト相異

質ヲ失フコト言フヲ俟タズ

三 銀行券ハ上述ノ如ク信用證券ノ一種タリト雖モ他ノ信用證券ト相異ナル點アリトス即チ端數ナキ金額ヲ表示スルコト同一金額ノモノ多數ニ存在スルコト全部印刷シテ記入ヲ要セザルコト引渡ニ依リテ移轉スルコト利息ヲ附セザルコト發行者即チ銀行ガ通常世人一般ニ知ラル、コト等相合シテ其ノ流通ヲ圓滑ナラシメ之ニ與フルニ法貨タルノ效力ヲ以テスルニ於テハ殊ニ然リトス之ヲ約言スレバ銀行券ハ初ヨリ貨幣タラシムルノ目的ヲ以テ發行セラル、ナリ之ニ反シテ普通ノ約束手形爲替手形ノ類モ世上ニ輾轉シテ貨幣ノ代用ヲ爲スコトアリト雖モ其本能ハ債權債務ノ關係ヲ證スルニ在テ存シ其ノ順次數多ノ取引ニ用キラル、コトアルハ寧ロ偶生附帶ノ作用ニ過ギズ又彼ノ小切手ハ主トシテ支拂ノ要具タリト雖モ償還請求權ノ有効期間短キガ故ニ長ク流通スルニ適セザルナリ無記名式一覽拂ノ約束手形ニ至リテハ事實上大ニ銀行券ニ類似シ信用ノ大ナル銀行之ヲ發行セバ必ズシモ廣ク流通セザルニ非ズ我商法ニ於テ爲替手形約束手形ハ其金額三十圓以上ニ非ザレバ之ヲ無記名式トシテ

發行スルコトヲ得ズト規定スルハ蓋シ茲ニ見ル所アリシナラン而シテ之ヲ事實ニ徵スルニ同ジク銀行券ナレドモ蘇格蘭ノ諸銀行ノ發行スルモノ、如キハ忽チ兌換ヲ請求セラレテ速ニ其銀行ニ復歸スルヲ以テ信用證券ノ性質著シク發揮セラレ之ニ反シテ本邦ノ銀行券ノ如キハ貨幣タル性質ヲ帶ブルコト甚ダ濃厚ナルヲ見ルナリ

四 以上ノ論旨ハ政府發行ノ兌換紙幣ニモ等シク適用シ得ベキガ故ニ更ニ進テ兌換紙幣ト銀行券トノ間ニ不同ノ點アルヤ否ヤヲ審査スルニ其差違ハ性質ノ全ク相異ルニ非ズシテ寧ロ優劣ニ存スト云フベク一言以テ之ヲ蔽ヘバ善良ナル銀行券ハ善良ナル政府紙幣ニ勝ルモノトス而シテ其ノ然ル所以ハ流通額ノ伸縮比較的容易ナルニ在ルヲ見ルナリ即チ銀行券ハ銀行ガ通常貸付、割引ヲ爲スニ當リテ發行スルモノニシテ紙幣ハ政府ガ諸種ノ支拂ヲ爲スガ爲メニ發行シ其所持人ヨリ特ニ兌換ヲ請求シ又ハ租税ノ上納、公債ノ應募等ニ之ヲ用キル場合ニ於テノミ政府ニ還リ來ルモ銀行券ハ貸付金ノ返濟、割引手形ノ満期ニ因リ自ラ銀行ニ回收セラレ若シクハ同額ノ金銀貨銀行ニ流入スルモノトス是ヲ

以テ政府紙幣ハ其流通額ヲシテ社會ノ需要ニ適應セシムルコト甚ダ難シト雖モ銀行券ニ至リテハ經濟界ノ狀況ニ依リテ自ラ流通額ノ多少ヲ來タスナリ何トナレバ商工業活潑ニシテ資金ヲ要スルコト大ナレバ從テ貸付割引ヲ請求スル者多キガ故ニ銀行券ノ流通額モ亦自ラ増加シ之ニ反シテ產業萎微振ハザルニ於テハ貸付割引縮退シテ銀行券ノ流通額モ亦減少スベケレバナリ之ヲ要スルニ銀行券ハ伸縮力ヲ有スルコト大ニシテ且其伸縮ハ寧ロ自動的ノ性質ヲ具フルモノトス蓋シ金貨ノ如キモ伸縮力ヲ有シ物價上騰スレバ輸入増加シテ金貨流出シ物價下落スレバ輸出増加シテ金貨流入スルノ傾向自ラ存スト雖モ其作用緩慢タルヲ免レズ變移ノ急激ナル經濟界ノ狀況ニ應ジテ其流通額ヲ伸縮シ得ルハ到底銀行券ノ如クナラズ故ニ一國ニ於テ銀行券ヲ發行スルハ貨幣ノ價值及ビ利率ヲシテ變動少ナカラシムル所以ナリトスワグナー (Ad. Wagner) 曰ク「銀行券ノ發行ハ近代信用經濟ノ組織ニ於テ必要缺クベカラザル部分ナリ」ト

斯ノ如ク其流通額ヲ伸縮シ以テ變動止ムナキ經濟界ノ需要ニ適應セシムルハ

銀行券ノ有スル最大ノ利益ニシテ其他銀行券ハ計算運搬ノ便、金銀貨幣ニ比シテ大ナルノミナラズ銀行券ノ發行ニ依リテ金貨ハ之ヲ中央銀行ニ集中セシメ以テ主トシテ信用ノ基礎及ビ對外關係ニ之ヲ利用スルコトヲ得ルナリ又銀行券ノ發行額ハ通常其正貨準備額ヨリモ大ナルモノニシテ其超過額ハ即チ金銀貨幣ヲ節約スル所以ナリトス假令發行額ト正貨準備額ト同一ナリトスルモ金銀貨幣ノ磨損ヲ防グノ效ナキニ非ザルナリ。

第二節 銀行券發行ノ集中

前述ノ如ク銀行券ハ一種ノ信用證券ニ他ナラザレバ何人ガ之ヲ發行スルモノ不
可ナキガ如シト雖モ實際流通力ヲ有スル銀行券ハ貨幣トシテ公共的性質ヲ帶ブ
ルモノニシテ其利害ハ一般經濟社會ニ波及スルモノトス彼ノ所謂「銀行說」(Banking
Principle)ヲ主張スル者ハ曰ク「銀行ハ隨意ニ其銀行券ノ發行額ヲ増加シ得ルモノニ
非ズ社會ノ需要ヲ俟テ始テ之ヲ行フコトヲ得ルモノトス若シ銀行ガ類ニ銀行券
ヲ發行シテ社會ノ需要額ニ超過スルトキハ忽チ兌換ヲ請求セラレ銀行券ハ之ヲ

發行セル銀行ニ歸リ來ルベク之ニ反シテ一銀行ガ其發行額ヲ收縮スルコトアルモ社會ノ需要額之ニ伴フテ減少セズンバ他銀行ノ發行額増加スベキナリ故ニ銀行券ノ増發ハ物價ノ騰貴、投機ノ發生ノ原因ニ非ズシテ寧ロ其結果ナリト此說タルヤ多少ノ眞理ヲ含マザルニ非ズ例ヘバ恐慌ノ後、企業心萎靡セルニ當リ銀行類ニ割引貸付ノ擴張ニ努ムルモ多クハ其目的ヲ達スルコト難ク從テ銀行券發行額ノ膨脹セザルコト「銀行說」ノ唱フルガ如シ然レドモ一旦市場活氣ヲ帶ビ商人製造家等續續事業ノ擴張ヲ計ルガ如キ場合ニハ銀行ニ對シテ資金ノ融通ヲ請求スル者大ニ増加スベク此時ニ當リテ隨意ニ銀行券ヲ發行スルヲ得ルニ於テハ一時ノ收益ノ大ナルカ爲メニ自ラ多額ノ發行ヲ試ムルハ人情ノ免レザル所ニシテ其結果物價ヲ騰貴セシメ投機ヲ獎勵スルニ至ルベキナリ而シテ一朝頓ニ兌換ヲ請求スル者相踵デ到ランニハ銀行ハ其請求ニ應ズル能ハズシテ支拂ヲ停止スルノ已ムナキニ至ルナリ蘇格蘭ノ諸銀行ハ一八四五年前ニ於テハ銀行券ノ發行ニ關シ何等法律上ノ干涉ヲ蒙ラザリシト雖モ數十年間甚シキ破綻ヲ生ゼザリシ所以ハ主トシテ蘇國人ノ性質著實ニシテ事ヲ行フニ謹慎ナルニ因ラズンバアラズ然レ

ドモ一七七二年ニエーア銀行(Ayr Bank)ナルモノ銀行券ヲ濫發シテ支拂ヲ停止スルニ至レルヲ見ルナリ更ニ英米ノ事蹟ニ徵スルニ英國ニ於テハ第十八世紀ノ後半ニ入り個人銀行ノ設立漸ク多ク而シテ各銀行自由ニ銀行券ノ發行ヲ爲シタルガ故ニ恐慌ノ襲來ニ遭遇シ一七九二年ヨリ九三年ニ互リテ破産セシモノ實ニ約百行ノ多キニ及ベリ又北米合衆國ニ於テモ往時所謂「自由銀行制度」(The Free Bank System)ナルモノ行ハレタレバ銀行券ヲ濫發シテ暴利ヲ博セントスル者簇出シ從テ其發行券ヲ引換フル能ハズシテ破産セルモノ少ナカラザリシト云フ

銀行券發行ノ全然自由ナルハ其ノ不可ナルコト前述ノ如クナルヲ以テ幾多ノ制限ヲ加フルコト必要ニシテ其主要ナルモノヲ舉グレバ第一ニ發券銀行ノ數ヲ限ルコト是ナリ而シテ之ヲ實例ニ徵スルニ歐洲ノ諸國ハ前世紀ヨリ主トシテ銀行券ノ發行ヲ一大中央銀行ニ集中スルノ制度ヲ採ルモノトス先ヅ英國ニ就テ之ヲ見ルニ蘇格蘭及ビ愛蘭ニハ各數個ノ發券銀行アレドモ英蘭及ビ威爾斯ニ於テハ今ヤ「英蘭銀行」ノミ銀行券ヲ發行シ以太利モ一九二六年七月ヲ以テ發券權ヲ以太利銀行ニ統一セリ獨逸ハ數十年來有力ナル中央銀行ヲ有シ其傍ニ四個ノ地方

的發券銀行アレドモ其規模甚ダ小ナリ而シテ一九二四年八月三十日ノ法律ヲ以テ改造セラレタル新中央銀行ハ五十年間銀行券發行ノ獨占權ヲ有スルコト、ナレリ露國ニ於テハ帝國銀行廢止セラレタルモ新設ノ國有銀行之ニ代リ埃地利、匈牙利ハ從來共同ノ中央銀行ヲ有シタリシガ今ヤ各自ニ之ヲ設ク其他佛蘭西、西班牙、白耳義、和蘭、丁抹、諾威、瑞典、瑞西等ハ多年中央銀行ヲ有シ大戰後新ニ現出セル諸國モ多クハ亦然リトス歐洲以外ニ於テモ中央銀行ヲ設クルコト次第ニ行ハレ我國ハ「國立銀行」ヲ廢シテ銀行券ノ發行ハ「日本銀行」ノ獨占ニ歸セシメ唯「臺灣銀行」ガ「臺灣ニ朝鮮銀行」ガ朝鮮ニ流通スル銀行券ヲ發行スルモノトス北米合衆國ニ至リテハ發券銀行タル「國立銀行」ノ數八千餘ノ多キニ上ルト雖モ一九一四年ニ十二ノ「聯邦準備銀行」ナルモノヲ設立シ其銀行券ヲ以テ漸次「國立銀行」ノ銀行券ニ代ハラシムルノ方針ナリトス濠洲ニ於テモ一九二〇年末ヲ以テ政府紙幣ノ事務ヲ其國有銀行ニ委託シテ事實上銀行券ノ發行ヲ獨占セシメタリシガ一九二四年ニ之ヲ全然銀行ノ管理ニ移シ而シテ同銀行モ次第ニ中央銀行ノ任務ヲ竭スニ至ルモノノ如シ南阿聯邦モ一九二一年「南阿準備銀行」ヲ新設シ次第テ銀行券ノ發行ヲ其專有

ニ屬セシメタリ

斯ノ如ク諸國ガ銀行券ノ發行ニ關シ集中制度ヲ採ルニ至レル原因ハ一ニシテ足ラズト雖モ此制度ノ長所ハ要スルニ左ノ如シ

一 銀行券ハ貨幣ノ性質ヲ有スルガ故ニ其流通ノ廣クシテ且確實ナルヲ要シ其種類モ亦雜多ナラザルヲ便トス然ルニ數多ノ銀行ヲシテ之ヲ發行セシムルニ於テハ十分ニ此目的ヲ達スルコト難シトス又社會ノ需要ニ應ジテ其流通額ノ伸縮スルハ銀行券ノ長所ナレドモ數多ノ銀行之ヲ發行スルトキハ需要ノ多少及ビ其原因ヲ識別セズシテ發行額ヲ増減スルコトアルヲ以テ往々社會一般ノ利益ニ反スルコトナキニ非ズ加之常ニ多額ノ正貨ヲ保有シテ貨幣制度ノ對外關係ヲ鞏固安全ナラシメ殊ニ利率引上等ニ依リテ正貨ノ流出ヲ防グガ如キコトハ一大中央銀行ニシテ始メテ行ヒ得ル所ナリトス

二 恐慌ノ起リタルトキ之ヲ鎮靜スルニ於テ最モ有力ナル機關ハ中央銀行ナリ蓋シ恐慌起リテ信用組織ノ破ル、ニ當リテハ普通ノ銀行ハ皆其影響ヲ被リ爲メニ預金ノ引出シ多ク往々取付ニ遭フモノアリ而シテ貸付割引ノ爲メニ支

出シタル資金ノ急速ナル回收ハ困難ナルヲ以テ自ラ窮境ニ陥ラザルヲ得ザルナリ然ルニ中央銀行ハ其信用鞏固ナルヲ以テ預金ヲ引キ出シ或ハ銀行券ノ兌換ヲ請求スルモノ甚ダ少ナク却テ他ノ銀行ヨリ引キ出シテ中央銀行ニ預ケ入ル、者アルハ實ニ英蘭銀行等ノ實驗セル所ナリ斯ノ如ク中央銀行ハ一面ニ於テ後顧ノ憂ナキノミナラズ其發行セル銀行券ハ其流通滯滞スルコトナキガ故ニ續々之ヲ發行シテ貸付割引ノ請求ニ應ジ殊ニ之ニ依リテ普通ノ銀行ヲ救済シ以テ金融界ノ崩壞ヲ防止スルヲ得ルナリ

三 各國ノ政府ガ財政上收納シ及ビ支出スル金額ハ甚ダ大ニシテ其出入亦頻繁ナラズトセズ故ニ政府自ラ出納ヲ爲スニ於テハ特別ノ機關ヲ要シ其勞費大ナルニ反シ之ヲ確實鞏固ナル銀行ニ委託スルニ於テハ其便益少ナカラズトス且政府ノ收支ハ常ニ相平均スルモノニ非ザレバ不足スルトキハ一時銀行ヨリ借入レテ急ニ應ジ餘剩ヲ生ズルトキハ銀行ヲシテ之ヲ運用セシメバ一般ノ金融ヲ圓滑ナラシムルノ效アリ諸國ノ政府ガ國庫金ノ出納事務ヲ中央銀行ニ委託スル所以ハ主トシテ上述ノ理由ニ基ヅクモノ、如シ

四

戰亂等國家危急ノ秋政府ノ財政ニ援助ヲ與ヘ又民間經濟ノ困厄ヲ救済スルニ於テ最も有力ナルハ中央銀行ニシテ一八七〇年乃至七一年ノ獨佛戰爭ニ際シ佛蘭西銀行ハ其適例ヲ示セリ當時佛蘭西銀行ノ政府貸上金ハ實ニ十五億フランニ達シ而シテ兌換停止トナレル銀行券ノ發行額ハ政府並ニ民間ノ要求ニ應ズルガ爲メニ大ニ増加セルモ用意周到以テ之ヲ行ヘルガ故ニ不換紙幣ニ發生シ易キ弊害ヲ免ル、ヲ得タリ銀行券ガ政府發行ノ兌換紙幣ニ優ル所以ハ曩ニ之ヲ述べタリシガ此差異ハ不換紙幣トナリタル時ニ於テモ依然淪ルコトナク政府發行ノ不換紙幣ハ其流通額ヲ減少スルコト頗ル困難ナルニ反シ銀行券ノ不換紙幣トナリタルモノハ主トシテ銀行ガ貸付割引ヲ行フニ當リ銀行ヨリ流出スルモノナルガ故ニ其回收亦速ニシテ必要ナル場合ニハ直ニ貸付割引ノ利子歩合ヲ引上グル等ノ手段ヲ施シ以テ其流出ヲ防止スルトキハ速ニ紙幣ノ流通額ヲ減少シ得ベシ而シテ此方法タルヤ一大中央銀行ノ敏活ナル運用ヲ埃テ始メテ其目的ヲ達シ得ベキナリ不換紙幣ノ發行ハ固ヨリ好デ之ヲ行フベキニ非ズト雖モ國家危急ノ際ニ於テハ往々避クベカラザル所ナルヲ以テ平日ニ於テ

我メ之ガ企圖ヲ爲スヲ要シ而シテ其最良方法ハ銀行券ノ發行ヲ一大中央銀行ニ集中シ上述ノ如キ場合ニ逢著セバ其ノ兌換ヲ停止シテ之ヲ不換紙幣ト爲スニ在リ一九一四年勃發ノ世界大戰ニ於テモ交戰國ノ中央銀行ガ各其政府ノ財政竝ニ一般ノ經濟社會ニ至大ノ便宜ヲ供シ有力ナル援助ヲ爲セルハ顯著ナル事實ニシテ此等ノ中央銀行ハ殆ド皆開戦ト共ニ兌換停止ヲ行ヒ「英蘭銀行」ノ銀行券ノ如キモ事實ニ於テ不換紙幣トナレリ然レドモ政府財政ノ窮迫甚シクシテ且長キニ互リ中央銀行ヲ強要シテ銀行券ヲ發行セシムルコト非常ノ巨額ニ上ルガ如キ場合ニハ政府自ラ紙幣ヲ發行スルト殆ド差違ナキナリ

第三節 中央銀行ヲ國有ト爲スノ可否

銀行券ノ發行ヲ中央銀行ニ集中スルノ制度ハ今ヤ數多ノ邦國ノ採用スル所ナルハ前述ノ如シ而シテ更ニ一步ヲ進メ銀行券ノ發行ヲ以テ國家事業ト爲シ純然タル國有銀行ヲシテ之ヲ司ラシメンコトヲ主張スル者ナキニ非ズ其說ニ曰ク「私人ノ資本ヲ以テ銀行ヲ設立スルトキハ株主ノ利害ヲ顧慮スルコト多ク社會ノ公

益ヲ圖ルノ點ニ於テ多少ノ掣肘ヲ被ルコトアルヲ免レズ故ニ純然タル國有銀行ト爲シテ十分ニ其職責ヲ盡サシムルニ若カズ「下單ニ理論ノミニ據リテ之ヲ判斷スルトキハ國有銀行ノ制度ハ甚ダ美ナルガ如シト雖モ之ヲ實際ニ徵スルトキハ却テ其然ラザルモノアルヲ見ルナリ例ヘバ瑞典ノ中央銀行ハ二百有餘年間國有ニ屬スルモ其發行セル銀行券ハ數回兌換ノ實ヲ失ヒテ其所持人ニ損失ヲ與ヘタルコトアリト云フ蓋シ中央銀行ヲ國有ト爲スハ之ヲ政府ノ一部ト爲スモノニシテ銀行ノ業務ト政府ノ財政トヲシテ過度ニ密接セシメ政府一時ノ便宜ノ爲メニ社會全般ノ利益ヲ害スルコトアリ斯ノ如ク純然タル國有銀行ガ財政上ノ壓迫ニ對シテ抵抗力ノ甚ダ弱キニ反シ資本ヲ廣ク民間ニ取り以テ其勢力ヲ加味スルトキハ上記ノ如キ弊ヲ防ギ銀行ヲシテ獨立ノ程度ヲ高メ活潑ニ其業務ヲ行ヒ以テ國民經濟ノ狀況ニ適應セシムルコト比較的容易ナリトス一八八一年ニ於ケル瑞典ノ銀行制度調査委員會ノ報告ニ曰ク「銀行ノ安全ヲ監視シ銀行ノ真正ナル效用ニ注意スルハ私人ノ關係者ニ於テ之ヲ期シ得ベキモノニシテ是レ實ニ政界不穩ノ日ニ當リ若シクハ財政困難ノ秋ニ際シ政府又ハ議院ガ提出スル無謀ノ考案ヲ

防遏シ以テ銀行及ビ社會ノ安全ノ爲メニ有力ナル保障ヲ爲スモノナリト又一八九七九年佛國ノ議院ニ於テ「佛蘭西銀行」ノ特權繼續問題ノ討議セラル、ニ當リ社會黨ハ國有說ヲ唱ヘタルモ委員會ハ報告シテ曰ク「歐洲ニ於テハ露西亞、瑞典、伯爾加里ニ國有銀行アリト雖モ以テ模範ト爲スニ足ラズ西班牙、葡萄牙及ビ希臘ノ中央銀行ノ如ク純然タル國有ナラザルモ事實上政府ニ隸屬スルモノ亦然リ」ト又當時マルセーユノ商業會議所ハ其意見ヲ發表シテ曰ク「一八七〇年ヨリ七三年ニ互リテ「佛蘭西銀行」ガ政府ノ財政ヲ救ヒ且民間ノ商業ヲ助ケ得タルハ其國家ヨリ特權ヲ付與セラル、ニ拘ラズ獨立自由ノ機關ニシテ政府ノ勢力範圍外ニ立チシヲ以テナリ」ト次デ一八九九年ノ獨逸帝國議會ニ銀行法改正案ノ現ル、ヤ「帝國銀行」ノ株式ヲ悉皆買上ゲ業務ノ經營上私人ノ關係ヲ全廢センコトヲ主張セル者アリシト雖モ各聯邦政府ハ政治上、經濟上及ビ財政上ノ諸點ヨリ斷然國有說ニ反對スルコトヲ政府委員ハ明言セリ而シテ其設立ノ比較的近時ニ屬スル瑞西ノ中央銀行モ亦株式會社ノ組織ヲ採用セルハ蓋シ理由ナキニ非ザルナリ

然リト雖モ銀行券ノ發行ハ社會全般ノ利害ニ鑑ミテ加減ヲ爲スベキモノナル

ガ故ニ中央銀行ヲ以テ純然タル私立銀行ト爲シ政府毫モ之ニ關係セザルガ如キハ亦極端ニ馳スルモノニシテ危險ノ伴フヤ明ナリ或ハ曰ク「英蘭銀行ノ如キハ役員ノ任命等少シモ政府ノ干涉ヲ被ラズト雖モ能ク其責任ヲ盡スニ非ズヤ」ト是レ實ニ英國國民ノ性質英國社會ノ狀態ノ然ラシムル所ニシテ他國ニ於テモ必ズ同一ノ結果ヲ得ルモノト謂フベカラズ是ヲ以テ歐洲大陸ノ中央銀行ハ何レモ多少政府ノ干涉監督ヲ被ラザルナシ例ヘバ從來ノ獨逸中央銀行ハ其資本ヲ私人ヨリ募集セルモ株主ガ銀行ニ關係セルハ株主總會ト株主中ヨリ選舉セル十八名ノ中央委員ナルモノトニ依ルニ過キズ銀行ノ監督權ハ政府ニ屬セルモ銀行ノ最高機關ハ理事會ニシテ總裁及ビ若干名ノ理事ヨリ成レリ而シテ總裁ハ理事會及ビ中央委員ニ諮詢シ參議院ノ提議ニ依リテ大統領之ヲ任命シ理事ハ中央委員ニ諮詢シ理事會ノ提議ニ依リ參議院ノ協賛ヲ經テ大統領之ヲ任命ス共ニ終身在職トセリ總裁理事ヲ始トシテ職員ハ總テ官吏ノ權利及ビ義務ヲ有シ而モ銀行ノ株主タルヲ得ザリシナリ之ニ加フルニ銀行ノ計算ハ會計検査院ノ監査ヲ經ルモノトナセリ一

九二四年ニ改造セラレタル新中央銀行ハ私立ニシテ而モ政府ノ干涉ヲ受ケザルモ

ノト爲シ總裁其他ノ役員ハ總テ獨逸人ナレドモ「監事會」(General Board)ニハ多數ノ外國人ノ參加スルアリテ一種ノ異例的組織ト謂フベキナリ「佛蘭西銀行」ニ於テハ總裁及ビ二名ノ副總裁ハ大藏卿ノ上申ニ依リ大統領ノ任命スル所ニシテ「和蘭銀行」ニ於テモ總裁ト書記役トハ國王ノ任命スル所タリ又白耳義中央銀行ノ總裁副總裁ハ國王之ヲ任命シ且政府ニ監督官ヲ設ケ特ニ銀行券ノ發行ト割引業務トヲ監督セシムト云フ我國ニ於テモ「日本銀行」ノ總裁副總裁ハ政府ノ任命スル所ニシテ理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命ズルモノトス加之大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ「日本銀行」ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムルナリ他ノ諸國ニ於テモ中央銀行ハ多クハ株式組織ニ成ルト雖モ殆ド政府ノ監督ヲ被ラザルナク其間ニ寬嚴ノ差アルノミ

中央銀行ノ國有制度ヲ主張スル者ハ又曰ク「正貨ヲ準備セズシテ銀行券ヲ發行スルハ無利息ノ資金ヲ借入レテ之ヲ貸付クルニ異ラズ其利益ヤ大ナリ而シテ銀行券ノ發行ヲ中央銀行ノ獨占ト爲スニ於テハ一私立會社ノ株主ノミ其利益ヲ享有スベキモノニ非ズ宜シク純然タル國有銀行ト爲シ之ヲ國庫ニ歸スベキナリ」ト

此說タルヤ正當ニシテ之ニ反對スルヲ得ズト雖モ國有ハ前述ノ如ク他ノ點ニ於テ既ニ不可ナルガ故ニ此論據ヲ以テ之ヲ編スヲ得ズ況ヤ他ノ方法ニ依リ其利益ヲ國庫ニ配當シ得ベキニ於テヤ例ヘバ從來ノ獨逸中央銀行ハ創立以來利益ノ一部ヲ國庫ニ收ムルノ制ヲ設ケタリシガ法律ノ改正アル毎ニ國庫配當ノ割合ヲ高メ一九一一年以後ニ於テハ資本金ノ三分五厘ニ相當スル金額ヲ通常配當金トシテ株主ニ付與シ殘餘ノ四分ノ一ヲ株主ニ配當シ四分ノ三ヲ國庫ニ收ムルモノトセリ一九二四年ノ新銀行法モ略ボ同一ノ方法ヲ取り銀行ノ利益大ナル場合ニハ國庫ヘノ配當著シク増加スルモノトス又英蘭銀行ハ一九二八年七月ノ法律ニ依リ銀行券發行ヨリ生ズル利益ヲ國庫ニ納入スルコト、ナレリ其他瑞西、和蘭、白耳義等ノ中央銀行モ其利益ヲ國庫ニ分配スルコト少ナカラザルナリ我「日本銀行」モ銀行券發行ニ對シテ一種ノ稅ヲ納ムルモノニシテ即チ明治三十二年ノ「日本銀行納稅ニ關スル法律」ニ曰ク「日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ依リ發行スル兌換券ノ每一個月ノ平均發行高ニ對シ其ノ發行稅トシテ一個年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ政府ヘ納稅スベシ但政府ノ特命ニ依リ一個年千

分ノ十若ハ其ノ以内ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他へ貸付タル兌換券ニ對シテハ其納稅義務ヲ免除ス下斯ノ如ク利益ヲ分配シ又ハ租稅ヲ上納スル以外ニ諸種ノ義務ヲ負擔スルモノ少ナカラズ其主ナルモノハ無手数料ヲ以テ國庫金ノ出納事務ヲ取扱フコトニシテ例へバ獨逸中央銀行「和蘭銀行」ノ場合ノ如シ日本銀行モ亦然リトス

以上述べタル所ニ依リテ中央銀行國有ノ可否ハ既ニ明白ナレドモ歐洲諸國ニ於テハ國際法上ノ關係ヨリ國有ノ不可ヲ唱へタル者アリ其理由ニ曰ク中央銀行ヲ以テ國有ト爲ストキハ敵軍侵入ノ際銀行ノ資産ハ敵國ノ沒收スル所トナルト一八七〇年乃至七一年ノ獨佛戰爭ノ際ストラスブルグ及ビメツツニ於ケル佛蘭西銀行ノ支店ハ一時獨逸軍ノ占領スル所トナリシモ國際法ノ原則ニ依リ獨逸ハ後日其沒收セル資産ヲ返還セリ是ヲ以テ一八九九年銀行法改正案ノ獨逸議會ニ提出セラルルヤ帝國銀行株主ノ利益配當最高額ヲ六分ニ限ルベシトノ說アリシモ是レ銀行ニ國有ノ性質ヲ與へ從テ外國ト開戦ノ際國際法ノ保護ヲ失フ所以ナリトシテ遂ニ之ヲ採用セザリシト云フ然レドモ世界大戰ニ於ケル國際法ノ實效ニ

鑑ミルトキハ上述ノ理由ハ現今ニ於テハ有力ナルモノト謂フヲ得ザルナリ之ヲ要スルニ銀行券ノ發行ヲ中央銀行ニ集中シ而シテ中央銀行ノ性質私立ニシテ大體株式會社組織ナルハ今日歐洲諸國ニ於テ一般ニ行ハルル制度ニシテ我「日本銀行」モ其一例ナリトス近時ニ至リ民間普通ノ銀行ヲ以テ其株主ノ全部又ハ大部分タラシムル制度出現セリ米國ノ「聯邦準備銀行」又ハ「南阿準備銀行」ノ如キ即チ是ナリ

第四節 銀行券兌換準備ノ制度

銀行券ハ兌換ノ實ヲ備フルヲ以テ常則ト爲スコト曩ニ述べタルガ如クニシテ從來諸國ノ銀行法ハ特ニ之ヲ重要視シ從テ嚴重ナル制限ヲ設ケテ兌換ノ確實ヲ保障スルモノ多シ惟フニ中央銀行ノ銀行券ノ如キハ假令兌換停止セララルモ流通滯スルコトナカルベシト雖モ輸出ニ要スル金ノ獲得ヲ容易ナラシメ以テ貨幣ノ對外價值ヲ維持セシムルニハ兌換ノ實行ハ極メテ重要ニシテ一國ニ於ケル諸種ノ貨幣ノ間ニ價值ノ差違ヲ生ゼザラシムルガ爲メニモ亦然リトス而シテ我

「日本銀行」ノ兌換準備ニ關スル規定ハ模範ヲ主トシテ當時ノ獨逸中央銀行ニ取リ
獨逸中央銀行ハ制度ノ骨子ヲ「英蘭銀行」ニ求メタルモノナルヲ以テ先ヅ「英蘭銀行」
ニ就テ述ベント欲ス

「英蘭銀行」

「英蘭銀行」(The Bank of England)ハ一六九四年ニ設立セラレタレドモ法律ヲ以テ
兌換準備ヲ規定セルハ一八四四年ナリトス是ヨリ先キ英國ノ經濟界ハ數回ノ
恐慌ニ遭遇シ而シテ「英蘭銀行」其他ノ銀行ノ銀行券増發セラレテ往々投機ヲ誘
發セルノ觀アリシガ故ニ一派ノ論者ハ曰ク「縱令銀行券ヲ發行スルモ大ニ制限
ヲ加ヘ其増減ハ全ク正貨ノ増減スルガ如クナラザルベカラズ即チ正貨流出ス
ルトキハ其價值騰貴シ物價下落スルガ故ニ輸出増加シテ正貨再ビ流入シ以テ
自ラ價值ノ平衡ヲ保ツモノナリ故ニ銀行券ヲ發行スルモ其増減ハ正貨ト同一
ノ步調ヲ取り以テ前述ノ作用ヲ妨グベカラズ」ト是レ即チ所謂「通貨説」(Currency
Principle)ナルモノナリ蓋シ此説ニ於テハ預金即チ小切手ガ貨幣ト同一ノ作用ヲ
爲シ以テ物價ニ影響スルコト少ナカラザルノ事實ヲ看過忘却シ單ニ正貨ト銀

行券トノミヲ以テ物價ヲ左右スルモノト爲スナリ今日ニ於テハ何人モ其誤謬
ヲ知ルト雖モ當時此説ハ有力ナル人士ノ唱道セル所ニシテ首相サー・ロバート・
ピール(Sir Robert Peel)之ヲ議院ニ提出シテ遂ニ法律ト爲セリ是レ即チ此法律ヲ
ピール條例ト稱スル所以ナリ茲ニ於テ「英蘭銀行」ヲ「銀行部」(Banking Department)ト發
券部(Issue Department)トニ分チ銀行券ノ發行ハ「發券部」ノ司ル所ニシテ正貨準備ヲ
要セザル銀行券ノ最高發行額ヲ一千四百萬磅ト定メ而シテ此發行額ニ對シテ
ハ之ト同額ノ國債(從來ノ政府貸上金ヲ含ム)ヲ保證トシテ「發券部」ニ保管シ此額
ヲ超過シテ銀行券ヲ發行スルトキハ必ズ同額ノ金銀ヲ以テ兌換準備ニ充ツベ
シト規定セリ英蘭及威爾斯ノ銀行ニシテ當時銀行券ヲ發行セシ者ハ其額ヲ限
定シテ引續キ發行スルコトヲ許セシモ其發行權ヲ失フトキハ其發行認許額ノ
三分ノ二ヲ「英蘭銀行」ニ與フルコトヲ定メタルヲ以テ前記ノ一千四百萬磅ハ爾
來漸次ニ増加シ一九〇三年以後ハ一千八百四十五萬磅ナリシガ發券權ヲ有ス
ル銀行遂ニ全ク其跡ヲ絶チタルガ故ニ一九二三年二月ヲ以テ一千九百七十五
萬磅ト爲セリ又正貨準備ハ五分ノ一ヲ限り銀ヲ以テスルコトヲ許スモ一八五

三年以後ニ於テ若干ノ銀ヲ用キタルハ一八六〇年及六一年ノミナリト云フ斯ノ如ク正貨準備ヲ要セズシテ發行シ得ル最高額ヲ確定シ而シテ此最高額ハ從來ノ經驗ニ依リ國民ノ日常必要ト爲ス所ニシテ絶エズ民間ニ流通シ從テ兌換ノ請求ナキモノト見做シ得ルヲ以テ縱令正貨準備ヲ有セザルモ危險ヲ感ゼザルナリ而シテ此額ヲ超ユルトキハ必ズ正貨ヲ準備スルモノニシテ何時ニテモ兌換ノ要求ニ應ジ得ベキガ故ニ一八四四年ノ銀行條例ハ兌換ノ確實ヲ保障スルニ於テハ其目的ヲ達シタルモノ、如シ然レドモ恐慌ヲ豫防スルノ計畫ハ全ク豫期ニ反シ當ニ其效ヲ奏セザリシノミナラズ却テ其缺點ヲ曝露スルニ至レリ蓋シ恐慌ノ起ルニ際シテ之ヲ鎮靜スルノ方法ハ利率ヲ引キ上グルト共ニ進デ貸付割引ノ請求ニ應ズルニ在リトス然ルニ「英蘭銀行」ハ前述ノ如ク正貨準備ヲ要セザル銀行券ノ發行額ニ超ユベカラザル制限アリシガ故ニ一八四七年十月恐慌ノ起ルヤ鎮靜ノ策ヲ施ス能ハズ政府ハ已ムヲ得ズ銀行條例違反ノ場合ニハ責任ヲ負フコトヲ約シテ制限外ノ發行ヲ勸告セリ而シテ此報一度世上ニ傳ハルヤ恐慌ハ忽チ其跡ヲ收メリ其後一八五七年並ニ一八六六年ノ恐慌ニモ政

府「英蘭銀行」ニ許スニ制限外ノ發行ヲ以テシ而シテ二回共ニ銀行條例停止ノ報ヲ得テ人心忽チ平穩ニ歸シ一八六六年ニモ一八四七年ト同ジク實際制限外ノ發行ヲ爲サハリジト云フ以テ此條例ノ規定強硬ニ過ギテ變通ノ自在ヲ缺キ却テ恐慌ヲ激成スルノ傾向アルヲ見ルナリ是ヲ以テ後年獨逸帝國ノ銀行法ヲ制定スルヤ「ビール」條例ニ倣ヒ正貨準備ヲ要セザル發行額ニ制限ヲ設ケタルモ法律ニ違反セズシテ制限外發行ヲ爲シ得ルコト、爲セリ又英國ニ於テモ一四一四年世界大戰ノ勃發ニ際シ倫敦ノ金融市場ハ激烈ナル恐慌状態ニ陥レルヲ以テ政府ハ八月一日「英蘭銀行」ニ對シテ違法的ノ制限外發行ヲ認許シ次デ八月六日制定ノ「紙幣及銀行券條例」(Currency and Bank Notes Act)ニハ適法ノ制限外發行ニ關スル一條ヲ設ケリ即チ「英蘭銀行」並ニ蘇格蘭及ビ愛蘭ノ發券銀行ハ大藏省ノ許可ヲ得テ其命ズル條件ニ依リ法定ノ制限ヲ超エテ銀行券ヲ臨時ニ發行シ得ルコト、ナレリ而シテ「英蘭銀行」ハ八月七日及ビ八日ノ兩日此規定ニ依レル發行ヲ爲セリト云フ爾後「英蘭銀行」ノ銀行券流通額ハ非常ニ増加シ政府紙幣ノ發行額ハ殆ド之ニ二倍スルニ至レリ而シテ兩者共ニ法律上ニハ金貨兌換停止

セラレザリシモ事實上不換紙幣トナリシガ一九二五年ニ至リ「金本位條例」(The Gold Standard Act, 1925)制定セラレ之ニ依リテ政府紙幣並ニ「英蘭銀行」ノ銀行券ハ金貨兌換停止セララルト共ニ此等ノ法貨ヲ提供スル者ニ對シ「英蘭銀行」ハ十二分ノ十一品位ノ金ニ「オンス」ニ付キ三磅十七志十片半ノ割合ヲ以テ一口四百「オンス」約千七百磅ノ地金ヲ賣渡スコト、ナレルヲ以テ二種ノ紙幣ハ事實上金地金兌換トナレリ又金貨ノ自由鑄造ハ「英蘭銀行」ニノミ之ヲ許可スルコト、ナレルモ同行ガ金ノ提供ニ對シ上記ノ品位ニ「オンス」ニ付キ三磅十七志九片ノ割合ヲ以テ之ヲ買入ルルノ義務ハ從來ノ如ク存スルヲ以テ英國ノ貨幣制度ハ所謂「金地金本位制」(The Gold Bullion Standard)トナレリ次デ「一九二八年ノ紙幣及銀行券條例」(The Currency and Bank Notes Act, 1928)ナルモノ制定セラレ政府紙幣ハ之ヲ「英蘭銀行」ニ移シテ同行ノ銀行券ト看做スコト、ナリ「英蘭銀行」ノ發券制度モ若干ノ變更ヲ加ヘラレタリ即チ第一ニ「英蘭銀行」ハ其「發券部」ニ現存スル金貨及ビ金地金ト同額ノ銀行券ヲ發行シ得ルモノトス第二ニ金準備以上ニ二億六千萬磅マデハ發券スルコトヲ得ルモノニシテ此限度ハ「英蘭銀行」ノ要求ニ依リ大藏

省ノ定ムル期間之ヲ減額スルコトヲ得ルモノトス第三ニ前記ノ發行ニ對シテハ十分ナル價值ヲ有スル保證準備ヲ「發券部」ニ保有スルコトヲ要シ此準備ニハ銀貨五百五十萬磅ヲ包含セシムルコトヲ得ルナリ第四ニ二億六千萬磅ヲ超ヘテ保證發行ノ必要アルトキハ大藏省ハ「英蘭銀行」ノ具申ニ依リ六個月以内ノ期間ニ於テ其額ヲ定メテ増發ヲ許可シ得ルモノトス而シテ此増發ハ時々之ヲ更新シ又之ヲ變更スルコトヲ得レドモ議會ノ決議ナルニ非ザレバ二個年ヲ超ユルヲ得ザルナリ第五ニ「英蘭銀行」ハ今後一磅並ニ十志ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得ルコト、ナレリ之ヲ約言スレバ正貨準備ニ依ル發行ヲ原則トスルコトハ「ピール條例」ニ同ジキモ政府紙幣ノ合同ノ爲メニ保證發行ノ限度非常ノ巨額トナリ而シテ必要ナル場合ニ之ヲ超ヘテ更ニ増發シ得ルコトハ一九一四年ノ法律ニ類似スルナリ一磅並ニ十志ノ銀行券ヲ發行スルコト、ナレルハ漸次政府紙幣ヲ引上ゲテ之ニ代ハラシムルガ爲メニシテ此規定ト地金兌換トハ共ニ金貨ノ流通ヲ防止スルノ目的ニ出ヅルモノ、如シ

獨逸中央銀行及ビ「日本銀行」

獨逸帝國ノ建設セラレ、ヤ同國政府ハ直ニ貨幣制度及ビ發券銀行制度ノ整理統一ヲ圖リ一八七三年ヲ以テ金本位制ニ移リ一八七五年ニ發券銀行ニ關スル法律ヲ制定セリ是ヨリ先キ獨逸ノ諸邦ニ於テ發券ノ權利ヲ有セル銀行ハ其數三十三、皆各邦政府ノ許可ヲ經テ設立セルモノニシテ發行額、兌換準備等ノ規定其授ヲ一ニセズ銀行券ノ種類多數ニシテ世人ハ其甄別ニ苦シメリ而シテ戰後佛國ヨリ巨額ノ債金流入スルト共ニ諸銀行ノ發券額モ亦非常ニ増加シ以テ當時物價ノ急激ナル騰貴ノ一因ヲ成セリ是ヲ以テ貨幣制度ニ伴フテ發券銀行制度ヲ統一スルハ當時獨逸ニ於ケル急務ノ一ニ屬シ帝國政府ハ一八七四年十一月ヲ以テ銀行法案ヲ議會ニ提出セリ然レドモ此法律案ハ中央銀行ニ關シテハ何等ノ規定ヲ有セズ而シテ議院ノ多數ハ之ガ設立ヲ熱心ニ冀望セルガ故ニ政府ハ之ニ應ジテ法律案ヲ變更シ以テ一八七五年ノ銀行法ヲ見ルニ至レリ即チ此法律ニ依リ多年成立セル「普漏西銀行」(Preussische Bank)ヲ繼承シテ「ライヒス、バンク」(Reichsbank)ト稱シ以テ帝國ノ中央銀行ト爲セリ然レドモ發券ノ權利ハ他ノ三十二ノ銀行モ之ヲ保有シ而シテ是等ノ銀行ガ發行シ得ベキ銀行券ノ總額

ニ關シテハ制限ヲ設ケズト雖モ正貨準備ヲ有セズシテ發行シ得ベキ總額ヲ三億八千五百萬「マルク」トシ其内二億五千萬「マルク」ヲ中央銀行ニ其餘ヲ他ノ三十二行ニ分配シ此制限以上ニ銀行券ヲ發行セントスルトキハ必ズ同額ノ正貨ヲ備フベキモノト爲セリ茲ニ正貨ト稱スルハ獨逸國ノ貨幣、政府紙幣、他銀行ノ銀行券、金地金並ニ外國金貨ヲ包含スルモノニシテ必要ノ場合ニ臨ミ此正貨準備ヲ有セズシテ制限以上ノ銀行券ヲ發行スルトキハ其超過額ニ對シテ年五分ノ稅ヲ政府ニ納ムベキモノトセリ斯ノ如ク正貨準備ヲ有セズシテ發行シ得ベキ總額ヲ制限セルハ英國ノ「ピール」條例ニ倣ヘルモノナレドモ同條例ガ數回停止セラレタルニ鑑ミ右述ノ如キ制限外發行ノ方法ヲ設ケリ是レ即チ英國從來ノ制度ニ比シテ伸縮力ヲ有スル所以ニシテ「ジ・ウ・オ・ス」(G. J. Evans)ハ之ヲ名ヅケテ「伸縮的制限法」(The Elastic Limit Method)ト稱セリ之ニ加フルニ獨逸ノ銀行法ハ從前獨逸ノ諸邦ニ行ハレタル所謂「比例準備法」(The Proportional Reserve Method)ヲモ採用シ即チ發券銀行ハ總テ其發行セル銀行券ノ總額ニ對シテ少ナクトモ三分ノ一ニ相當スル正貨、茲ニ正貨ト稱スルハ獨逸國ノ貨幣、政府紙幣、金地金、外國金貨幣

ヲ指ス者ニシテ他銀行ノ銀行券ハ之ヲ包含セズヲ保有シ殘額ニ對シテハ支拂期限三個月以内ニシテ通例三名少ナクトモ二名ノ確實ナル支拂義務者ヲ有スル割引手形ヲ保有スベキモノトセリ爾來發券銀行ハ四行ヲ除クノ外皆其發券權ヲ拋棄シ而シテ其保證發行額ハ之ヲ中央銀行ニ附與スルノ規定ナリシヲ以テ其所謂無準備發行額ハ漸次ニ増加セシモ一八九九年ノ銀行法改正ニ際シ一躍シテ四億五千萬マルクノ巨額トナリ一九〇九年ノ法律改正ニ依リ一九一一年以後ハ増額シテ五億五千萬マルクト爲シ且三月六月九月及ビ十二月ノ末日此日ノ發行額ヲ以テ當月最終週間ノ課稅標準トスニハ更ニ二億マルクヲ加ヘテ七億五千萬マルクヲ制限ト爲セリ而シテ一九一四年戰亂ノ勃發スルヤ八月四日ヲ以テ銀行券ノ兌換停止ヲ確認シ制限外發行及ビ其課稅ニ關スル規定ヲ一時廢止シ支拂期限三個月以内ノ國庫債券ヲ手形ト同ジク保證物件ト爲セリ又數多ノ貸附金庫(Darlehnskassen)ナルモノヲ設ケ其發行ニ係ル貸附金庫券(Darlehnskassenschein)ハ政府紙幣ノ如ク正貨準備ニ供スル事ヲ得セシメタリ爾後銀行券發行額ノ膨脹スルト共ニ金準備ハ次第ニ減少シテ所謂三分ノ一準備ハ有名無

實トナリシガ遂ニ一九二一年四月ニ至リ一時此規定ヲ廢止スルコト、ナレリ我日本銀行ノ兌換準備ニ關スル規定ハ大體ニ於テ其範ヲ獨逸ノ制度ニ採リタルモノナレドモ創立ノ初ニ於テハ全ク相異リ又今日ト雖モ徹頭徹尾同一ナルニ非ズ明治十五年日本銀行ノ設立セラレ、ヤ其目的ハ銀行券ノ發行ヲ獨占セシムルニ在リシト雖モ當時不換紙幣世上ニ汎濫シテ其價值著シク下落セシヲ以テ銀行券ノ發行ヲ躊躇シ紙幣ノ整理其緒ニ就キ價值漸ク上騰セルヲ埃チテ兌換銀行券條例ヲ制定シ明治十八年五月始テ日本銀行ヲシテ其銀行券ヲ發行セシメタリ而シテ兌換準備ノ規定ハ甚ダ簡單ニシテ同條例第二條ニ曰ク日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツベシト爾後政府紙幣及ビ國立銀行紙幣ノ流通減少シ日本銀行ノ發行券増加スルニ及ビ明治二十一年ヲ以テ兌換銀行券條例ヲ改正シ以テ現行制度ノ基礎ヲ置ケリ其第二條ニ曰ク日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及ビ地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツベシ日本銀行ハ前項ノ外特ニ七千萬圓ヲ限り政府發行ノ公債證書、大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行

券ヲ發行スルコトヲ得、日本銀行ハ市場ノ景況ニ因リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ經テ第二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシテ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行高ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラザル割合ヲ以テ發行稅ヲ收^スヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ムト此條文中第一項ノ準備ヲ普通ニ「正貨準備」ト呼ビ而シテ第二項ニ據ル發行ヲ「保證發行」ト稱シ第三項ニ據ルモノヲ「制限外發行」ト名ヅク故ニ此制度ニ於テハ正貨準備ヲ原則トシ特ニ一定ノ金額ヲ限リテ保證發行ヲ爲スコトヲ認メ更ニ必要ナル場合ニハ制限外發行ヲ許可スルモノニシテ即チ大體ニ於テ獨逸ノ制度ニ類似スルモノトス而シテ明治二十三年ニ至リ金融大ニ逼迫ヲ告ゲ同年三月遂ニ制限外發行ヲ爲シ其額五十萬圓ニ上レリ茲ニ於テ保證發行極度額ノ少ナキヲ感ジ同年五月ノ勅令ヲ以テ一千五百萬圓ノ増加ヲ爲シ總額ヲ八千五百萬圓ト爲セリ降テ明治三十年十月一日ヨリ金本位ノ貨幣法施行セラル、ヤ「日本銀行」ノ銀行券モ亦金貨ヲ以テ兌換スルモノトシ兌換準備ニ供セラル、銀貨及ビ銀地金ハ正貨

準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルヲ得ズト規定セリ次デ明治三十二年三月保證發行極度額ヲ一億二千萬圓ニ擴張スルト同時ニ前節ニ述ベタル「日本銀行納稅ニ關スル法律」ノ制定ヲ見ルニ至レリ

以上縷述セルガ如キ本邦及ビ獨逸ノ「伸縮的制限法」ガ英國ノ「ピール」條例ニ比シテ優ルコトハ固ヨリ言フヲ埃タズト雖モ之ヲ以テ無比ノ良制度ト爲スハ稱賛當ヲ過グルモノト謂フベキナリ蓋シ此制度ヲ採用セルニ際シ兩國ノ立法者ハ伸縮的制限ヲ以テ極テ巧妙ナル作用アルモノト爲シ銀行券ハ此制限ヲ超エテ一時増發セラル、コトアルモ市場ノ金利低落スルト共ニ敢テ政府ノ命令ヲ要セズ銀行ハ自己ノ利害ヨリ打算シテ之ヲ收縮スベキヲ以テ銀行券ハ市場ノ情況ニ應ジテ自動的 (automatically) ニ増減スベキコトヲ想像シ而シテ制限外發行ナルモノハ非常ニ應ズル最後ノ手段ニシテ銀行ガ制限外發行ヲ爲スヤ必ズ其利率ヲ稅率以上ニ引上グルコトヲ豫期セルナリ然レドモ之ヲ日獨兩國ニ於ケル事實ニ徵スルニ此立法ノ趣旨ハ殆ド沒却セラレタリト云フモ過言ニ非ズ即チ我「日本銀行」ガ明治二十七年以來制限外發行ヲ爲サザリシ年度ハ明治三十六

年ノミニシテ獨逸中央銀行モ亦一八八一年以來頻繁ニ制限外發行ヲ行ヘリ若シ夫レ「伸縮制限法」ノ骨子タル保證發行制限額ニシテ理想的ニ決定スルコトヲ得バ甚ダ可ナレドモ是レ殆ド不可能ニ屬スルモノニシテ決定ノ當時ニ於テハ縱令社會ノ需要ニ適應スト雖モ數年ヲ出デズシテ權衡ヲ失スルノミナラズ一箇年間ニ就テ之ヲ見ルモ貨幣ノ需要額ハ往々著シキ差異ヲ現ハスモノナルガ故ニ銀行券ノ流通額ヲシテ克ク社會ノ需要ニ適應セシメント欲セバ制限外發行ノ出現已ヲ得ザルノミナラズ是レ實ニ銀行券ヲシテ其長所ヲ發揮セシムル所以ナリトス「比例準備法」ノ機械的ニ失スルハ往々人ノ唱フル所ナリト雖モ保證發行額ノ制限モ亦機械的タルヲ免レズ此機械的規定ヲ以テ變移極リナキ活世界ニ適應セントセバ制限超過ノ發生ハ怪ムニ足ラザルナリ獨逸中央銀行ノ當局者ハ曰ク「銀行券兌換ノ安全ナルヤ否ヤヲ定ムルモノハ無準備發行額ノ多少ニ非ズシテ正貨ト發券額トノ割合否ナ正貨ト即時辨濟スベキ性質ノ債務全部トノ比例如何ニ在ルハ言フヲ埃タズ中央銀行ノ割引政策ニ關シテ注意スベキハ銀行ニ對シテ發生スル資金需要ノ數量ニ非ズシテ其性質ナリトス……」

故ニ制限外課税ノ制度ハ帝國銀行ノ割引政策ニ對シテ極テ一般的ナル繩規ヲ供シタルノミ此制度ニ依頼シテ瞬時モ注意ト警戒トヲ廢スルヲ得ズ即チ各種ノ事情ヲ審査シタル結果、發券額未ダ制限ニ達セザル場合ニモ著シク割引歩合ヲ引キ上ゲザルヲ得ザルコトアリシト共ニ五分以下ノ利率ヲ持續シテ制限外發行ヲ爲シ得タルコトナキニ非ズ此場合ニハ課税ト利息トノ差違ハ、銀行之ヲ負擔セリ」下是レ實ニ同銀行多年ノ方針ヲ表白セルモノニシテ中央銀行タルモノ、態度トシテ間然スル所ナク之ヲ要スルニ獨逸中央銀行ノ當局者ハ立法ノ趣旨ヲ殆ド無視シタル行動ヲ爲シテ始テ其職責ヲ竭スコトヲ得タルモノト謂フベキナリ

（曩ニ述べタルガ如ク本邦ノ制度ハ獨逸ノ制度ト全然同一ナルニ非ズ而シテ差異ノ最モ顯著ナルハ獨逸ニ於テハ所謂「三分ノ一準備法」ヲ設クルニ當リ我國ニ於テハ此規定ヲ採ラザリシコト是ナリ蓋シ「比例準備法」ノ起原ハ獨逸ニ在ラズシテ却テ英國ニ存スルモノ、如シ即チ「英蘭銀行」ノ當局者ハ預金及ビ銀行券發行額ノ三分ノ一ニ相當スル正貨ヲ準備スルヲ以テ多年業務ノ原則ト爲シ而

シテ一八三二年乃至四〇年ノ議院調査會ニ於テ此原則ノ必要ヲ唱ヘタルヲ以テ獨逸其他ノ諸邦ニ於テハ之ヲ法律ニ明記セルモノトス此比例準備法ハ銀行券ノ發行ニ機械的制限ヲ加ヘ以テ中央銀行ノ行動ヲ制肘スルモノトシテ之ヲ非難スルモノ少ナカラズ單ニ理論上ヨリ之ヲ見レバ論者ノ言ノ如シト雖モ實際ニ徵スルトキハ必ズシモ然ラザルナリ曩ニ述ベタルガ如ク獨逸中央銀行ノ制限外發行ガ立法者ノ豫期ニ反シテ其發現頻繁ナルニ當リ三分ノ一準備ノ制限ニ至リテハ創立以來一回モ之ヲ破リタルコトナク一九〇七年米國恐慌ノ餘波ヲ受ケテ少シク危險ノ状態ヲ呈シタルコトアリシモ幾許ナラズシテ之ヲ脱スルコトヲ得タリ又一九一四年八月以來兌換ヲ停止シ制限外發行並ニ其課税ニ關スル規定ハ一時之ヲ無効ト爲シタルニ拘ラズ三分ノ一準備ノ制度ハ一九二一年マデ之ヲ存セリ一八七五年銀行法制定ノ當時二分ノ一準備ヲ主張セル者アリシガ遂ニ三分ノ一準備ニ決定セル理由ハ他ニ非ズ銀行當局者ハ絶エズ制限ニ近ヅクコトヲ恐ル、ガ故ニ二分ノ一ト爲ストキハ正貨準備ハ常ニ銀行券發行額ノ六七割ニ上ルベク三分ノ二ト規定スルモ事實上二分ノ一ノ結果ヲ生

ズベキガ故ニ法律ニ於テハ三分ノ一準備ヲ以テ可ナリト爲セルナリ大戰前既ニ獨逸ニ於テハ伸縮的制限法ハ勿論三分ノ一準備法ヲモ廢止スベシト主張セル者アリ佛蘭西銀行ガ法律上何等ノ拘束ナキニ拘ラズ巨額ノ正貨ヲ有セルニ鑑ミレバ當時獨逸中央銀行ノ場合ニ於テハ三分ノ一準備法ノ廢止不可ナカリシガ如シト雖モ日本銀行ノ兌換準備ニ關スル法規ヲ全廢スルハ尙ホ早シトス然レドモ伸縮的制限法ハ實效ナキコト上述ノ如クナルガ故ニ之ヲ撤廢シ比例準備法ヲ用ウルト共ニ發行總額ヲ限定スルヲ以テ適當トナスナリ蓋シ比例準備法ノミナルトキハ正貨ノ保有額非常ニ多キ場合ニ發券額ノ過度ナル膨脹ヲ來タスコトナキニ非ザレバナリ而シテ準備ノ比例並ニ發行總額ノ限度モ絶對的ナルトキハ非常ノ際銀行ノ必要ナル活動ヲ妨グルコトアルガ故ニ勅令ヲ以テ一時之ヲ變更シ得ルガ如キ規定ヲ設クルヲ要スルナリ

〔保證物件ノ内容ニ關シテモ日獨ノ制度ハ多少ノ差異ナキニ非ズ即チ獨逸ニ於テハ割引手形一九一〇年以後ハ小切手ヲモ包含ス又一九一四年八月ノ戰時法律ニ依リ短期ノ國庫債券ヲモ追加セルコト曩ニ述ベタルガ如シト雖モ是レ固ヨリ臨時ノ處置ナリトスノミヲ用キ我國ニ於テハ手形以外ニ政府發行ノ公

債證書大藏省證券等ヲモ保證物件ト爲スコトヲ得ルモノニシテ二者相比ブルトキハ獨逸從來ノ制度ヲ以テ優レリトセザルヲ得ズ何トナレバ小切手ハ勿論短期ニシテ確實ナル手形ハ支拂期日ノ滿了ト共ニ正貨ノ流入若シクハ銀行券ノ回收ヲ來タスモノナルガ故ニ短少ノ時日ヲ以テ正貨準備ヲ増加シ若シクハ銀行券ノ流通額ヲ減少シ得ルノ便甚ダ大ナルニ反シ公債證書ノ如キハ銀行特ニ之ヲ買入レ若クハ賣却スルニアラザレバ其額ヲ増減スルヲ得ザレバナリ然レドモ手形ノミヲ以テ保證物件ニ充ツルハ真正ナル商業手形ノ未ダ十分ニ潤澤ナラザル我國ノ今日ニ於テ之ヲ實行スルヲ得ザルヲ以テ公債等ヲ併用スルハ蓋シ已ヲ得ザルベシ

〔其他ノ相違ノ點ヲ求ムレバ制限外發行ニ對スル課稅率ヲ獨逸ニ於テハ年五分ト確定セルニ反シ我國ニ於テハ其最低率ヲ年五分トシ大藏大臣適宜ニ之ヲ定ムルモノト爲スナリ即チ本邦ノ制度ハ伸縮自在ナルコトノ長所ヲ有スルモノノ如シト雖モ從來年五分以上ノ稅率ヲ適用セル場合ハ寧ロ稀ナリトス又年五分ハ本邦ニ於テハ寧ロ低率ニシテ通常日本銀行ノ割引歩合以下ナルニ反シ

大戰前ノ獨逸ニ於テハ年五分ハ高率ト謂フベク獨逸中央銀行ノ割引歩合ハ從來五分以下ヲ常例ト爲セルコトヲ知ラザルベカラザルナリ又正貨準備ニ關シテハ日本銀行ハ金銀貨及ビ金銀地金ヲ用キ而モ銀ハ四分ノ一ヲ制限トスルニ當リ獨逸ノ正貨ナルモノハ補助貨幣政府紙幣ヲモ包含シ得タルモノニシテ〔囊ニ述ベタルガ如ク貨付金庫〕(Darlehnskassen)ノ發行スル紙幣ヲモ〔正貨〕ニ算入セルコトハ之ヲ問題外トスルモ理論上ニ於テハ本邦ノ制度ヲ以テ優レリト謂フベシ然レドモ事實上獨逸ニ於テモ大戰前ハ正貨ノ大部分ヲ占メタルモノハ金ニシテ他ノ正貨ハ比較的小額ニ止マレリ

尙ホ茲ニ一言スベキハ日本銀行ガ倫敦等ニ保有セル〔在外正貨〕ナルモノヲ多年正貨準備ニ算入シタルコト是ナリ蓋シ類似ノ事例ハ從來歐洲諸國ノ中央銀行ニモ往々存在シ英蘭銀行モ大戰開始後加奈陀南阿等ニ於テ受領セル金ヲ兌換準備ノ一部ト見做セリ中央銀行ト雖モ若干ノ資金ヲ外國ニ存置スルコト必ズシモ不可ナラズ或場合ニハ寧ロ之ヲ必要トスベシト雖モ巨額ノ在外正貨ヲ兌換準備ニ供スルハ適當ト謂フヲ得ズ其正貨ナルモノガ銀行預金有價證券ノ

形狀ヲ取ルガ如キ場合ニハ殊ニ然リトス而シテ日本銀行モ大正十一年九月以來此慣行ヲ廢止セリト云フ

曩ニ述ベタルガ如ク今日本邦ニ於テ銀行券ヲ發行スルモノハ「日本銀行」以外ニ「臺灣銀行」及「朝鮮銀行」アリ而シテ此等二銀行ノ發券制度モ大體「日本銀行」ノ制度ニ同ジク正貨準備保證發行及ビ制限外發行ノ規定ヲ備フルモノトス又歐洲ニ於テ獨逸從來ノ制度ニ酷似セルモノハ「奧地利」「匈牙利」ノ共同的中央銀行タリシ「埃匈銀行」ニシテ「伸縮的制限法」ト併用シ制限外發行モ亦頻繁ニ出現セリ

一九二四年ニ改造セラレタル獨逸ノ新中央銀行ニ於テハ銀行券發行高ニ對シ四割以上ノ兌換準備ヲ置キ此兌換準備以外ニハ同銀行ノ營業規定ノ條件ヲ備フル手形小切手ヲ有スベキモノトス而シテ此兌換準備ノ少ナクトモ七割五分ハ同銀行ノ金庫ニ保有シ若シクハ同銀行ノ自由ニ處分シ得ベキ狀態ニ於テ外國ノ發券銀行ニ存在スル金タルヲ要シ其殘餘ハ外國ノ銀行券支拂期限十四日以内ノ外國爲替手形外國ノ小切手及ビ外國ノ金融中心地ニ於ケル確實ナル

銀行ノ當座預金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス然レドモ「監事會」ノ決定ニ依リ兌換準備ハ四割以下ニ降ルコトヲ得ルモノニシテ此場合ニハ其不足額ニ對シテ課稅セラレ不足額ノ増加スルニ從テ其稅率ハ累進スルモノトス又兌換ニハ金貨ヲ以テスルモノ一千「ライヒ」スマルク乃至三萬五千「ライヒ」スマルクノ金塊ヲ以テスルモノ及ビ金拂外國爲替ヲ以テスルモノ、三種アリ其ノ何レヲ以テスルカハ銀行ノ任意トス然レドモ此兌換規定ハ未ダ實行セラレザルナリ

「和蘭銀行」及「白耳義國立銀行」

和蘭ニ於テ銀行券ノ發行ヲ獨占スルハ「和蘭銀行」(Nederlandsche Bank)ナリトス銀行券ト請求次第支拂フベキ債務トノ合計ニ對シテ保有スベキ正貨(金銀貨及ビ地金銀)ノ最低割合ハ勅令ニ於テ之ヲ定メ從テ勅令ヲ以テ之ヲ變更スルヲ得ルモノトス是ヲ以テ恐慌等ノ際急速ニ銀行券ノ増發ヲ爲シ得ザル虞レアリト稱セラルル「比例準備法」ノ缺點ナキナリ此最低割合ハ從來四割ニシテ一九一四年七月ノ末世界大戰勃發ノ際二割ニ低下セラレタルモ正貨準備ノ事實上四割以下トナレルハ一九一四年後半期ノミナリト云フ而シテ一九二九年一月ヨリ最低割合ハ再ビ四割トナレリ又銀行券ト殆ド其性質ヲ同ジウスル當座預金ニ對シテモ之ガ準備ヲ命ズルハ合理的ナリト謂フベシ

「白耳義國立銀行」(Banque nationale de Belgique)モ從來ノ制度ハ「和蘭銀行」ニ酷似セ

リ即チ銀行券並ニ請求次第支拂フベキ債務ニ對シ少ナクトモ其三分ノ一ニ相當スル正貨ヲ備フベキモノトシ而シテ此割合ハ定款ノ定ムル所ニシテ大藏大臣ノ認可ニ依リ之ヲ低下シ得ルモノト爲セリ然ルニ一九二六年十月二十五日ノ勅令ヲ以テ之ヲ變更シ銀行券並ニ即時拂債務ニ對スル準備ハ少ナクトモ其四割ニ相當スル金又ハ金拂外國手形ヲ以テシ少ナクトモ三割ハ金タルヲ要スルコトトナレリ

〔佛蘭西銀行〕

〔佛蘭西銀行〕(Banque de France)ハ一八〇〇年ノ創立ニ係リ爾後發券銀行ノ地方ニ設立セラル、モノ九行ニ及ビタリシガ一八四八年ノ恐慌ニ際シ皆窮境ニ陥リ遂ニ佛蘭西銀行ニ合併シテ其支店トナレリ一八六〇年サヴヱア(Savoie)ノ佛領トナルヤサヴヱア銀行ノ資本ヲ増加シテ佛蘭西銀行ニ拮抗センコトヲ計畫セル者アリシガ佛蘭西銀行其發券權ヲ買收シテ事遂ニ熄メリ一八五〇年代及ビ六〇年代ニ於テハ佛蘭西銀行ノ發券權獨占ヲ非難スル者少ナカラザリシガ獨佛戰爭ノ際佛蘭西銀行ノ能ク難局ニ處シテ政府財政ノ急ニ應ジ民間經濟ノ困難

ヲ救ヒタルノ功著シカリシガ故ニ爾來又銀行券發行ノ自由ヲ主張スル者ナク佛蘭西銀行ノ政府ニ對スル義務負擔ハ漸次増加セシモ發券權ハ依然トシテ其專有タリ而シテ兌換準備ニ關シテハ何等ノ法規ナク唯一八〇〇年二月ノ法律ニ銀行券ノ發行額ハ正貨並ニ割引手形ノ保有額ト相當ノ權衡ヲ保チ以テ兌換ニ差支ナカラシムベシトノ一條アリタルノミ降テ一八四八年兌換停止セラルルヤ發行總額ヲ定メタルモ一八五〇年兌換回復ト共ニ此制限ヲ撤廢セリ一八七〇年獨逸ト開戦スルニ及ビ兌換ノ停止ヲ行フト共ニ再ビ發行總額ノ極度ヲ設ケテ之ヲ十八億フラント定メ一八七八年兌換ノ制舊ニ復シタレドモ銀行券ヲ以テ法貨ト爲セルニ依リ發行總額ノ制限ハ之ヲ存セリ制限額ハ次第ニ増加シテ一九一一年末ニハ六十八億フラント爲シタリシガ一九一四年八月兌換停止ト共ニ九十億フランニ高メ爾後增額ヲ行フコト頻繁ニシテ一九二五年十二月以後ハ五百八十五億フラントナレルモ一九二八年六月此制度ハ遂ニ廢止セラレタリ是ヨリ先キ佛國ノ爲替相場ハ戰時中ハ比較的變動少ナカリシモ一九一九年ニ至リ急激ナル逆調ヲ呈シテ爾後極メテ不安定ノ状態ニ陥リシヲ以テ

政府ハ之ガ對策ニ苦心シタリシガ上述ノ如ク一九二八年六月ノ法律ヲ以テ「フラン」ノ切下^ダ斷行シ千分ノ九百品位ノ金六十五五^五庭ヲ以テ「フラン」ヲ表現セシムルコト、爲セリ又從來ノ金貨及ビ銀貨ハ其通用效力ヲ廢止シテ新ニ「フラン」ノ金貨十「フラン」及ビ二十「フラン」ノ銀貨ヲ設ケ銀貨ハ補助貨幣ナリトス而シテ「佛蘭西銀行」ノ發券制度モ亦變更セラル即チ銀行券流通額當座勘定債務高ノ合計ニ對シ其三割五分以上ノ金貨又ハ金地金ヲ保有スルコト、シ兌換ハ銀行ノ選擇ニ依リ金貨又ハ金地金ヲ以テスルコト、ナリ其最小額ハ大藏長官ト銀行トノ協議ニ依リテ定ムルモノトス金貨ノ自由鑄造ハ當分「佛蘭西銀行」ニノミ之ヲ許可シ同行ハ金ノ提供ニ對シ法定價格ヨリ造幣料ヲ差引キテ之ヲ買入ル、ノ義務ヲ負ヘリ之ヲ約言スレバ佛國ハ兩本位制ヲ廢シテ金本位制トナリ「佛蘭西銀行」ノ發券總額ノ制限ヲ撤去シテ比例準備法ヲ採用シ兌換準備ハ金ニシテ而モ金地金兌換ヲ行ヒ得ルヲ以テ佛國ノ貨幣制度ハ所謂「金地金本位制」ノ色彩ヲ帶ブルモノトス

北米合衆國ノ「國立銀行」「聯邦準備銀行」及ビ我國ノ「國立銀行」

北米合衆國ニ於テハ各州ニ其法律ヲ遵奉シテ設立セル所謂「州立銀行」(State Bank)ナルモノ數多アレドモ銀行券ノ發行ニ對シテハ一割ノ重稅ヲ課セラル、ヲ以テ之ヲ行フモノナク從テ多年發券銀行ノ職能ヲ竭セルハ所謂「國立銀行」(National Banks)ナルモノトス「國立」ト稱セラル、ハ「州立」ト異リ中央政府ノ法律ニ支配セラル、モノニシテ全國共通ノ制度ナレバナリ此法律ノ制定ハ一八六三年即チ南北戰爭ノ際ニシテ爾來數回ノ變更ヲ加ヘラレ一九一三年十二月制定ノ「聯邦準備條例」ニ依リ銀行券ノ發行ハ漸次「聯邦準備銀行」之ヲ行フコト、ナレルモ「國立銀行」ノ銀行券ガ全然其跡ヲ絶ツニ至ルハ其前途甚ダ遼遠ナリトス現行ノ規定ニ據レバ各國立銀行ハ其資本金額ヲ限度トシ合衆國ノ國債ヲ擔保トシテ大藏省「銀行監督官」(Comptroller of the Currency)ニ預ケ入ル、トキハ之ト同額(國債ノ市價ニシテ額面價格ヨリ低キトキハ市價ト同額)ノ銀行券ヲ受取り發行シ得ルモノトス而シテ各銀行ハ更ニ發券額ノ五分ニ相當スル合衆國ノ法貨(Lawful Money)ヲ大藏省ニ預ケ入ル、ヲ以テ銀行券ノ兌換ハ之ヲ發行セル銀行ハ勿論大藏省モ亦其請求ニ應ズルモノニシテ支拂ヲ停止セル銀行アルトキハ大藏省

ハ之ニ代リテ兌換ノ責任ヲ負フト雖モ其預リ入レタル國債ヲ賣却シテ以テ之ヲ填補シ得ルノミナラズ銀行ノ資産ニ對シテ優先權ヲ有スルモノトス斯ノ如ク政府其責任ヲ負フが故ニ銀行券ノ兌換ハ安全確實ニシテ各銀行ノ銀行券ハ個人間ニハ強制通用力ナキモ全國ヲ通ジテ流通滯滞スルコトナカリシト雖モ其發行額ガ社會ノ需要ニ適應セザルノ缺點ヲ有セリ殊ニ一八八二年以後國債ノ價格騰貴セルヲ以テ諸銀行ハ大藏省ニ預ケ入レタル國債ヲ引出シテ之ヲ賣却シ之ガ爲メニ銀行券ノ流通額大ニ減退セルガ故ニ一九〇〇年ニ至リ國立銀行條例ニ幾多ノ變更ヲ加ヘ資本金ノ最少限ヲ二萬五千弗ニ低下シ各銀行ノ發行限度ヲ資本金額ニ上ボセ國債ノ擔保價格ハ額面價格ヲ以テスルコト、爲シタルノミナラズ特ニ低利(二分)ノ國債ヲ發行シ而シテ此國債ヲ銀行券ノ擔保ニ使用シタル場合ニハ發券額ニ對スル課稅ヲ一個年千分ノ五ニ半減セルニ因リ國立銀行ノ設立セラル、モノ多ク銀行券ノ流通額モ亦増加セリ然レドモ貨幣ノ需要俄ニ増加スルニ當リテハ到底之ニ應ズルヲ得ズ殊ニ一九〇七年ノ恐慌ノ際ノ如キ之ヲ感ズルコト甚ダシカリシヲ以テ一九〇八年所謂オールドリッチツ

リーランド條例 (Aldrich-Vreeland Act) ナルモノ制定セラレタリ然レドモ固ヨリ臨時的法規ニ過ギザリシガ故ニ當時直ニ銀行制度調査委員會ヲ設ケテ根本的的改革ヲ計畫シ其結果トシテ一九一三年十二月途ニ聯邦準備條例 (The Federal Reserve Act) ナルモノ制定セラレ米國ノ銀行制度ハ至大ノ變更ヲ見ルニ至レリ其大要ヲ述ベンニ歐洲諸國ノ如ク一大中央銀行ヲ設クルノ議論ナキニ非ザリシモ一般ノ承認スル所トナラズ結局全國ヲ十二ノ區域ニ分チ而シテ一九一四年十一月ヲ以テ各區域ニ聯邦準備銀行 (Federal Reserve Bank) ナルモノ設立セラレタリ國立銀行ハ其所在區域ノ聯邦準備銀行ニ對シ株主トナルノ義務ヲ有シ州立銀行〔信託會社等モ亦株主タルコトヲ得ルモノトス此聯邦準備銀行ハ一方ニ於テ合衆國政府其株主銀行及ビ他ノ聯邦準備銀行ヨリノ預金ヲ受ケ入レ他方ニ於テハ主トシテ株主銀行ノ爲メニ手形ノ再割引ヲ爲スモノナレドモ一定ノ範圍ニ於テ一般市場ノ取引ヲモ爲シ得ルモノトス十二銀行間ノ連絡統一ヲ謀リ且之ガ監督ヲ行フモノハ〔聯邦準備局〕 (Federal Reserve Board) ナルモノニシテ大藏卿及ビ銀行監督官ハ職權上當然其委員トナリ他ノ五名ハ大統領ノ任命スル所トス

又「聯邦諮問會」(Federal Advisory Council)ナルモノアリ各「聯邦準備銀行」ヨリ選出セラレタル委員十二名ニヨリ組織セラレ其主タル目的ハ「聯邦準備局」ヲシテ各地ノ實況並ニ要求ト直接ノ接觸ヲ保タシムルニ在リ各「聯邦準備銀行」ノ重役ハ九名ニシテ三名ハ「聯邦準備局」ノ任命ニ係リ他ノ六名中三名ハ株主銀行ヲ代表シ三名ハ當該區域ニ於テ選舉ノ際商業、農業其他ノ産業ニ従事スルモノニ限リ其ニ株主銀行ノ選舉ニ依ルモノトス各「聯邦準備銀行」ハ自ラ一種ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得ルモノニシテ之ヲ「聯邦準備銀行券」(Federal Reserve Bank Notes)ト稱ス蓋シ「聯邦準備銀行條例」ノ公布ヨリ二個年經過後二十年間ハ各「國立銀行」ハ其發行券ノ一部若シクハ全部ヲ銷却スルコトヲ得ルモノニシテ「聯邦準備銀行」ハ其株主タル「國立銀行」ガ上述ノ銷却ヲ行フニ當リ其銀行券ノ擔保タリシ公債ヲ買入ル、コトヲ要スルト共ニ其買入レタル公債ヲ準備トシ「國立銀行」ト殆ド同一ノ條件ヲ以テ其「聯邦準備銀行券」ヲ發行スルコトヲ得ルモノトス此種ノ銀行券發行ハ「國立銀行」ノ發行スル銀行券ガ急激ナル減少ヲ來タスコトアルニ際シ其缺陷ヲ補充シテ以テ經濟上ノ影響ヲ緩和スルガ爲メナルガ故ニ要スルニ一ノ

過渡的施設ニ屬シ其流通額ハ事實上甚ダ少ナシ之ニ反シテ「聯邦準備券」(Federal Reserve Notes)ナルモノハ結局「國立銀行」ノ銀行券ニ代ハルガ爲メニ新ニ出現セルモノニシテ極メテ重要ナルモノトス此「聯邦準備券」ハ「聯邦準備銀行」ヲ經由シテ世上ニ流通スルモノナレドモ銀行ノ自ラ發行スルモノニ非ズ「聯邦準備局」ガ其裁量ニ基ツキ「聯邦準備銀行」ニ貸付クルモノニシテ合衆國政府ノ債務ニ屬スルモノナルガ故ニ一種ノ政府紙幣ト稱スルモ不可ナキナリ而シテ各「聯邦準備銀行」及ビ其株主銀行ハ之ガ受納ヲ拒ムヲ得ズ租稅關稅其他政府ヘノ支拂ニモ同一ノ效力アルモノニシテ大藏省ハ金貨ヲ以テ「聯邦準備銀行」ハ金貨又ハ法貨ヲ以テ兌換スルモノトス之ガ爲メニ各「聯邦準備銀行」ハ其借入發行額ニ對シ四割以上ノ金貨準備ヲ有シ少ナクトモ五分ハ之ヲ大藏省ニ預ケ入ル、ヲ要スレドモ金準備ノ四割以下トナルコトヲ絕對ニ禁止スルモノニ非ズ即チ此限度以下トナレルトキハ其不足額ニ對シテ課稅セラル、モノニシテ其稅率ハ準備額三割二分五厘マデハ年一分以下トシ準備額更ニ減少スルニ從ヒテ稅率ハ累進スルモノトス金貨以外ニ保證トシテハ割引手形ヲ保有スルモノニシテ從來「國

立銀行「ガ國債ヲ擔保トセルト大ニ異ルヲ見ルナリ此聯邦準備券」ノ發行ハ伸縮力ニ富メル貨幣ヲ供給スルノ目的ニ出デ上述ノ如ク漸次「國立銀行」ノ銀行券ニ代ハラシムルモノニシテ其發行モ既ニ巨額ニ達セリ其他手形ノ再割引ハ手形ノ利用ヲ大ナラシムルモノニシテ歐洲諸國ノ慣行ヲ模倣セルモノ、如シ又外國ニ支店ヲ設クルコト、外國爲替手形ノ引受ヲ爲スコト、ヲ「國立銀行」ニ許シ「聯邦準備銀行」ノ業務中ニ外國爲替ヲ掲グルハ米國人ガ對外國係ヲ重要視スルニ至レル一徵候ト謂フベキナリ

曩ニ述ベタルガ如ク我國ニ於ケル銀行券ノ發行ハ「日本銀行」ノ獨占ニ歸セリト雖モ發券銀行トシテ我國銀行業ノ端緒ヲ開キ二十有餘年間金融市場ニ重要ナル位置ヲ占メタルハ「國立銀行」ナリトス其範ヲ主トシテ米國ノ「國立銀行」ニ採リタルモノニシテ銀行券發行ノ方法モ亦相似タリ即チ明治五年ノ「國立銀行條例」ニ據ルトキハ「國立銀行」ハ其資本金ノ六割ニ相當スル政府紙幣ヲ大藏省ニ上納シテ同額ノ公債證書ヲ受領シ直ニ之ヲ大藏省ニ預入レテ同額ノ銀行紙幣ヲ下付セラレ兌換準備トシテハ資本金ノ四割ニ相當スル正貨ヲ備フルモノトセ

リ同條例制定ノ當時ニ在リテハ金貨及ビ紙幣ノ價值同一ナリシヲ以テ正貨兌換ノコト行ハレ難キニ非ザリシモ明治七年以後金紙ノ間ニ差異ヲ生ゼシニ依リ發行紙幣ハ續々銀行ニ復リ來リ忽チ其跡ヲ市場ニ絶ツニ至レリ此時ニ當リテ政府ハ華士族ノ家祿處分ノ爲メニ金祿公債證書一億七千萬圓ヲ發行セントシテ公債證書價格ノ下落ヲ來タサンコトヲ恐ル、ト共ニ前述ノ如ク正貨兌換ノ行ハレ難クシテ銀行業ノ甚ダ振ハザルヲ憂ヒ遂ニ明治九年九月ヲ以テ「國立銀行條例」ヲ改正セリ此新條例ニ據ルトキハ「國立銀行」ハ其資本金ノ八割ニ相當スル公債證書ヲ大藏省ニ預入レテ同額ノ銀行紙幣ヲ下付セラレ其下付高ノ四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ引換準備ニ充ツルコト、ナレリ而シテ當時ノ通貨ハ政府發行ノ不換紙幣ニ他ナラザリシナリ茲ニ於テ「國立銀行」ノ設立ヲ請願スルモノ續々相踵ギ舊條例ノ下ニ在リテハ四行ニ過ギザリシモノ明治十二年末ニ於テハ實ニ一百五十三行ノ多キニ及ビ其紙幣發行額ノ最高點ニ達セシハ明治十三年三月ニシテ三千四百四十二萬九千圓餘ナリトス加之政府發行ノ不換紙幣ハ一億三千萬圓餘ノ多キニ上リ我國ノ貨幣制度大ニ紊亂セルヲ以テ政府

ハ爾後「國立銀行」ヲ設立ヲ許サズ明治十六年「國立銀行條例」ヲ改正シ「國立銀行」ノ營業期限ヲ二十個年トシ滿期後ハ私立銀行ノ資格ヲ以テスルニ非ザレバ其營業ヲ繼續スルヲ許サズト定メ同時ニ銀行紙幣ノ銷却法ヲ制定セリ而シテ「國立銀行」ハ明治三十二年二月マデニ營業滿期ト共ニ普通銀行トナリ前記ノ紙幣銷却法ハ豫期ノ如ク行ハレザリシモ「日本銀行」ヨリノ借入金ニ依リテ遂ニ其目的ヲ達スルヲ得タリ

加奈陀ノ銀行

英領加奈陀ニ於テモ銀行券發行ノ集中未ダ行ハレズト雖モ隣邦合衆國ノ「國立銀行制度」ニ比スレバ優ルモノアルヲ見ルナリ即チ資本金ハ五十萬弗ヲ最低限トシテ其半額ノ拂込ヲ要シ此等ノ條件ノ下ニ設立セラレタル銀行ハ一九二三年末ニ於テ十七行トス此等ノ銀行ハ其拂込資本金ト同額ノ銀行券ヲ發行シ得ルノミナラズ一九一三年ノ法律改正ニ依リ「中央金準備」(Central Gold Reserve)ニ金貨若シクハ政府紙幣ヲ預ケ入ル、トキハ更ニ同額ノ發行ヲ爲スコトヲ得ルニ至レリ又收穫移動ノ時期即チ九月一日ヨリ翌年二月末日ニ至ルノ間ニ於テ

ハ拂込資本金及ビ積立金ノ一割五分ヲ限度トシ且年五分以下ノ課税ニ依リ臨時増發ヲ爲スコトヲ得ルモノトス發行額ニ對スル兌換準備ノ割合ニ關シテハ何等ノ法規ナキモ諸處ニ兌換所ヲ設置スルノ義務ヲ負ヒ事實上各地ノ手形交換所ニ於テ互ニ銀行券ノ交換ヲモ行フガ故ニ各銀行ノ發行額ハ其極度ニ達スルコト稀ナリト云フ兌換保障ノ方法、三種ニシテ第一ニ銀行券ハ之ヲ發行セル銀行ノ資産ニ對シテ優先權ヲ有シ且株主ハ資本金以外ニ之ト同額マデノ辨濟義務ヲ負フモノトス第二ニ「銀行券銷却基金」(Bank Circulation Redemption Fund)ナルモノアリ各銀行ハ其平均發券額ノ五分ニ相當スル資金ヲ醸出スルモノトス第三ニ支拂ヲ停止セル銀行アルトキハ辨濟ノ時ニ至ルマデ其發行券ニ年五分ノ利息ヲ附スルモノトス前記ノ基金ハ大藏大臣之ヲ保管シ支拂ヲ停止セル銀行ニシテ二個月内ニ其資産ヲ以テ辨濟ヲ果サザルトキハ大藏大臣ハ基金ヲ以テ之ニ充テ其金額ニシテ當該銀行ノ出資額ヲ超エ基金ニ缺損ヲ生ズルトキハ他ノ諸銀行ヲシテ其發券額ニ應ジテ之ヲ填補セシムルモノトス是ヲ以テ「加奈陀銀行組合」(Canadian Bankers' Association)ナルモノアリ銀行券ノ事務ニ關シテ暨

督其他ノ權能ヲ有シ支拂停止ノ銀行ヲ生ジタルトキハ管財人ヲ選定シテ善後ノ處置ヲ爲サシムルヲ得ルナリ之ヲ要スルニ上記ノ制度ハ加奈陀ニ於ケル銀行券ノ安全ヲ保障シ且其發行額ヲシテ社會ノ必要ニ應ジテ伸縮セシメ得ルモノトス然レドモ一九一四年八月世界大戰ノ破裂スルヤ加奈陀政府モ應急的律ヲ制定シテ政府紙幣ハ兌換停止ヲ行ヒ之ト同時ニ銀行券モ法貨トナレリ以上列舉セル諸制度ハ多クハ各國ノ狀態ニ應ジテ成立セルモノニシテ容易ニ其適否ヲ斷ズベカラズト雖モ其間多少ノ優劣ナキニ非ズ

シャーリング(W. Scharling)曰ク「銀行券及ビ預金ヲ合セ即時辨償スヘキ債務ニ對シテ三割三分乃至四割ノ正貨準備ヲ設ケ其殘額ニ對シテハ支拂期限三個月以內ニシテ少ナクトモ確實ナル二名以上ノ支拂義務者ヲ有スル割引手形ヲ有スルハ最モ適當ノ兌換準備法ト稱スベキノミナラズ又充分確實ナル準備法ト認メザルベカラズ」ト即チ氏ガ理論上最モ優等トスル所ハ殆ド和蘭及ビ白耳義二國ノ中央銀行ノ制度ニ同ジトス銀行券ト共ニ預金ニ對シテモ相當ノ準備ヲ設ケザルベカラザルハ曩ニ述べタルガ如クニシテシャーリングノ言洵ニ理アリト云フベキナリ又保證物件トシテ短期確實

ノ割引手形ヲ用キルハ實ニ適切ナル方法ニシテ歐洲大陸諸國ノ中央銀行ハ多クハ事實上此制度ヲ採レルモノトス斯ノ如ク常ニ相當ナル金額ノ正貨準備ヲ置キ其以外ハ確實ナル短期ノ債權殊ニ割引手形ヲ保有スルヲ普通ニ「銀行的準備法」(Die Bankmäßige Deckung)ト稱スワグナー(A. Wagner)ハ之ヲ激賞シテ曰ク「理論上並ニ實際上ニ於テ正當ナル準備法ハ此方法以外ニ求ムベカラズ」ト而シテ此方法ノ完全ニ我國ニ行ヒ難キ所以ハ曩ニ述べタルガ如シト雖モ既ニ識者ノ認メテ最良ノ制度ト爲ス所ナルガ故ニ手形ノ流通真正ノ發達ヲ爲スニ至ラバ「日本銀行」ノ保證物件ハ主トシテ割引手形ヲ用ウベキナリ。

第五節 業務ノ制限其他ノ規定

本章ヲ終ルニ臨ミ尙ホ二三ノ事項ニ就テ述ベシ

- 一 業務ノ制限 發券銀行殊ニ中央銀行ハ單ニ投機的ナル事業ヲ營マザルノミナラズ資本ヲ固定セシムル業務ヲモ行フベカラズ例ヘバ株式ノ賣買ノ如キ巨利ヲ得ルコトアルベシト雖モ損失ヲ招クノ恐亦多キガ故ニ自己ノ資本ヲ以テ

營ムベキ性質ノ業務ニシテ専ラ他人ノ預金ヲ流用シ又ハ銀行券ヲ發行シテ以テ行フベキモノニ非ザルナリ又不動産ヲ抵當トシテ長期ノ貸付ヲ爲スガ如キハ一見甚ダ確實ナルガ如シト雖モ是レ亦發券銀行ノ本質ニ背反スルモノトス例ヘバ地所ヲ抵當トシ三個月ノ返済期限ヲ以テ銀行券ヲ貸出シタリトセンニ銀行券ハ發行ノ日ヨリシテ兌換ノ請求ニ應ゼザルヲ得ザルニ反シ貸付金ハ三個月ヲ待チテ始テ回收セラル、モノトス而シテ債務者若シ辨償ノ義務ヲ果ス能ハズシテ其地所銀行ノ所有ニ歸スルニ於テハ銀行ハ其處分ニ苦シムベキナリ故ニ發券銀行ニシテ此種ノ業務ヲ行フトキハ資金固定シテ兌換準備脆弱トナリ一旦多額ナル兌換ノ請求ニ遇フヤ到底之ニ應ズル能ハザルナリ之ニ反シテ短期確實ナル手形ノ割引ヲ行フニ於テハ資金ノ運轉甚ダ速ニシテ兌換準備ノ伸縮容易ナリトス是レ即チ前節ニ於テ「銀行的準備法」ノ優レルヲコト唱ヘタル所以ナリ業務ノ選擇ヲ要スルコト上述ノ如クナルヲ以テ諸國概ネ法律ヲ以テ中央銀行ノ業務ヲ確定シ我日本銀行條例モ其第十一條及ビ第十二條ニ於テ「日本銀行」ノ業務ニ制限ヲ加フルヲ見ルナリ

二 銀行券ノ券面金額 銀行券ハ通常本位貨幣ヲ以テ兌換スルモノナルガ故ニ其券面金額ハ最小ノ本位貨幣ヨリモ小ナル能ハズ故ニ我國ニ於テハ一圓ノ貨幣ノ現今必要ナルヤ否ヤハ暫ク措テ問ハズ今日最小ノ本位貨幣ハ五圓金貨ナルヲ以テ一圓券ハ理論上之ガ引上ヲ爲サザルベカラザルナリ然レドモ五圓券發行セラル、トキハ五圓金貨ノ世上ニ流通セザルハ目下ノ實況ニ徴シテ明白ナルヲ以テ五圓券ヲモ廢止センコトヲ唱道スル者ナキニ非ズト雖モ此說ニ左袒スルヲ得ザルナリ何トナレバ之ガ爲メニ「日本銀行」ノ正貨準備減少ノ結果ヲ生ズルニ於テハ貨幣制度ヲ鞏固ナラシメタリト云フヲ得ザレバナリナッセ(四) (五)曰ク「中央銀行ノ正貨準備額大ニシテ小額ノ取引ハ主トシテ信用ニ基ヅクニ能ク需要ニ適合スル支拂方法ヲ用ウルト中央銀行ノ正貨準備脆弱ニシテ小額ノ取引ニモ悉ク正貨ヲ用ウルト比較セバ一國ノ貨幣制度ハ前者ヲ以テ一層鞏固ナリト謂ハザルベカラズ」ト小額ノ銀行券ヲ非難スル者ハ又曰ク「小額ノ銀行券ハ社會ノ下層ニ流通シ而シテ細民ハ銀行ノ信用如何ヲ鑑別シ能ハザルガ故ニ遂ニ不換紙幣ノ如キ弊害ヲ生ズルコトナシトセズ」ト若シ夫レ發券銀行ノ

數多クシテ往々兌換ノ停止ヲ行フモノアルガ如キ場合ニ於テハ論者ノ說洵ニ理アリト雖モ鞏固ナル中央銀行ノ銀行券ノミ流通スルニ當リテハ蓋シ杞憂ト謂フベキナリ小額券ハ社會ノ下層ニ流通スルガ爲メニ恐慌等ノ際兌換ノ請求ヲ劇甚ナラシムルノ恐アリト爲ス者アレドモ此憂ハ寧ロ大額券ニ於テ多シトス又小額券ハ貸銀等ノ支拂ニ用キラレテ物價ノ騰貴ヲ促スノ傾向アリト說ク者アレドモ斯ノ如キ場合ニ銀行券ヲ用キザレバ補助貨幣之ニ代ハルベキヲ以テ其間ニ差違アラザルナリ

三 銀行券ヲ法貨(Legal Tender)ト爲スコト 我兌換銀行券條例第四條ニ曰ク「兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス」下即チ此條文ニ據リ「日本銀行」ノ銀行券ハ無制限ノ法貨タル効力ヲ與ヘラレタルモノニシテ諸般ノ支拂債務ノ辨濟等ニ銀行券ヲ提供スルトキハ對手ハ之ガ受領ヲ承諾セザルベカラザルナリ歐洲諸國ニ於テハ往時一般ニ銀行券ニ法律上ノ通用力ヲ與ヘザリシガ「英蘭銀行」ノ銀行券ハ一八三三年以來法貨トナリ「佛蘭西銀行」「丁抹銀行」「瑞典銀行」「和蘭銀行」「埃甸銀行」「露西亞帝國銀行」等ノ銀行券モ大戰前夙ニ法貨タ

ルノ性質ヲ有シ獨逸中央銀行ノ銀行券ハ一九一〇年ヨリ同一ノ効力ヲ附與セラレタリ發券銀行ノ數多キトキハ兌換停止ヲ行フモノアルガ故ニ信用脆弱ナル銀行ノ發行券ニモ法貨タル効力ヲ附與シテ之ガ受領ヲ拒ム能ハザラシムルハ危險甚ダシト雖モ鞏固ナル中央銀行ノ銀行券ニ至リテハ斯ノ如キ弊害ナキヤ明ナリ故ニ初ヨリ法貨トシテ其流通ヲ圓滑ナラシムルニ如カザルナリ

四 發券銀行ノ公告 公衆ヲシテ發券銀行ノ動靜ヲ環視注目セシムルハ有效ナル一種ノ監督ニシテ且銀行券發行額、正貨準備額其他貸付、割引、預金等ノ増減ハ金融市場ニ至大ノ影響ヲ與フルモノナルガ故ニ世人ヲシテ常ニ其狀況ヲ知ラシメザルベカラザルナリ是ヲ以テ諸國ノ中央銀行ハ概ネ毎月數回定期ニ報告ヲ公示スルノ義務ヲ有シ我「日本銀行」モ亦銀行券發行週報及ビ營業週報ヲ官報ノ廣告欄内ニ掲載スルモノトス

五 發券權ノ年限 銀行券發行ノ特權ハ初ヨリ永久無限ニ附與スベキモノニ非ズ一定ノ年限ヲ設ケ而シテ銀行ノ成績ヲ稽ヘ社會ノ狀況ニ鑑ミテ之カ繼續ヲ許可スルヲ以テ至當トス而シテ其年限短キニ失スレバ銀行ノ基礎動搖ノ憂ナ

キニアラズ長キニ過グレバ法規ノ修正等ヲ爲スニ不便ニシテ銀行ノ行動專横ニ流ル、コトナシトセズワグナー(Ad. Wagner)ハ十年乃至十五年ヲ以テ一回ノ年限ト爲スヲ適當ナリト云ヘリ

第三章 預金

第一節 預金ノ沿革

銀行券ノ發行ハ前章ニ述ベタルガ如ク多クハ中央銀行又ハ少數ナル銀行ノ獨占的業務トナリ現今諸國ニ於テ所謂普通銀行ノ主タル受信的業務ハ預金ナリトス此預金ノ沿革ヲ釋スルニ最初ニ行ハレタルモノハ其目的盜難火災等ヲ防グニ在リシモノ、如シ例ヘバ希臘ニ於テ政府及ビ私人ガ財寶ヲ神殿ニ託シタルハ其威靈ニ頼リテ之ガ安全ヲ謀レルガ爲メニシテ倫敦ノ市民ガ金匠(Goldsmith)ニ其金銀ヲ預ケ入レシハ堅牢ナル倉庫ニ保護ヲ託セルナリ而シテ爾來數多ノ年月ヲ經ルニ及ビ需要ノ際預金ノ返還ヲ請求セズ受託者ヲシテ自己ニ代リテ第三者ニ支拂ヲ爲サシムルノ習慣ヲ生ゼリ即チ伊太利ニ於テハ此方法既ニ第十二世紀ニ行ハレ「アムステルダム銀行」(Amsterdamsche Wisselbank)「ハムブルヒ銀行」(Hamburger Bank)ノ如キハ此業務ヲ行フガ爲メニ設立セラレタルモノニシテ二百餘年ノ間之ヲ繼續

セリ而シテ此種ノ預金ハ未ダ委託物タル性質ヲ失ハザルガ故ニ必ズ之ヲ貯藏シ預ケ人ノ請求ニ應ジテ帳簿上ノ出入ヲ爲スノミ受託者ハ之ヲ自己ノ目的ニ運用スルヲ得ザルナリ然レドモ多年此等ノ業務ヲ行フトキハ一方ニ返還ノ請求アルト共ニ他方ニ預ケ入ノ依頼アリテ出入相償ヒ巨額ノ金銀ハ常ニ窖裡ニ存在スルモノナルガ故ニ受託者ハ其一部ヲ出シテ之ヲ他ニ流用スルモ決シテ危険ナキコトヲ悟リ遂ニ利殖ノ途ヲ求ムルニ至ルヴェニス等ノ銀行史ハ此事實ヲ證明スルモノニシテ英國ニ於テハ金匠ガ其預金ヲ運用スルニ至レルハ第十七世紀ノ半ナリト云フ是レ即チ保護又ハ管理ヲ目的トセル預金ノ途ニ運用預金ニ變遷セル順序ナリトス

〔運用預金〕即チ今日單ニ預金ト稱スルモノハ初ヨリ受託者ガ之ヲ運用利殖スルヲ知リテ預ケ入ル、モノニシテ其性質ハ一種ノ貸金ニ他ナラズ而シテ保護又ハ管理ヲ目的トスル預金ニ於テハ其勞費ノ報酬トシテ預ケ人ヨリ料金ヲ徵收セシモ運用預金ニ至リテハ利殖ノ途既ニ存スルガ故ニ之ニ對シテ通常利息ヲ支拂フモノニシテ利息ヲ付セザル場合ニ於テハ預ケ人ノ爲メニ無手数料ヲ以テ金錢出

納等ノ事務ヲ行フモノトス

此運用預金殊ニ請求次第拂戻スベキ預金ノ制度ヲ非難シテ理論上不可能ノ事ニ屬シ實際上甚ダ危険ノ業務ナリト爲ス者アリト雖モ是レ實ニ杞憂ノ甚ダシキモノト謂ハザルベカラズ彼ノ銀行券モ單ニ理論上ヨリ見ルトキハ發行總額ノ兌換請求必無ト斷言スベカラズ從テ正貨準備以上ノ發行ハ一見甚ダ危険ナルガ如シト雖モ實際ニ於テハ然ラズ何トナレバ兌換請求ハ全部同時ニ襲來スルモノニ非ザレバナリ又彼ノ生命保險ニ於テモ被保險人全數ヲ擧ゲテ一時ニ死亡スルモノニ非ズ多年ノ經驗ニ依リテ死亡ノ平均數ヲ算出スルヲ得ルモノトス之ト同一ノ理由ニヨリ預金モ亦通常ノ場合ニ於テハ一時ニ全額ノ拂戻ヲ請求セラル、モノニ非ズ當事者ニシテ相當ノ注意ヲ怠ラザルニ於テハ其運用決シテ憂フルニ足ラザルノミナラズ之ガ運用ヲ行ヒテ始テ銀行ヲ利シ併セテ社會ヲ益スルコトヲ得ルナリ近代ニ於テ銀行業ノ最モ發達セルハ英國ナリトス而シテ其然ル所以ハ所謂預金銀行(Banks of Deposit)即チ受信的業務トシテ預金ヲ專業トスル銀行ノ盛大ヲ來セルニ他ナラズシテ從來銀行券發行ノ權ヲ有セル銀行モ却テ重キヲ預金ニ

置クニ至レルナリ

然レドモ預金ノ發達ハ遠ニ之ヲ望ムコトヲ得ズ即チ第一ニ一國ニ於テ所有者ノ自ラ使用セザル資金豐富ナラザルベカラズ此種ノ資金ニシテ豐富ナラザランカ縱令銀行ノ數多キモ多額ノ預金ヲ吸收シ得ザルヤ論ナキナリ次ニ世人一般ニ銀行ノ便宜ヲ知リテ之ヲ利用セザルベカラズ英米二國ノ獨佛等ニ比シテ預金業ノ盛ナルハ此原因ニ基ヅクコト多シ又之ヲ英國ノ歴史ニ徵スルニ同國ニ於テ預金業ノ長足ナル進歩ヲ爲セシハ實ニ近時ノ事ニ屬スルヲ見ルナリバジョット(W. Bagehot)曰ク「預金業ノ最モ普及スルハ蘇格蘭ナレドモ銀行ノ最初ノ利益ハ全ク銀行券ノ發行ヨリ生ゼルナリ銀行券ノ發行ハ今ヤ蘇國諸銀行ノ債務ノ一少部分ニ過ギザレドモ往時ニ在リテハ銀行ノ支柱ニシテ且利益ノ源泉ナリキ」ト而シテ氏ガ適例トシテ擧ゲタルハー七六三年ニ設立セラレタル「ダンデー銀行」(The Bank of Dundee)ニシテ同行ハ創立後二十五年間ハ預金殆ド皆無ニシテ専ラ銀行券ノ發行ヲ爲シ傍ラ送金業務ヲ營ミシガー七九二年ニ至リ漸ク預金ノ流入ヲ生ジ爾來其額非常ニ増加シ遂ニ預金ヲ以テ專業ト爲スニ至レリト云フ英國ニ於ケル預金業

ノ沿革モ略ボ其轍ヲ同ジウシ一八三〇年代ニハ銀行ノ收益ハ主トシテ銀行券ノ發行ニ基ヅキ預金ノ受信的業務トシテ重視サレシハ尙ホ後年ニ屬セリ「英國銀行」モ亦其一例ヲ示スモノニシテ即チ一八五〇年代ニ於テモ預金額ハ銀行券流通額ノ半ニ達セザリシガ爾後世界大戰マデノ經過ヲ見ルニ預金ハ長足ノ進歩ヲ爲シ銀行券流通額ノ二倍以上ニ達セリ

斯ノ如ク預金業ハ其進歩近時ニ屬スト雖モワグナー(Ad. Wagner)ノ言ヘルガ如ク信用制度、銀行組織ノ大ニ發達セル邦國ニ於テハ受信的業務ノ最モ重要ナルモノニシテ遂ニ銀行券發行ノ業務ヲ凌駕スルニ至レリ即チ「英國銀行」ノ預金ノ次第ニ増加セルハ曩ニ述べタルガ如ク倫敦ノ大銀行ニ至リテハ預金額ノ大ナル實ニ驚クベキモノアリトス蓋シ英國ニ於テハ苟モ社會ノ中流以上ニ屬スル者ハ殆ド皆銀行ニ金錢出納ノ事務ヲ託シ手許金ノ大部分ハ銀行ニ預ケ入ル、モノトス且英國諸銀行ノ預金ハ現金ノ預入レ割合ニ少ナク手形ノ割引又ハ貸付ヲ爲スヤ現金ヲ給付セズシテ其金額ヲ當座預金勘定ニ記入スル場合甚ダ多キガ故ニ他國ニ於ケル預金額トハ直接ニ比較シテ論ズベカラズト雖モ要スルニ英國ニ於ケル

預金業ノ盛大ナルハ著名ナル事實ナリトス北米合衆國ノ一部ニ於テモ預金業ノ發達殆ド英國ニ讓ラズ而シテ現金預入レノ少ナキモ亦英國ニ似タリ其他獨佛ニ至リテハ銀行ノ進歩未ダ英米ニ及バズ從テ預金業モ亦大ニ遜色ナキヲ得ザルナリ

我邦ノ銀行ニ於テモ預金業ノ發達未ダ充分ナラズトス然レドモ最近十數年間ニ於ケル預金額ノ増加ハ甚ダ顯著ニシテ大都會ノ銀行ニ於テハ其貸出ダセル資金ノ直ニ預金ニ振替ヘラル、モノ亦少ナカラズト云フ

第二節 預金ノ種類

世人が銀行ニ預金ヲ爲ス場合ヲ觀察スルニ凡ソ左ノ四種ニ分ツコトヲ得ルガ如シ

一 日々受領スル貨幣ヲ自家ニ貯フルトキハ盜難火災等ノ憂アルノミナラズ授受ノ際、員數ノ調査、眞贋ノ鑑別等多少ノ手數煩勞ヲ免レザルガ故ニ之ヲ銀行ニ預入レ且銀行ヲシテ己ニ代リテ日々ノ支拂ヲ爲サシムルナリ殊ニ手形ノ流通

盛ナルニ及ンデハ他人ヨリ手形ヲ受取ルコト少ナカラズ一々支拂人ニ就テ之ヲ取立ツルハ多少ノ勞費ヲ要スレドモ此等ノ手形ヲ銀行ニ託スルトキハ銀行ハ之ガ取立ノ依頼ニ應ジ小切手ノ如キハ多クハ直ニ現金ト看做シ他ノ手形モ取立次第ニ預金ニ記入スルモノナレバ依頼人ノ便利ハ甚ダ大ナリトス

二 手形ノ割引等ニ依リ銀行ヨリ若干ノ金額ヲ借入ル、モ幾何ナラズシテ之ヲ支拂ニ供スルガ爲メナルニ於テハ直ニ之ヲ預金ニ振替ヘ之ニ對シテ小切手ヲ振出スヲ以テ便利ト爲スナリ

三 自己ノ業務ノ狀況、世上一般ノ景氣等ニ依リ一時運用ノ方法ナキ資金ヲ預入ル、コトアリ

四 資金ノ金額甚ダ小ニシテ單獨ニ之ヲ用ウル方法ノ少ナキモノ又ハ其金額ハ必ズシモ小ナルニ非ザレドモ所有者自ラ運用セザルモノハ之ヲ銀行ニ預入レテ利殖ヲ圖ルナリ

第一及ビ第二ノ場合ニ於テハ預ケ人ハ其預金ヲ要スル時期ヲ豫定スルヲ得ズ且其引出モ必ズ頻繁ナルベキガ故ニ其預金ハ何時ニテモ請求次第拂戻ヲ受クベ

キモノタラザルベカラズト雖モ第三殊ニ第四ノ場合ニ於テハ然ラズ之ヲ以テ拂
戻ノ時期ニ關シテ預金ニ二種ノ大別ヲ生ズ「當座預金」(Current Account)及ビ「定期預金」
(Fixed Deposit)即チ是ナリ當座預金ハ預ケ人何時ニテモ之ガ拂戻ヲ受クルヲ得ルモ
ノニシテ定期預金ハ豫メ期限ヲ定メテ其期限中ニハ拂戻ヲ請求セザルモノトス
尙ホ「通知預金」(Deposit at Notice)ト稱スルモノアリ預ケ人ヨリ通知ヲ爲ストキハ其日
ヨリ起算シテ約定ノ期限ニ至リ拂戻スベキモノ是ナリ倫敦等ニ於テハ當座預金
ナラザル預金ハ主トシテ此種ノモノナリト云フ速ニ支拂ニ充ツベキ資金ニシテ
一時銀行ニ預入ル、モノニ對シテハ「預金手形」ナルモノ往々發行セラル通常一覽
拂ナルヲ以テ當座預金ノ一種ト見做スベキナリ又本邦ノ銀行ニハ「特別當座預金」
又ハ「小口當座預金」ト稱スルモノアリ請求次第拂戻ヲ爲スハ普通ノ當座預金ニ異
ラズト雖モ之ニ對シテ小切手ヲ振出スコトヲ得ザルガ故ニ頻繁ナル支拂ニ供ス
ルニハ適セザルナリ

抑モ銀行ガ預金ヲ爲ス所以ノモノハ利潤ヲ得ルガ爲メニシテ利潤ヲ得ント欲
セバ之ヲ運用セザルベカラズ然レドモ當座預金ノ如ク請求次第何時ニテモ拂戻

ノ義務ヲ負フトキハ其全部ヲ擧ゲテ之ヲ運用ニ供スルヲ得ズ常ニ相當ノ準備金
ヲ保有セザルベカラザルナリ之ニ反シテ定期預金ニ於テハ拂戻ノ時期定マレル
ヲ以テ之ガ運用ノ範圍大ニシテ常ニ多額ノ準備金ヲ置クノ必要少ナシトス是ヲ
以テ預金ニ對スル利息ノ歩合ハ當座預金ニ低ク定期預金ニ高カラザルヲ得ズ當
座預金ニ於テモ特別當座預金ハ普通ノ當座預金ヨリモ高ク預金手形ハ通常無利
息トス又定期預金ト雖モ期限ノ長短ニ從ヒテ其利率異ラザルヲ得ザルナリ
資金ノ供給未ダ潤澤ナラズシテ利率ノ一般ニ高キ我邦ニ於テハ預金ニ對スル
利息ノ高率ナルハ蓋シ已ムコトヲ得ズト雖モ其性質ヨリ之ヲ見ルトキハ當座預
金ノ目的ハ便益ヲ得ルニ在リテ利殖ニ存セザルガ故ニ全ク無利息トスルモ敢テ
不可ナキナリ故ニ歐洲諸國ノ中央銀行ニ於テハ當座預金ニ對シテ利息ヲ附セザ
ルヲ以テ原則ト爲スノミナラズ「英蘭銀行」ノ如キハ一人ノ預金ヨリ一箇年ニ生ジ
タル利潤ヲ其振出シタル小切手ノ枚數ニテ除シ一枚ニ對スル利潤六「ペンス」以下
ナルトキハ預殘高ノ増加ヲ請求シ又ハ全ク取引ヲ謝絶スト云フ又一八九〇年代
ニ於テ「佛蘭西銀行」特權繼續問題ノ起ルニ當リ預金利息ノ有無ハ世人ノ注意ヲ喚

起シタリシガ當時ノ調査報告ニ曰ク「佛蘭西銀行」ガ何人ニモ即時拂ノ預金ヲ許シ且之ニ附スルニ年一分ノ利子ヲ以テセバ十億「フラン」ノ預金ハ他ノ銀行ヲ出デ、佛蘭西銀行ニ移ルナラン」ト中央銀行ガ非常ニ巨額ナル預金ヲ有スルハ憂フベキニ非ズト雖モ之ニ利息ヲ附スルニ於テハ其大部分ヲ運轉シテ利殖ヲ爲スノ必要ヲ生ジ爲メニ準備ノ鞏固ヲ缺クノ恐アルガ故ニ諸國ノ中央銀行ガ當座預金ニ利子ヲ附セザルハ蓋シ其當ヲ得タルモノト謂フベキナリ我「日本銀行」モ當座預金ニ對シ政府ノ預入ニ係ルモノニハ利子ヲ附スルコトアルモ其他ハ總テ無利息ト爲シ主トシテ手形交換組合ニ屬スル銀行ノ預ケ入ルルモノトス

英米殊ニ倫敦紐育等ニ於テハ普通ノ銀行モ亦當座預金ニ對シテハ利息ヲ附セザルモノ多ク或ハ預金殘高ノ最低額ヲ定メ其以上ノ金額ニ對シテノミ利息ヲ與フルノ方法行ハル他ノ諸國ニ於テハ當座預金ニモ多少ノ利息ヲ附スルヲ通例トシ殊ニ我國ノ如キハ然リトス而シテ漸ク最近ニ至リ第一流ノ銀行ハ一定額以下ノ預金殘高ニ對シテハ利息ヲ計算セザルコト、ナレリ定期預金ニ對シテ利息ヲ附スルハ諸國ノ銀行ノ一般ニ行フ所ニシテ倫敦諸銀行ノ預金(通知預金)ノ利率ハ英

蘭銀行」ノ公定制引歩合ヨリ常ニ一分五厘低キヲ慣例トスト云フ歐洲諸國ノ大ナル中央銀行ハ預金ニ利息ヲ附セザルヲ原則ト爲スコト上述ノ如シト雖モ「英蘭銀行」ハ大戰ノ際利息附ノ預金ヲ受入レタルコトアリ又我「日本銀行」ハ定期預金ニ對シ極メテ低率ノ利息ヲ與フルモノトス

以上記述セル諸種ノ預金ハ本邦ニ於テ各種ノ銀行ガ之ヲ行フ程度同一ナラザレドモ要スルニ一般普通ノ受信的業務ト謂フベキナリ然ルニ「貯蓄銀行」ノミノ取扱ニ屬スル預金アリ其ノ最モ重要ナルハ通常複利ノ方法ヲ用キ且請求次第拂戻スベキ小額預金ナリトス蓋シ零碎ナル資金ヲ受ケ入レテ確實ニ之ヲ利殖スルハ貯蓄銀行本來ノ職務ナレバナリ即チ「貯蓄銀行法」ノ現行規定ニ據レバ「複利ノ方法」ニ依リ預金ヲ受入ル、コト「及ビ」一回拾圓未滿ノ金額ヲ預金トシテ受入ル、コト「(普通貯金)ハ」貯蓄銀行」ニシテ初メテ營ミ得ル業務ナリトス其他「豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ル、コト」据置貯金」及「期限ヲ定メ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ル、コト」定期積金」モ亦然リトス

第三節 小切手

定期預金ニ對シテハ銀行ハ預金證書ヲ交付シ滿期ニ至リ證書引換ニ預金ノ元利ヲ支拂フモノトス當座預金ニ於テハ出入頻繁ナルガ故ニ通帳ナルモノヲ預金者ニ與ヘ通例一口毎ニ預入高支拂高ヲ記入シテ計算ヲ明カニシ預ケ主ガ預金ヲ引出スニハ小切手ヲ以テスルナリ此小切手ハ豫メ銀行ヨリ預金者ニ印刷セル定式用紙ヲ交付シ振出ス毎ニ受取人ノ氏名金額及ビ振出ノ年月日ヲ記入シテ振出人署名スルモノトス

小切手(Cheque或ハCheck)ハ伊太利ニ濫觴シ次デ和蘭ニ行ハレタレドモ其使用ノ最モ發達セルハ英國ニシテ同國ヨリ次第ニ他ノ諸國ニ傳播セルナリ今日諸國ニ行ハル、小切手ニ就テ法律上ノ性質ヲ比較スルトキハ其間ニ多少ノ差異アリテ一定義ノ下ニ之ヲ一括スルヲ得ズト雖モ經濟上ノ作用ニ於テハ異ル所ナク要スルニ當座勘定ノ契約アル者ガ銀行ヲシテ記載ノ金額ヲ呈示次第受取人又ハ所持人ニ支拂ハシムル手形ニ他ナラザルナリ我商法ニ於テハ小切手ノ支拂人ハ必

ズシモ銀行タルヲ要セズト雖モ銀行ナラザル支拂人ハ實際例外ニ屬スルモノトス又我商法第五百三十三條ニ曰ク小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ十日内ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要スト小切手ノ所持人ガ其小切手ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムベキ期間ニ關シテハ諸國ノ法律規定ヲ一ニセズ英國ニ於テハ相當ノ期間ト爲シ佛國ニ於テハ振出地ト支拂地トノ異同ニ依リテ期間同ジカラズ我國ニ於テハ上述ノ如ク總テ十日内ト定ムト雖モ要スルニ其期間ハ皆短シトス是レ即チ小切手が長ク轉帳流通スルコトナク主トシテ支拂ノ要具タル所以ナリ

小切手ノ表面ニ二條ノ平行線ヲ畫キ其線内ニ單ニ「銀行」ト記載シ又ハ特定銀行ノ商號ヲ記載スルコトアリ前者ヲ「普通線引」(General Crossing)ト稱シ後者ヲ「特別線引」(Special Crossing)ト名ヅク普通線引ノ場合ニ於テハ支拂銀行ハ銀行業ヲ營ム者ニ對シテノミ支拂ヲ爲シ特別線引ノ場合ニ於テハ其特定銀行以外ニハ支拂ヲ爲ササルナリ蓋シ小切手ハ多クハ持參人拂ナルヲ以テ之ヲ竊取セル者又ハ路上ニ於テ拾得セル者ト雖モ支拂銀行ニ至リテ記載ノ金額ヲ受取ルコトナシトセズ此危險ヲ防グガ爲メニ斯ノ如ク線引ヲ爲スモノニシテ所持人ハ多少ノ不便ヲ被ルガ

如シト雖モ常ニ銀行ト取引アルニ於テハ毫モ其憂ナキナリ〔線引小切手〕ノ最モ多キハ英國ニシテ我國ニ於テモ多少使用セラレ商法ハ其第五百三十五條ニ之ニ關スル規定ヲ掲グ

米國ニハ〔保證小切手〕(Certified Check)ナルモノアリ支拂銀行ガ振出人又ハ所持人ノ請求ニ因リ小切手ノ表面ニ支拂保證ノ記號ヲ爲セルモノ是ナリ銀行ガ此保證ヲ爲ストキハ支拂ノ義務全ク銀行ニ歸シテ大ニ銀行券ニ類似スルヲ以テ〔國立銀行〕ニ對シテハ預金高以上ノ保證ヲ禁ズレドモ實際ハ制限外ノ保證行ハル、ト云フ英國ニ於テハ小切手ノ引受ハ其例甚ダ少ナシト雖モ一旦銀行ニ於テ其手續ヲ爲ストキハ爲替手形ノ引受ト同一ノ效力ヲ生ズルモノトス我國ニ於テモ小切手ノ〔支拂保證〕ナルモノ行ハレ銀行ガ支拂ノ引受ヲ爲スニ他ナラズト雖モ我商法ニ於テハ小切手ノ引受ナキガ故ニ所謂支拂保證ハ手形上ノ效力ヲ生ゼザルナリ

我商法ニ於テハ條文ヲ以テ明示スルガ如ク預金者ハ自己ヲ受取人トシテ小切手ヲ振出し以テ現金ヲ引出スコトヲ得ルモノニシテ實際ニ於テモ常ニ行ハル、所ナリ然レドモ小切手ノ最モ重要ナル職能ハ他人ニ支拂ヲ爲スニ當リ其用ニ供

セラレ、ニ在リトス若シ預金者常ニ現金ヲ引出シ支拂ヲ爲ストキハ幾多ノ手數ヲ要スト雖モ一片ノ小切手ヲ以テ其目的ヲ達スルヲ得バ其便益甚ダ大ナリ而シテ受取人銀行ト取引ヲ有セズ支拂銀行ニ赴キテ現金ヲ受取ルニ於テハ手數ヲ要シ時間ヲ費シ寧ロ不便ヲ感ズルヤ言フ埃タズ現今我國ニ於テ小賣商等ガ小切手ヲ以テ支拂ハル、コトヲ好マザルハ敢テ怪ムニ足ラズト雖モ銀行業大ニ發達シテ多少ノ資金ヲ有スル者ハ皆銀行ト關係ヲ有スルニ至レバ小切手ノ使用盛ニ行ハレテ取引ノ敏活ヲ來スコト實ニ大ナリトス

現今世界ニ於テ小切手使用ノ最モ盛ナルハ英米ノ二國ニシテ之ヲ數回ノ調査ニ徴スルニ正確ナル數字ヲ以テ之ヲ證明スル能ハズト雖モ商業上ノ支拂ハ大半小切手ヲ以テスルヤ疑ナキナリ而シテ其使用ノ發達スルニ從ヒ小額ノ小切手ノ増加スルハ是レ自然ノ趨勢ニシテ倫敦ニ於テハ五、シルリング〔地方ニ於テハ一〕シルリングノ小切手往々使用セラレ、コトアリト云フ而シテ他方ニ於テ巨額ナル支拂ニ小切手ノ用キラル、ハ言フヲ埃タズ日清戰爭後清國政府ト我政府トガ倫敦ニ於テ價金ノ受拂ヲ爲スヤ常ニ小切手ヲ用キ其最大ナルモノハ實ニ一千一百

萬磅餘ニシテ當時世界最大ノ小切手] ("The largest cheque in the world")ト稱セラレタリ一九二五年五月二日紐育ニ現ハレタル一小切手ハ其金額實ニ一億四千六百萬弗餘ナリシト云フ

第四節 振替制度及ビ手形交換制度

當座預金ニ對シテ小切手ヲ振出し以テ現金ノ支拂ニ代フルノ便利ハ前述ノ如シ然レドモ小切手ノ所持人ガ銀行ト取引ナキトキハ却テ不便ヲ感ズルコトナシトセズ又小切手ノ所持人銀行ト取引アリト雖モ振替制度又ハ手形交換制度ノ設備ナクンバ其便益ヲ全フスルヲ得ザルナリ

先ヅ[振替制度(Der Giroverkehr)]ヲ説明センニ例ヘバ茲ニ一銀行アリテ甲乙丙丁等ハ皆此銀行ニ當座勘定ヲ有スルニ當リ甲ガ乙ニ若干ノ金額ヲ支拂ハントスルトキハ甲ハ銀行ヨリ現金ヲ引出シテ乙ニ支拂フヲ要セズ乙ニ與フルニ小切手ヲ以テスレバ乙ハ之ヲ銀行ニ呈示スルモ多ク現金ヲ受取ラズ自己ノ當座勘定ニ記入セシムルモノトス故ニ銀行ハ毫モ現金ヲ動かサズ單ニ帳簿上ニ於テ振替ヲ爲ス

ノミ而シテ甲乙間ノ受拂ハ決済セラル、ナリ其他丙丁間モ之ト異ルナク同一ノ銀行ニ當座勘定ヲ有スル者ハ皆然リトス以テ其便益ノ鮮少ナラザルヲ知ルベキナリ

帳簿上ノ振替ヲ以テ預金者間ノ受拂ヲ決済スルコトハ其手續ニ差異アリト雖モ古代ニ於テ既ニ行ハレタル所ニシテ第十六世紀ノ末ヨリ第十七世紀ノ初ニ互リヴニス、アムステルダム、ハンブルヒ等ニ設立サレタル所謂[振替銀行]ハ此業務ヲ行フガ爲メニ起リタルモノニシテ多年世人ニ至大ノ便益ヲ與ヘタリシガ貨幣制度ノ整理セラル、ニ及ンデ其必要頓ニ減ジ漸次其跡ヲ絶テリ而シテ第十九世紀ノ後半ニ於テ振替制度ヲ再興シ大規模ヲ以テ之ヲ行フニ至レルハ獨逸ノ中央銀行ナリトス

今之ガ大要ヲ記述センニ會社商人等ハ勿論何人ト雖モ銀行ノ承認ヲ經テ當座勘定ヲ開キ得ルモノナレドモ取引ノ大小ニ應ジテ常ニ相當ノ預殘高ヲ存スルヲ要シ且預金ハ無利息ナリトス預入ハ現金ノミナラズ銀行ヨリ手形ノ割引ヲ得タルトキ又ハ銀行ヨリ借入金ヲ爲シタルトキハ一旦之ヲ當座勘定ニ記入スルモノ

ニシテ此預金ヲ支拂ニ供セントストキハ通常ノ小切手ヲ以テシ受取人モ亦銀行ニ當座勘定ヲ有スルトキハ所謂赤色小切手ナルモノヲ以テ自己ノ勘定口ヲ有スル銀行ノ本店若シクハ支店ニ申込ムモノトス銀行ハ直ニ其要求ニ應ジ申込人ノ勘定口ヨリ小切手記載ノ金額ヲ被指定人即チ受取人ノ勘定口ニ振替フルナリ而シテ獨逸中央銀行ハ現今全國ニ四百五十餘ノ支店ヲ有スルガ故ニ單ニ同一ノ都市ニ於テノミナラズ遠隔セル地方ニ於ケル支拂モ此振替ヲ以テ決済スルコトヲ得ルヲ以テ其便大ナリトス又銀行ニ當座勘定ヲ有セザル者ト雖モ小額ノ手数料ヲ支拂フトキハ當座勘定口ヲ有スルモノニ對シ拂込ムコトヲ得ルモノニシテ其作用恰モ自働電話ノ如シ要スルニ振替制度ハ電話ト同ジク加入者ノ増加スルニ從ヒ其便利益大ナリトス

佛蘭西、白耳義、瑞西等ノ中央銀行ノ如キモ多數ノ支店ヲ有シ振替ノ業務ヲ行フト雖モ獨逸中央銀行ニ比スルトキハ遜色ナキヲ得ザルナリ又日本銀行ニ於テモ「當座勘定付替」ナルモノ大正四年七月ヨリ行ハル、モ日本銀行本支店ニ當座勘定口ヲ有スル銀行間ニ限ラル、モノトス

斯ノ如ク多數ノ支店ヲ有スル銀行ノ振替業務ハ殆ド全國ヲ包括スルモノナリト雖モ要スルニ一銀行内ノ取引ニ止マルガ故ニ他銀行ニ對スル受拂ノ決済ハ手形交換制度ニ依ラザルベカラズ是ヲ以テ獨逸ノ如キ中央銀行ノ振替業務ノ盛ナルニ拘ラズ一九二四年末ニ於テ伯林、漢堡等ノ五十一市ニハ手形交換所ノ設置ヲ見ルナリ然レドモ手形交換ノ盛ナルハ英國及ビ米國ヲ以テ第一トス

先ヅ「手形交換制度」(The Clearing System)ノ必要ナル所以ヲ見ルニ例ヘバ甲乙丙丁等各其預金勘定ヲ有スル銀行ヲ異ニスルニ當リ甲ガ乙ニ第一銀行宛ノ小切手ヲ與フレバ乙ハ第一銀行ニ至リテ直接支拂ヲ請求スルコトナク通例其預金勘定ヲ有スル第二銀行ニ持參シテ預金ト爲スヲ以テ第二銀行ハ第一銀行ニ對シテ之ヲ取付ケザルヲ得ザルナリ丙丁更ニ第三第四ノ銀行ト預金勘定ヲ有スルトキハ又前述ノ如キ關係ヲ生ジ銀行ノ數少ナキニ於テハ相互ノ受拂ヲ決済スルコト困難ナラズト雖モ銀行ノ數増加シテ小切手ノ使用盛ナルニ至リテハ銀行間ニ於ケル受拂ノ關係縱橫ニ錯雜交互シ各銀行箇々別々ニ授受ヲ爲スニ於テハ其勞費決シテ少ナカラザルナリ而シテ此等ノ勞費ヲ減ジ僅少ノ時間ヲ以テ其目的ヲ達スルモ

ノハ實ニ手形交換ノ制度ナリトス

手形交換制度ノ第一ニ發達セルハ倫敦ニシテ其起レル年代ハ詳ナラズト雖モ一七七三年前ニ在ルハ明白ナリ當時其ノ世人ニ注目セラレザリシハ言フヲ俟タズ銀行間ニ於テモ之ヲ非難スル者アリテ著名ナル銀行ニシテ之ニ加ハラザリシモノアリシト云フ然レドモ其利便ハ漸次人ノ認ムル所トナリテ組合銀行ノ數増加シ最初ニハ個人銀行ノミナリシモ一八五四年ニ至リ株式組織ノ銀行ノ加入ヲ許シ一八六四年ニハ「英蘭銀行」モ亦之ニ加ハリ「倫敦手形交換所」ハ金融市場最要ノ一機關トナレリ然レドモ近時ハ合併等ノ爲メニ其組合銀行ノ數ハ減少シテ現今ハ僅ニ十行トス而シテ交換所ノ附近ニ存在スル此等諸銀行ノ本店及ビ百餘ノ支店ノ間ニ行ハル、交換ヲ「市中交換」(Town Clearing)ト稱ス此交換ハ通常午前十時三十五分ニ開始スルモノニシテ各組合銀行ノ「持出交換方」ハ諸銀行ヨリ取立ツベキ小切手手形ヲ各銀行毎ニ區別シ銀行ノ「受入交換方」ハ之ヲ受取リテ帳簿ニ記入シ十一時五分ヲ以テ受入ヲ中止スルモノトス午後ノ交換ハ二時三十五分ニ始マシ各銀行ノ「持出交換方」ガ他銀行ノ「受入交換方」ニ小切手手形ヲ配布シ又他ノ銀行

ヨリ小切手手形ヲ受取ルコトハ通常四時十分マデ繼續シ不渡トナリタル小切手手形ノ返還ハ五時五分ヲ限トス各銀行ノ交換方ハ午前及ビ午後ニ於ケル小切手手形ノ持出高ト受入高トヲ計算シ總計ノ差引ニ於テ若干ノ金額ヲ支拂フベキトキハ「英蘭銀行」ニ宛テ其預金勘定口ヨリ交換所勘定口ニ振替ノ請求ヲ爲シ若干ノ金額ヲ受取ルベキトキハ交換所勘定口ヨリ之ヲ其預金勘定口ニ振替フルノ請求書ヲ差出スモノニシテ毫モ貨幣ヲ用キズ「英蘭銀行」ノ帳簿上ニ於テ交換尻ノ振替ヲ爲スナリ新ニ此組合ニ加入スルコトハ多年之ヲ許サザルヲ以テ「市中交換」ノ便ヲ利用セントスル銀行ハ既ニ加入セル銀行ニ合併スルノ外方法ナク然ラザレバ組合銀行又ハ「英蘭銀行」ニ當座勘定ヲ開キ之ヲ經由シテ小切手手形ヲ持出スコトヲ得ルノミ「地方交換」(Country Clearing)ナルモノハ通常午前十時三十分ニ開始シ午後零時三十分マデ受入ヲ繼續スルモノトス蓋シ英蘭及ビ威爾斯ノ各地ニ於ケル銀行ハ合併ニ依リ其數著シク減少セルモ其店舗ハ次第ニ増加シ而シテ此等ノ地方銀行ハ倫敦手形交換所組合銀行ノ一ヲ代理者ト爲シテ日々受入ル、他地方ノ銀行ノ小切手ハ之ヲ一括シテ其代理者ニ送付スルヲ以テ該代理銀行ハ之ヲ地方

交換ニ持出シ支拂銀行ノ代理者ニ交付スルモノトス然レドモ市中交換ノ如ク即日ニ決済スルモノニ非ズ各代理銀行ハ上述ノ如ク受取リタル小切手ヲ各自關係ノ地方銀行ニ郵送シ地方銀行ハ翌日之ヲ検査シ其報告ハ翌朝ニ至リ倫敦ノ代理銀行ニ達スルガ故ニ代理銀行ハ之ニ依リ交換所ニ於テ決済スルモノトス此地方交換ナルモノハ一八五八年ニ始マレルモノニシテ各地ノ銀行ニ與フル便益甚ダ大ナルモノアリト雖モ決済ノ終了ニ三日ヲ要シ且交換セラル、ハ小切手ニ限ラズ又倫敦ノ諸銀行ニシテ手形交換所ノ近傍ニ在ラザルモノハ從來手形交換ノ便益ニ浴スル能ハザリシガ此等ノ銀行相率テ交換所組合銀行ニ合併シ其支店トナリタルガ故ニ一九〇七年二月ヨリ〔府内交換〕(Metropolitan Clearing)ナルモノ開始セラズ、ニ至レリ即チ各銀行ノ本店ハ〔府内交換〕ノ區域ニ於ケル他銀行ノ支店ノ支拂フベキ小切手手形ヲ通常午前九時ヨリ十時ニ至ルノ間ニ交換所ニ持出シ各本店之ヲ受取リテ其支店ニ送付スルモノニシテ其決済ハ市中交換ニ依リテ同日午後ニ行ハル、モノトス

英國ニハ倫敦以外二十餘ノ都市ニモ手形交換所存在スレドモ其交換高ハ固ヨ

リ倫敦ノ交換所ニ比スベキニ非ズ歐洲大陸諸國ニモ手形交換ノ制度既ニ成立スト雖モ未ダ隆盛ノ域ニ達セズ而シテ柏林、巴里等ニ於テモ尙ホ然ル所以ノモノハ小切手ノ使用未ダ英國ノ如クニ盛ナラザルコト其主因ナレドモ中央銀行ノ振替制度ハ手形交換ノ必要ヲ減ズルコト少ナカラザルナリ

之ニ反シテ米國ニ於テハ交換所ノ數二百餘ニ達シ就中紐育ノ手形交換所ハ隆昌ヲ極ム即チ交換高ノ大ナル全國總交換高ノ過半ヲ占ムルノミナラズ遂ニ倫敦手形交換所ヲ凌駕スルニ至レリ而シテ其交換ハ午前一回ニシテ組合銀行ヨリ派出セル〔配布方〕ハ十時ノ號鈴ト共ニ順次ニ持出手形ヲ支拂者ナル各銀行ニ配布シ〔整理方〕ハ各其席ニ坐シテ配布セラレタル手形ヲ受取リ次デ計算ニ從事スルモノトス而シテ交換尻ニ於テ借方トナリタル銀行ハ午後一時三十分マデニ金貨、政府紙幣又ハ交換所ノ發行セル金券等ヲ以テ其差額ヲ交換所ニ拂込ミ貸方トナリタル銀行ハ一時半後ニ於テ交換所ヨリ之ヲ受取ルノ方法多年行ハレタレドモ一七一七年以來〔紐育聯邦準備銀行〕ニ於ケル預金勘定ノ振替ニ依ルコト、ナレリ而シテ他ノ手形交換所モ次第ニ之ニ倣フモノ、如シ又所在地ヲ異ニスル銀行間ノ小

切手ノ取立ニ就テモ聯邦準備制度ニ依リ大ニ改良セラル、ニ至レリ之ヲ略述セ
 ンニ甲銀行即チ小切手ヲ受入レタル銀行及ビ乙銀行即チ小切手ノ支拂人タル銀
 行ガ其所屬ノ聯邦準備銀行ヲ同ジウスル場合ニハ甲銀行ハ該聯邦準備銀行ヲ經
 由シテ小切手ヲ乙銀行ニ送付シ其決済ハ該聯邦準備銀行ニ於ケル甲乙銀行ノ預
 金勘定ニ於テ之ヲ行フモノトス甲乙銀行ガ各其所屬ノ聯邦準備銀行ヲ異ニスル
 場合ニハ小切手ハ更ニ乙銀行所屬ノ聯邦準備銀行ヲ經由シテ乙銀行ニ到着シ而
 シテ其受拂ハ結局聯邦準備局ニ於ケル兩聯邦準備銀行ノ〔金爲替資金〕(Gold Settlement Fund)ナルモノヲ増減シテ結了セラル、ナリ上述ノ方法ハ諸都市間ノ送金ヲ
 節減セルコト大ナリト云フ

我國ニ於テモ今ヤ東京大阪ハ勿論三十餘ノ都市ニハ手形交換所ノ成立スルア
 リ而シテ手形交換ノ始テ行ハレタルハ大阪ニシテ明治十二年ナリトス蓋シ大阪
 ノ商人ハ從來手形ノ使用ニ慣レ且當時銀行ノ數増加シテ手形ノ流通少シク盛況
 ヲ呈セルヲ以テ茲ニ手形交換ノ制度ヲ見ルニ至レルナリ東京ニ於テハ手形交換
 ノ制度ハ明治二十年十二月手形取引所ナルモノニ附屬シテ其端緒ヲ開ケルモ組

織不完全ニシテ殊ニ交換尻決算ノ法宜キヲ得ザリシヲ以テ明治二十四年ニ至リ
 「東京交換所」ヲ設ケ倫敦ノ手形交換ノ制ニ倣ヒ交換尻ノ決算ハ「日本銀行」ノ當座勘
 定ニ於テ帳簿上ノ振替ニ由リテ結了シ組合銀行間ニ於テ交換スベキ手形小切手
 ハ盡ク交換所ニ持出シ直接取引ヲ爲ササルコト等ノ事項ヲ定メタリ爾來交換ノ
 事業ハ長足ノ進歩ヲ爲シ大正十四年十二月東京手形交換所ト改稱シ同十五年末
 社團法人トナレリ目下社員銀行ノ數ハ四十餘ニシテ此等ノ銀行ニ代理交換ヲ
 託スルモノハ社員銀行ノ支店ヲ併セテ約三百ナリトス交換ハ毎日午前十時三十
 分ニ開キ同十一時十分ニ結了スルモノニシテ諸般ノ手續ハ多ク範ヲ倫敦手形交
 換所ニ採リタルモノナリ然レドモ交換シタル手形小切手ニシテ不渡ノモノアリ
 タルトキハ其銀行ハ當日午後三時マデニ其事由ヲ記シテ持出セル銀行ニ返却シ
 其代金ヲ受取ルベキモノトス

第五節 準備金及ビ預金ノ運用法

銀行券ノ發行高ニ對シ相當ノ正貨準備ヲ要スル所以ハ曩ニ述ベタルガ如シ而

シテ當座預金ハ請求次第支拂フベキモノタルノ點少シモ銀行券ニ異ナラザルガ故ニ之ニ對シテ相當ノ支拂準備金ヲ要スルヤ明ナリトス定期預金ト雖モ期限ノ滿ツルト共ニ拂戻ノ義務アルモノニシテ亦之ニ應ズルノ準備ナカルベカラザルナリ而シテ準備金ハ之ガ運用ヲ許サザルモノナレバ其金額ニシテ大ナルトキハ營業ノ資金ヲ減ジ從テ銀行ノ利潤少ナカラザルヲ得ズ之ニ反シテ準備金額ヲ少ナクシ以テ利潤ノ増大ヲ計ルトキハ不時ノ需要起ルニ當リ債務ヲ辨濟シ能ハザルノ危險之ニ伴フモノトス是レ即チ銀行ノ當事者ガ準備金額ヲ定ムルニ當リテ大ニ判斷ニ苦ム所以ナリ而シテ社會全般ノ利害ヨリ之ヲ見ルニ諸銀行ノ準備金少ナキニ失スルトキハ信用ノ基礎薄弱トナリ又準備金多キニ過グルトキハ往時ノ振替銀行ニ類シ空シク多額ノ資金ヲ蓄藏スル所以ナリトス

銀行券ノ兌換準備ニ關シテハ諸國概ネ嚴密ナル法規ヲ設クト雖モ預金ノ支拂準備ニ就テハ其例少ナシ蓋シ往時ニ在リテハ預金事業尙ホ幼稚ニシテ世人ノ之ヲ顧ミザリシニ反シ銀行券ノ發行ハ當時銀行ノ主要ナル業務タリシヲ以テナリ又今日ト雖モ預金ノ預入ハ預金者ノ自由意思ニ出ヅルニ反シ銀行券ノ受納ハ受

働的ニシテ實際提供者ヨリ多少強制セラレ、感ナシトセズ是レ特ニ銀行券ノ所持者ヲ保護スルガ爲メニ兌換準備ニ關スル法規ヲ設クル一理由ナリトス然レドモ法律ヲ以テ預金ノ支拂準備ヲ規定スルモノ亦絶無ナルニ非ズ例ヘバ北米合衆國ニ於テハ「聯邦準備銀行」ノ株主銀行ヲシテ準備金ヲ其所屬「聯邦準備銀行」ニ預ケ入レシムルモノトス即チ預金ヲ支拂期限三十日以内ノモノト其以上ノモノトニ區別シ前者ニ對スル準備ノ割合ハ所謂「中央準備市」(Central Reserve Cities)ニ在ル株主銀行ハ一割三分以上所謂「準備市」(Reserve Cities)ニ在ルモノハ一割以上其他ノ銀行ハ七分以上トシ後者ニ對スル準備ノ割合ハ各株主銀行ヲ通ジテ三分以上トス而シテ各「聯邦準備銀行」ハ其預金ニ對シ三割五分以上ノ準備ヲ置クヲ要スルナリ曩ニ述ベタルガ如ク白耳義ノ中央銀行ニ於テハ銀行券ト當座預金トノ合計額ニ對シ少ナクモ其四割ニ相當スル正貨ヲ準備スベキモノトシ「和蘭銀行」ノ規定モ之ニ同ジトス獨逸ノ新中央銀行モ預金ニ對スル準備ノ割合ヲ特ニ規定シ「南阿準備銀行」モ亦然リトス

法律上ノ規定ノ有無ニ關セズ事實上預金ノ支拂ヲ確實ナラシメントセバ常ニ

相當額ノ貨幣ヲ保有セザルベカラズ而シテ其額ヲ定ムルハ決シテ容易ニ非ズ地方ニ依リテ異リ時期ニ從テ不同ナルノミナラズ各銀行ノ間ニ於テモ差異ナキヲ得ザルナリ例ヘバ商業地ノ銀行ニ於テハ預金ノ出入頻繁ナルガ故ニ準備金モ比較的多額ヲ要スレドモ農業地ノ銀行ニ於テハ收穫後ハ預ケ入レ多ク肥料ノ買入地租上納等ノ時期ニハ引出増加シテ準備金ヲ要スルコト大ナリトス要スルニ常ニ預金者ノ職業、預金ノ性質ヲ詳ニ觀察シ數年ノ經驗ヲ積ムトキハ平日必要トスベキ準備金額モ大略一定シ且季節ニ依リ之ヲ増減スルノ程度モ略ボ之ヲ測定スルヲ得ルナリ其他政局ノ變移、收穫ノ豊凶、内外商業ノ盛衰、外國爲替相場ノ變動等皆銀行當事者ノ注目シテ準備金増減ノ標準ト爲スベキモノタリ殊ニ恐慌ノ起ラントスルニ當リテハ前兆ノ見ルベキモノアルヲ以テ準備金ヲ増加スルノ遑ナキニ非ザルナリ而シテ恐慌ノ襲來スルニ當リテハ中央銀行其衝ニ當リテ他ノ銀行ヲ助ケ中央銀行ナキ國ニ於テハ諸銀行連合同盟シテ團體ヲ作ルノ外良策ナキモノ、如シ

準備金ノ多少ヲ定メ適宜ニ其増減ヲ行フハ右ニ述ベタルガ如ク容易ナラズト

雖モ預金ヲ以テ主タル受信的業務ト爲ス銀行ハ必ズ相當ノ準備ナカルベカラズ而シテ此準備金ハ或ハ銀行各自ニ之ヲ保有シ或ハ之ヲ中央銀行ニ預入ル、モノニシテ後者ハ之ヲ「單一準備制度」(One Reserve System)ト稱シ其範ヲ示スモノハ英國ニシテ「英蘭銀行」ハ實ニ英國ニ於ケル準備金ノ共同貯藏所ナリトス即チ英國ノ諸銀行ハ多年ノ習慣トシテ日々ノ營業上ニ必要ナル貨幣ハ各自ニ之ヲ保管スルモ其以上ニ剩餘アルトキハ地方ノ銀行ハ之ヲ倫敦ニ送り倫敦ノ銀行ハ「英蘭銀行」ニ其剩餘金ヲ預ケ入ル、モノトス而シテ「英蘭銀行」ハ斯ノ如ク諸銀行ヨリ巨額ノ預入ヲ爲スト雖モ其全額ヲ空シク貯藏スルモノニ非ズ其過半ハ之ヲ運用シテ以テ己ヲ利シ社會ヲ益スルナリ是レ即チ單一準備制度ノ長所ナリト雖モ一國全體ヨリ之ヲ見ルトキハ準備金額自ラ過少ニ失シ易ク經濟社會ヲシテ中央銀行ノ準備金ノ増減ヲ感ゼシムルコト過敏ナラシムルニ至ル何トナレバ諸銀行竝ニ商工業者ガ非常ノ場合ニ於テ資金ノ融通ヲ得ルノ難易ハ中央銀行準備金ノ多少ニ依ルコト大ナレバナリ斯ノ如ク中央銀行ノ準備額ノ十分ナルヤ否ヤハ一般經濟社會ニ對シテ至大ノ關係ヲ有スルガ故ニ常ニ豊富ナル準備金ヲ保有スルヲ要シ其割合

ハ普通ノ銀行ヨリモ著シク高カラザルヲ得ズ是レ即チ「英蘭銀行」ガ割引歩合ヲ變更スルコト自ラ頻繁ナル所以ニシテ單一準備制度ノ一短所ナリト謂ハザルベカラズ準備金ノ集中未ダ十分ニ行ハレザル場合ニ於テモ中央銀行ハ恐慌等ノ際他ノ銀行ヲ援助スルノ責務アルト同時ニ自己ハ他ニ依頼スルコト能ハザルヲ以テ常ニ十分ナル準備金ヲ保有スルヲ要スルナリ

銀行各自ニ準備金ヲ保有スルトキハ之ヲ一國全體ヨリ見レバ單一準備制度ニ於ケルヨリモ準備金ノ額自ラ大ナルヲ得從テ信用制度ノ基礎一層堅固ナルガ如シ然レドモ準備金ハ固ヨリ銀行債務ノ一少部分ニ相當スルニ過ギザレバ預金ノ引出等盛ニ起ルニ當リ其求ニ應ズルコト容易ナラズ且市場不穩ノ状態ヲ呈シ恐慌ノ起ラントスルガ如キ場合ニ於テハ人心ヲ靜ムル爲メニ貸付割引等ノ請求ニ應ジテ少シモ躊躇セザルコト必要ナリ然ルニ各銀行ガ自ラ準備金ヲ擁シ自己ノ防禦ニノミ汲々タルトキハ斯ノ如キ處置ニ出ヅルモノ少ナク一二ノ銀行ガ進デ貸付割引ノ請求ニ應ズルモ他ノ銀行ニシテ退嬰ノ態度ヲ取ルニ於テハ毫モ市場ノ人心ヲ靜ムルコト能ハザルナリ是ヲ以テ紐育市ノ諸銀行ハ恐慌ノ起ルニ當リ

「ダグンバー(C. F. Dunbar)ノ所謂結合準備法」(Combined Reserves)ヲ採ルコト數回ニ及ベリ第一回ハ一八六〇年ニシテ恰モ南北戰爭ノ將ニ破裂セントスル危機ニ際シ商業社會ノ信用全ク地ニ墜チ債務ノ辨濟ニ窮スル者續出シ若シ之ヲ救ハズンハ恐慌起リテ銀行モ亦支拂停止ヲ免レザルベキヲ以テ紐育手形交換所組合ニ屬スル諸銀行ハ箇々自衛ノ策ヲ捨テ各銀行ノ有スル準備金ヲ共同ノ基金ト看做シ互ニ相融通スルコト、シ且手形交換所ハ其組合銀行ニシテ手形公債大藏省證券ヲ擔保ニ提供スル者ニ一種ノ證券(Clearing House Loan Certificate)ヲ與ヘ交換尻ノ決濟ニ用ウルヲ得セシメタリ茲ニ於テ各銀行ハ其準備金ヲ増加スルモ自己ノ地歩ヲ固クスルニ非ズ貸出ヲ爲スモ自己ノミ準備金ヲ減少スルニ非ザルヲ以テ皆進デ貸付割引ノ請求ニ應ゼリ而シテ此方法ハ大ニ其效ヲ奏シ市場ノ情況忽チ平穩ニ歸シ銀行ハ貸出ヲ擴張スルト共ニ預金モ亦増加セリ後一八七三年ニ紐育市ノ銀行ハ再ビ此法ヲ採リタレドモ恐慌激烈ニシテ之ヲ鎮定スルヲ得ザリシガ一八八四年一八九〇年及ビ一八九三年ノ三回ニハ恐慌ヲシテ其極度ニ達セシメザルコトヲ得タリ此方法ハ紐育以外ノ諸市ニモ從來採用セラレタリシガ一九〇七年ノ恐慌

ニ際シテハ「手形交換所貸付證券」ノ發行數十箇所ニ及ビ殊ニ紐育ノ發行額ハ非常ノ巨額ニ上レリト云フ又一九一四年ニモ八月ヨリ十二月ニ互リ全國ヲ通ジテ二億弗餘ノ發行ヲ爲セリ斯ノ如ク「結合準備法」ハ其效果ヲ收メタル場合少カラザレドモ要スルニ臨機ノ處置タルヲ免レズ茲ニ於テ曩ニ述ベタルガ如ク一九一四年ニ至リ「聯邦準備銀行」ナルモノ設立セラレタリ其數十二ニシテ歐洲諸國ノ中央銀行ト全然同一ニアラザレドモ其株主銀行ヲシテ其法定準備金ノ全部ヲ預ケ入レシメテ其集中ヲ謀ルト同時ニ手形割引ノ方法ニ依リ株主銀行ニ資金ノ貸出ヲ爲シ而シテ銀行券ノ發行伸縮力ニ富ムノミナラズ「聯邦準備銀行」間ニ於テモ互ニ資金ノ融通ヲ爲シテ相援クルコトヲ得ルナリ是ヲ以テ今後恐慌發生スルガ如キ場合ニ於テハ專ラ之ガ鎮靜ノ任ニ當ルモノハ此等ノ「聯邦準備銀行」ナリトス「南阿準備銀行」モ亦民間諸銀行ヲシテ其當座預金ノ一割定期預金ノ三分ニ相當スル準備金ヲ預ケ入レシムルモノトス

準備金ノ性質及ビ制度ハ以上述べルガ如クニシテ當業者ノ大ニ注意スベキモノタルヤ云フヲ埃タズト雖モ預金運用ノ方法宜シキヲ得ルニ非ザレバ縱令多額ノ準備金ヲ有スルモ支拂停止ヲ招クコトアルベキナリ而シテ曩ニ銀行券ヲ説明スルニ當リテ發券銀行ノ業務制限ヲ論ゼルト其理由同一ナルヲ以テ重ネテ之ヲ

説クヲ要セザルベシト雖モ一言以テ之ヲ蔽ヘバ巨額ノ預金ヲ有スル銀行ハ投機的事業ヲ行ハザルノミナラズ資本ヲ固定セシムル業務ヲ避ケザルベカラザルナリ即チ不動産ヲ抵當トシテ長期ノ貸付ヲ爲スガ如キハ資金ノ固定ヲ來タスモノニシテ一旦預金引出ノ盛ナルニ當リテ之ヲ賣却セントスルモ其目的ヲ達スル能ハザルナリ之ニ反シテ善良ナル手形ノ割引ハ資金ノ回收速ニシテ且確實ナルヲ以テ預金銀行最良ノ放資法ナリトス彼ノ「コール、マネー」ノ如キハ回收最モ迅速ナルヲ以テ倫敦ノ諸銀行ハ直ニ之ヲ準備金ニ算入スルモノ少ナカラズトス蓋シ倫敦ニ於テ「コール、マネー」ヲ借入ル、者ハ主トシテ「ビルブローカー」ニシテ優等ナル擔保品ヲ提供シ而シテ必要ナル場合ニハ「英蘭銀行」ヨリ資金ヲ得ルコト容易ナルガ故ニ其回收ハ極メテ確實ナルガ如シ本邦ニ於テモ近時「コール、マネー」ノ貸借行ハル、ニ至レルモ金融俄ニ逼迫ヲ極メタル際、回收果シテ容易ナルヤ否ヤ從テ之ヲ以テ準備金ノ一部ト見做シ得ベキヤニ關シテハ疑ナキヲ得ザルナリ其他公債債券株券等確實ナル有價證券ヲ擔保トセル短期貸付ハ其次ニ位スルモノニシテ平時ニ在リテハ賣却容易ナリト雖モ世上不穩ノ場合ニハ多少ノ困難ニ遭遇スル

ナリ其他商品擔保ノ貸付モ不可ナラズ而シテ此等ノ所謂授信的業務ニ就テハ後章ニ於テ説述スベキヲ以テ今ハ其ノ大略ヲ擧グルノミ之ヲ要スルニワーグナー(Ad. Wagner)ノ擧示スル銀行營業上ノ大原則ヲ玩味シテ之ヲ服膺セバ大過ナキニ庶幾カラシク其大原則トハ何ゾヤ曰ク「銀行ノ授信的業務ノ性質ハ其銀行ノ行フベキ授信的業務ノ性質ヲ決定ス」ト

以上記述セルハ主トシテ通常ノ預金殊ニ當座預金ニ關スルモノナレドモ貯蓄銀行ノ取扱フ預金ニ就テハ其拂戻ヲ確實ナラシムルノ必要殊ニ大ナルガ故ニ特殊ノ法規ナキヲ得ザルナリ即チ我「貯蓄銀行法」ヲ見ルニ貯蓄銀行ニ限レル預金其他二種ノ預金ニ對シテハ其受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託セシムルコト(第九條)資金運用ノ方法ヲ七種ニ限定スルコト(第十一條)貯蓄銀行ノ所有シ又ハ貸付金若クハ預ケ金ノ擔保トシテ受入ル、一會社ノ株式ノ數一人ニ對スル貸付金額及ビ一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ニ對シテ制限ヲ設クルコト(第十二條)第十三條第十四條等ノ規定アルヲ見ルナリ

終ニ附記スベキハ彼ノ「預金保障制度(Deposit Guaranty System)」ナルモノニシテ十數年來北米合衆國中部ノ數州ニ行ハル此制度ヲ最初即チ一九〇八年ニ採用シテ一九二三年マデ之ヲ繼續セルオクラホーマ州ニ於テハ「州立銀行」及ビ信託會社ハ總テ「預金保障基金」ナルモノニ出資スルノ義務ヲ有シ其額ハ預金ノ一個年平均額ノ百分ノ二ニシテ一個年ノ出資額ハ其五百分ノ一ヲ限度トセリ此等ノ銀行又ハ信託會社ニシテ預金ノ支拂ヲ停止セルモノアルトキハ「銀行監督官」ハ直ニ之ヲ檢査シ支拂不能ト認ムルトキハ破産整理ニ附シ而シテ預金ノ支拂ニハ上述ノ基金ヲ用ウルモノホ不足ナルトキハ初ハ基金ニ對スル出資ノ追徴ヲ爲セルモ後之ヲ廢シテ年六分利付ノ證券ヲ預金者ニ交付シ而シテ破産整理ヨリ生ズル收入ノ繰入レ及ビ年々ノ出資ニ依リ基金ノ充填スルヲ待チテ之ヲ償還スルモノトナセリ他州ニ於テハ此制度ニ加入スルコトヲ銀行ノ任意トスルモノアリ又支拂停止ノ場合ニ於テ預金者ニ初ヨリ利付證券ヲ交付スルモノアリ其他各銀行ノ出資率等ニ至リテモ相異ルヲ見ルナリ此保障制度ニ對シテハ各州共ニ設置ノ當時贊否ノ議論喧シタリシガ爾來其成績ハ同一ナラズ從テ確定的判斷ヲ下ダスハ尙ホ早シト謂フベキナリ

第四章 債券ノ發行

第一節 不動産抵當銀行ノ債券

社債ノ募集ハ諸種ノ株式會社ノ之ヲ行フモノ近時甚ダ多シトス蓋シ社債ハ利息ノ歩合償還ノ方法及ビ期限ヲ定メ輾轉流通スベキ證券ヲ應募者ニ交付スル等政府ノ公債ニ類似シ募集會社ノ信用淺カラズシテ利率其當ヲ得ルニ於テハ巨額ノ資金ヲ吸收スルコト必ズシモ難カラザルナリ而シテ之ヲ諸國ノ實例ニ徵スルニ普通ノ銀行ニシテ此方法ヲ用ウルモノハ種テ稀ナリト雖モ所謂動産銀行ニ於テハ債券ノ發行ヲ行フモノ往々之アリ彼ノ不動産抵當銀行ニ至リテハ殆ド皆債券ヲ以テ營業資金ノ主ナル源ト爲スナリ是ヲ以テ債券ノ發行ハ銀行受信的業務ノ一ニ屬シ從テ一言之ヲ論述セザルヲ得ザルナリ

抑モ資金ノ運轉ハ産業ノ種類ニ依リテ同ジカラズ商人ガ物品ノ仕入ニ投ジタル資金ハ物品ヲ賣却スルト共ニ回收セラレ工業家ガ原料ノ買入賃銀ノ支拂等ニ費シタル資金ハ其製造品ヲ賣却スルトキニ復歸スルモノニシテ商工業ニ必要ナル資金ハ通常運轉迅速ナルヲ以テ縱令他ヨリ之ヲ借入ル、モ速ニ之ヲ償却スルコトヲ得ルナリ然ルニ農業ニ至リテハ資金ノ回轉自ラ緩慢ニシテ例ヘバ種子肥料ノ買入賃銀ノ支拂等ニ要シタル資金ハ收穫物ヲ賣出シテ後之ヲ償フモノトス而シテ此等ノ用途ニ充テタル資金ハ回收ノ期限多クハ一年内外ニ過ギズト雖モ地所ノ買入又ハ排水灌溉開拓等ノ事業ニ放下セル資金ハ數多ノ歲月ヲ費シテ其利益ヲ收ムベキモノニシテ僅少ノ時日ヲ以テ之ガ回收ヲ望ムヲ得ザルナリ故此等ノ目的ニ使用セントスル資金ヲ他ヨリ借入ル、トキハ其借用期間甚ダ長キヲ要スルモノトス又農業ノ收益ハ通常大ナラザルヲ以テ高利率ノ資金ヲ借ルトキハ收支相償ハザル憂アルノミナラズ其利益ハ年々獲得スル所ニシテ一時ニ巨額ヲ收ムルモノニ非ザルガ故ニ毎年利息ト共ニ元金ノ一部ヲ償却スル方法最モ必要ナリトス之ヲ約言スレバ農業者ノ資金ハ低利率ニシテ借用期間甚ダ長ク且年賦償還法ヲ用キ得ベキモノタルヲ要スルナリ從テ一個人ニ就テ斯ノ如キ資金ヲ得ルハ頗ル難事ニシテ到底特種ノ信用機關ニ依ラザルヲ得ズ而シテ此種ノ信

用機關ハ預金ノ如キ出入ノ頻繁急激ナル資金ヲ以テ其任ニ當ル能ハズ茲ニ於テ
カ債券 (Debentures) 發行ノ必要アルナリ

上述ノ如キ資金ヲ農業者ニ供給スル信用機關ノ始テ起リタルハ獨逸ニシテ即
チ彼ノ七年戰爭後普國シュレージエン州ノ農業者特ニ困憊ヲ極メタルヲ以テフリ
ードリッヒ大王ハ同州ノ大地主ヲシテ一ノ組合ヲ作ラシメタリ是レ即チ「ランドシ
フト」(Landschaft)ナルモノニシテ政府自ラ巨額ノ資金ヲ貸與セシノミナラズ社會公
衆ヨリモ之ヲ吸收スルガ爲メニ「ファンドブリーフ」(Pfandbrief)ト稱スル債券ヲ發行
セシメタリ爾後獨逸ニ於テハ此種ノ組合諸所ニ起リ埃太利、丁抹、露西亞等諸國ニ
於テモ之ヲ模倣スルモノアルニ至レルハ以テ其有益ナルヲ證スルニ足ル又株式
會社組織ヲ以テ「不動産抵當銀行」(Mortgage Banks, Hypothec Banks)ノ始テ出現セルハ第
十九世紀ノ初期ニ屬シ此種ノ銀行中最モ有名ナルハ一八五二年ニ設立セラレタ
ル佛國ノ「クレヂ・フ・ンシエー」(Crédit foncier de France)ニシテ爾後獨逸、埃太利、和蘭等ニ
設立セラレタル不動産抵當銀行ハ多ク其模倣ニ出ヅルモノトス我「日本勸業銀行」
モ亦此種ノ銀行ニ屬シ「北海道拓殖銀行」各府縣ノ「農工銀行」及ビ「朝鮮殖産銀行」ハ規

模小ニシテ多少ノ差異アリト雖モ不動産抵當銀行タルニ至リテハ異ル所ナキナ
リ

不動産抵當銀行ノ債券ハ其貸付資金ヲ得ルガ爲メニ之ヲ發行スルモノナルガ
故ニ此債券ノ性質ハ其貸付金ノ性質ト相對應セザルヲ得ズ而シテ前述ノ如ク農
業者ノ要スル信用ハ長期ナルガ故ニ不動産抵當銀行ハ主トシテ長期ノ貸付ヲ行
ヒ一時償還ハ多ク借主ノ苦ム所ナルヲ以テ年賦償還法ヲ用ウルモノトス例ヘバ
「日本勸業銀行法」第十四條ニ曰ク「日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ
方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲナスモノトス」ト是ヲ以テ債券ノ償還期限
モ亦數十年ニ互リ所有者ガ隨意ニ之ガ支拂ヲ求ムルヲ得ザルハ預金ト大ニ異ル
所ニシテ實ニ債券ノ特質ト爲スナリ然レドモ貸付金ノ回收ニ伴フテ年々若干ノ
償還ヲ行フモノニシテ例ヘバ「日本勸業銀行法」第三十六條ニ曰ク「少クトモ年賦償
還貸付金並其ノ引受ケタル農工債券、北海道拓殖債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行シ
タル債券ノ償還高ニ應ジ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スベシ」ト
債券ノ主タル擔保ハ銀行ノ保有スル抵當物件及ビ其資本金ナルガ故ニ其發行

總額ニ制限アリトス例ヘバ「日本勸業銀行法第三十四條ニ曰ク「日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十五倍ヲ限り勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高定期償還貸付金總高並其ノ引受ケタル農工債券北海道拓殖債券及朝鮮殖産銀行ノ發行シタル債券現在高ヲ超過スルヲ得ズ」ト此規定タルヤ一ノ制限ナリト雖モ亦一ノ特典ナリトス何トナレバ我商法ニ依レバ通常ノ株式會社ノ社債總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ザレバナリ之ヲ要スルニ債券ノ保障ハ主トシテ抵當ニ徴シタル不動産ナルヲ以テ之ガ償還ノ確實如何ハ抵當物ノ性質ニ依ルモノトス而シテ不動産ノ價格ハ動産ニ比スレバ概シテ變動激甚ナラザルガ故ニ長期貸付ノ抵當タルニ適スルヤ言フヲ埃タズト雖モ抵當權完全ナラズ又ハ抵當價格高キニ失スルトキハ未ダ以テ安全ナリト稱スルコトヲ得ズ是ヲ以テ諸國ノ法律ハ皆此點ニ注意シ我「日本勸業銀行法」ノ如キ第十六條ニ於テ規定シテ曰ク「抵當ヲ徴スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス」ト又第十八條ニ曰ク「不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以內トス」ト而シテ其第十七條ニ「抵當トシテ徴

スル土地ハ永續スベキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル」ト規定シ其定款第三十五條ニ於テ不動産ト雖モ貸付ヲ爲サザル場合ヲ特ニ列擧スルナリ

斯ノ如ク債券ハ鞏固ナル抵當ヲ基礎トスルモノナルガ故ニ政府ノ公債ト大差ナキ低率ノ利息ニテ發行シ得ルモノニシテ且其價格ノ下落スルコト甚ダ稀ナリトス即チ我「勸業債券」ハ彼ノ割増金制度與テ大ニ力アリト雖モ其利率ハ多クハ四分乃至五分ナリトス世界大戰前ニ於ケル獨逸ノ「ランドシャフト」ノ債券ハ其利率三分乃至五分ニシテ三分五厘最モ多キヲ占メ不動産抵當銀行ノ債券ハ三分乃至四分五厘トス又債券ノ價格ハ他ノ有價證券ニ比シテ低落スルコト少ナク一八四八年革命起リテ歐洲ノ社會不穩ノ狀況ヲ呈スルニ當リ普國ノ三分利附公債ハ額面價額ノ百分ノ六十九ニ下落セルモ「ランドシャフト」ノ同利率ノ債券ハ百分ノ八十三乃至九十六ノ間ニ在リシト云フ又之ヲ爾後ノ實例ニ徴スルニ大戰前ニ於テ「ランドシャフト」ノ債券ハ同利率ノ公債ニ比シ價格殆ド異ルナク銀行ノ債券ハ一九〇一年二三ノ不動産抵當銀行破綻ヲ生ゼルモノアリテ一時其聲價ヲ墜セシモ久シカラズシテ再ビ其價格ヲ回復セルモノ、如シ

債券ノ性質前述ノ如ク甚ダ確實ナルヲ以テ種々ノ特典ヲ與ヘテ募集ヲ容易ナラシメ且其流通ヲ補助スルハ敢テ不可ナルナシト雖モ割増金ノ制度ニ至リテハ其可否疑ナキヲ得ズ彼ノ「クレヂ、フ、ンシエー」ノ如キモ此方法ヲ用ウルモノニシテ世人ノ射倖心ニ投ジ以テ募集ヲ容易ナラシムルハ一ノ便法ナリト雖モ獨逸ノ不動産抵當銀行法ニ償還金額ガ額面金額ニ超ユル債券ノ發行ヲ許ササルノ明文アルハ以テ割増金ノ制度ガ債券發行ノ必要條件ニ非ザルヲ知ルベキナリ我國ノ現狀ニ於テハ或ハ之ヲ廢止スル能ハザルベシト雖モ世人ガ「勸業債券」ノ所有ヲ以テ單ニ確實ナル放資ノ方法ト認メ投機的射倖心ヲ以テ之ヲ迎ヘザルニ至ルヲ望マズンバアラザルナリ

「農工銀行」北海道拓殖銀行及ビ朝鮮殖産銀行モ亦不動産抵當銀行トシテ債券ノ發行ヲ爲シ其法規ハ勸業債券ニ關スルモノニ類似スレドモ割増金ノ制度ナク其發行額ハ皆拂込資本金ノ十倍ヲ以テ制限トス

第二節 動産銀行ノ債券

歐洲ニ於テ「動産銀行」(Credit Mobilier Institutions)ト稱セラル、モノハ多クハ普通ノ銀行業務ヲ行フト雖モ其特色ハ諸會社ノ株式、各種ノ債券ノ引受及ビ諸種ノ有價證券(殊ニ取引所ノ取引ニ上ルモノ)ノ賣買ヲ營ムニ在リトス而シテ其業務ヲ行フヤ受働的ニ他ノ依頼ニ應ズルノミナラズ自ラ鐵道會社工業會社銀行等ヲ新設シ又ハ個人營業ヲ改造シテ株式會社ト爲シ自ラ先ヅ其株式ヲ引受ケ次デ廣ク之ヲ公衆ニ賣却スル場合少ナカラズ是レ即チ「發起銀行」(Gründungsbanken)ノ別名アル所以ナリ故ニ動産銀行ノ業務ハ投機ノ性質ヲ帶ブルモノニシテ其關係スル諸會社ノ盛衰及ビ其保有スル有價證券ノ價格ノ浮沈ニ依リテ巨利ヲ得ルコトアルト共ニ又損失ヲ招クノ危険アリトス故ニ此種ノ業務ハ銀行自己ノ資金ヲ以テ行フベキモノタルコトヲ唱フル經濟學者少ナカラズ而シテ現今獨佛等ノ動産銀行ノ大ナルモノハ皆巨額ノ拂込資本金ヲ有シ自己ノ債券ヲ發行スルモノヲ見ズト雖モ動産銀行ノ嚆矢タル白耳義ノ「興業會社」(Société Générale Favoriser l'Industrie Nationale)ハ巨額ノ債券ヲ發行シ彼ノ有名ナル巴里ノ「クレヂ、モービリエー」(Société Générale de Credit Mobilier)モ債券發行ノ特典ヲ有セルガ如キ實例アルガ故ニ少シク動産銀行ノ債券

ニ就テ述ブル所アラン

若シ夫レ外形ノミヲ見ルトキハ動産銀行ノ債券ハ利息ノ割合、償還ノ方法及ビ期限ヲ定ムル等不動産抵當銀行ノ債券ニ類似スルモノニシテ銀行ノ方面ヨリ之ヲ見ルトキハ債券ノ發行ハ運用期間ノ短カラザル資金ヲ吸收スル一好手段タルヤ疑ナキナリ而シテ「クレヂ、モービリエー」ノ創立者ハ債券所有者ノ方面ヨリモ其利益ヲ説キ之ヲ以テ一種ノ保險ヲ行フモノナリト爲セリ即チ「クレヂ、モービリエー」ニ於テ多種多數ナル會社ノ株券ヲ保有スルトキハ一方ニ損失アルモ他方ニ利益アリテ平均ヲ致シ而シテ此等ノ證券ヲ擔保トシテ發行スル債券ハ一定ノ利息ヲ附スルモノナルガ故ニ其所有者ハ直接ニ諸會社ノ株券ヲ所有スルノ危険ヲ避ケテ其利ヲ收ムベシト爲セリ而シテ「クレヂ、モービリエー」ハ一八五五年即チ其營業ノ殷昌ヲ極メタル時期ニ當リテ僅ニ一回ノ債券發行ヲ爲シタリシガ成績不良ナリシヲ以テ政府ノ停止命令ニ辭ヲ藉リテ其跡ヲ曖昧ノ間ニ埋没シ去レリ此失敗ハ世人ガ「クレヂ、モービリエー」ノ債券ヲ信用セザリシニ基ヅクモノニシテ以テ當時「クレヂ、フンシエー」ノ發行セル債券ト同一視スベカラザルヲ知ルベキナリ蓋

シ前者ノ債券ハ後者ノ債券ヲ模倣セシモノナリト雖モ其擔保物件ノ性質相異リ不動産ノ價格ハ比較的變動少ナキニ反シ有價證券ノ相場ハ浮沈定リナク殊ニ恐慌起リ若シクハ戰亂勃發セルガ如キ場合ニハ諸會社ノ株式ヨリ生ズル收益ハ大ニ減少シテ債券ノ利子ヲ支拂フニ足ラザルベキナリ「サットラー」(H. Sattler)曰ク「クレヂ、モービリエー」ハ第一回ノ募集ニ失敗シテ再ビ債券ノ發行ヲ試ミザリシト雖モ六分利附ノ債券六億フラン「即チ資本金ノ十倍ヲ發行セルモノト假定シ而シテ其擔保タル有價證券ヨリ平均七分ノ收益ヲ得ルモノトセバ利息ノ差額六百萬フラン」ニ達シ此利益ノミヲ以テ資本金ニ對シテ一割ノ配當ヲ爲シ得ルモノトス然レドモ擔保物件ノ平均收益五分ニ減ズルトキハ忽チ缺損ヲ生ジ資金ノ十分ノ一ヲ失フベキモノナルガ故ニ債券募集ノ不成績ニ終レルハ「クレヂ、モービリエー」ノ爲メニ必ズシモ弔スベキニ非ズ「ト之ヲ要スルニ動産銀行ノ債券ト不動産抵當銀行ノ債券トハ外形相類似スト雖モ擔保物件ニ至リテハ其間ニ著シキ差異アルニ因リ其確實ノ程度モ之ヲ同一視スルコトヲ得ズ動産銀行ノ債券ニシテ其信用ヲ保チ價格ヲ維持セント欲セバ其擔保タルベキ有價證券ノ選擇ヲ慎マザルベカラザ

ルナリ

我日本興業銀行モ亦債券發行ニ關スル特典ヲ有スルモノニシテ此興業債券ヲ
ルモノガクレヂ、モービリエー等ノ債券ト同一ナリヤ否ヤヲ明カナラシメントセ
バ少シク日本興業銀行ノ性質ニ論及セザルヲ得ザルナリ

日本興業銀行ハ動産銀行ナリト稱セラルレドモ之ヲ歐洲ノ動産銀行ニ比スル
トキハ其間ニ著シキ差異アルヲ認ムルナリ即チ日本興業銀行ハ從來債券ノ應募
引受又ハ買入ヲ爲シ得タルモ諸會社ノ株券ハ質トシテ之ヲ保有スルニ止マリシガ
明治四十四年ノ法律改正ニ依リ餘裕金アルトキハ國債證券地方債證券社債券地
金銀ノ外ニ株券ノ買入ヲモ爲スコトヲ得ルコト、ナレリ然レドモ株券ノ買買ガ
日本興業銀行ノ主要業務ニ非ザルヤ明白ナリトス株式ノ應募又ハ引受モ大正七
年三月ノ法律改正ニ依リ之ヲ行ヒ得ルコト、ナリタレドモ一々主務大臣ノ認可
ヲ要スルガ故ニ歐洲ノ動産銀行ノ如ク極メテ自由ニ新會社ノ設立ヲ爲ス能ハザ
ルナリ之ヲ要スルニ日本興業銀行ハ歐洲ノ動産銀行ト漫然同一視スル能ハズ從
テ其發行スル債券ノ性質モ其間ニ差異ナキヲ得ザルナリ蓋シ日本興業銀行ノ債

券發行額ハ通常ノ場合ニ於テハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限トシ其貸付金現在高割
引手形現在高及ビ其所有ニ係ル國債證券、地方債證券、社債券、株券、地金銀現在高ヲ
超過スルコトヲ得ザルモノニシテ手形ハ久シカラズシテ滿期トナリ貸付及ビ各
種ノ債券ハ年々豫定ノ利子ヲ生ズルガ故ニ會社ノ株式ニ對スル配當金ノ如ク年
年變動スルコトナク自己發行ノ債券ニ對シテモ年々一定ノ利息ヲ支拂フノ餘裕
十分ナリトス又貸付ハ勿論債券モ時々返濟セラル、ガ故ニ之ニ應ジテ自己ノ債
券ヲ銷却スルヲ得ルナリ故ニ日本興業銀行ノ債券ハクレヂ、モービリエー等ノ債
券ニ比シ確實ノ度高シト謂ハザルベカラス然レドモ工業會社ノ如キハ時勢ノ變
遷又ハ業務處理ノ良否ニ依リテ忽チ盛衰ヲ來タスモノナルガ故ニ其發行セル債
券ニ對シ利息ノ支拂、元金ノ償還ヲ怠ルコトナシトセズ又貸付ノ債務者、返濟義務
ヲ履行スル能ハザルトキハ其質トセル債券株券ヲ賣却セザルヲ得ズ斯ノ如キ場
合ハ必ず有價證券ノ價格下落セル時ニ多キガ故ニ損失ヲ來スコトアルベク殊ニ
株券所有高ノ多キニ從テ危險ノ程度増加セザルヲ得ザルナリ之ニ加フルニ日本
興業銀行ガ貸付ノ抵當又ハ擔保ニ徵スル物件ハ近時其種類増加セルガ故ニ其選

擇ト配合トハ延ヒテ「興業債券」ノ確實如何ニ影響ヲ及ボスモノトス

一一四

第五章 手形ノ割引

第一節 手形ノ割引ガ手形所持人ニ與フル利益

銀行ノ受信的業務ハ以上三章ヲ以テ略ボ之ヲ説明セルニヨリ今ヤ授信的業務ニ移ルニ當リ第一ニ述ベントスルハ手形ノ割引ナリトス。手形ノ割引トハ手形ノ支拂期日到来前ニ於テ割引ノ當日(又ハ翌日)ヨリ期日マデノ利息ヲ額面金額ヨリ控除シ其殘額ヲ以テ其手形ヲ買取ルノ謂ナリ(例ヘバ額面金額一千圓ニシテ六十日後ニ支拂期日ノ到来スル爲替手形アリ日歩二錢ノ割合ヲ以テ此手形ヲ割引スルトキハ一千圓中ヨリ六十日間ノ利息十二圓ヲ引去リ九百八十八圓ヲ割引依頼人ニ與ヘテ其手形ヲ讓受ケ而シテ支拂期日ニ至リテ手形ノ引受人ヨリ一千圓ヲ受取ルモノトス)故ニ手形買入ニ用キタル九百八十八圓ハ六十日後ニ至リ一千圓トナリテ復歸スルモノニシテ是レ即チ手形ノ割引ガ一種ノ利殖法タル所以ナリ

此手形割引ナルモノガ如何ナル利益ヲ手形ノ所持人ニ與フルカヲ見ルニ例ヘ
 パー製造家アリ其營業資金ノ全額ヲ投ジテ物品ヲ製造シ而シテ購買者ヨリ即時
 ニ代金ヲ受取ルニ於テハ間斷ナク其業ヲ繼續スルコトヲ得ト雖モ現金取引ノ場
 合ハ寧ロ少ナシトス故ニ營業資金ヲ用キ盡シテ營業ヲ中止スルガ如キコトナカ
 ラシメンガ爲メニハ其營業資金ノ一大部分ヲ準備トシテ蓄ヘザルヲ得ザルナリ
 然ルニ手形割引ノ方法アルニ於テハ製造家ハ一時ニ資金ノ全部ヲ用ウルモ其營
 業ヲ中止スルヲ要セズ何トナレバ其製造品ノ購買者ニ對シ爲替手形ヲ振出シ若
 シクハ購買者ヨリ約束手形ヲ受取り銀行ニ就テ之ガ割引ヲ依頼セバ直ニ之ニ依
 リテ營業資金ヲ得レバナリ其他輸出入商卸賣商ヲ初トシ諸般ノ賣買ニ從事スル
 者ノ間ニハ信用取引甚ダ多クシテ手形ノ使用亦盛ナリ而シテ割引ニ依リテ營業
 資金ノ固定ヲ避クルコトヲ得ルガ故ニ比較的小額ノ資本ヲ以テ事業ヲ營ムコト
 ヲ得ルモノトスロッシュー(W. Roehner)曰ク「手形ノ流通ハ割引ノ便アルニ由リテ非常
 ニ増加ス」ト

第二節 資金使用法トシテノ手形割引

翻テ手形割引ノ依頼ニ應ズル者即チ銀行ノ方面ヨリ之ヲ見ルニ手形割引ハ最
 良ノ資金使用法ナリトス曩ニ述ベタルガ如ク銀行券又ハ當座預金ハ請求次第兌
 換又ハ拂戻ノ義務ヲ負フモノニシテ銀行券ノ發行又ハ預金受入ヲ以テ主タル受
 信的業務ト爲ス銀行ハ努メテ資金ノ固定ヲ避ケ常ニ其回收ノ速ナルコトヲ圖ラ
 ザルベカラズ而シテ此目的ニ最モ適スルモノハ手形ノ割引ナリトス左ニ其理由
 ヲ述ベン

- 一 手形ノ支拂期限ハ通常長カラズ三個月以下ノモノ多シトス故ニ此等ノ手形
 ノ割引ニ資金ヲ使用スルモ手形ノ満期ト共ニ資金自ラ復歸スルガ故ニ毫モ固
 定ノ憂ナキナリ(例ヘバ獨逸中央銀行ガ買入レタル手形ノ満期日マデノ日數ヲ
 創立後二十五年間一年毎ニ平均セルモノヲ見ルニ最長四十一日最短三十三日
 トス「佛蘭西銀行」ニ於テモ割引手形ノ銀行ニ留メ置カル、平均日數ハ二十一日
 乃至二十五日ナリト云フ以テ資金復歸ノ速カナルヲ知ルベキナリ

二 資金缺乏ヲ告グルトキハ割引手形ノ支拂期日未ダ到來セザルモ他ノ銀行殊ニ中央銀行ニ依頼シテ再割引ニ附スルコトヲ得ルナリ一國金融ノ源タル中央銀行ハ他ニ再割引ヲ依頼スルヲ得ザルモ他ノ銀行ハ皆此便ヲ有スルガ故ニ割引ノ爲メニ資金ヲ用キ盡スノ憂ナキナリ

三 手形ノ成立スル原因ハ通常物品ノ賣買ニシテ手形ハ所謂生産的信用ヲ表示スルモノナリ故ニ普通ノ場合ニ於テハ手形ノ債務者ハ期日ニ其支拂ヲ爲シ得ルモノトス例ヘバ商人ガ製造家ヨリ物品ヲ買入レ之ニ對シテ約束手形ヲ振出スモ支拂期日前ニ其物品ヲ賣拂ヒテ以テ債務ヲ履行スルコトヲ得ルモノニシテ若シ現金ヲ得ザルニ於テハ自己モ手形ノ割引ニ依リテ支拂資金ヲ調達スルヲ得ルナリ商業上ノ德義健全ナル社會ニ於テハ手形ノ不渡ヲ行フトキハ信用全ク地ニ墜ツルノ恐アルガ故ニ債務者ハ全力ヲ盡シテ不渡ノ耻辱ヲ避クルモノトス且銀行ノ割引ヲ爲スヤ依頼人ノ裏書ニ因リテ手形ノ權利ヲ取得スルモノナルガ故ニ縱令第一次ノ債務者其義務ヲ果ササルモ裏書人ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得ルナリ蓋シ手形ハ所謂抽象的債務ヲ生ズルモノニシテ一度

之ヲ發行スルトキハ手形ヲ作成セル原因ノ性質又ハ存否如何ハ敢テ問フ所ニ非ラズ而シテ債務不履行ノ場合ニハ手形ノ署名者ニ對シテ所謂手形訴訟ナルモノヲ提起スルヲ得ルナリ

手形ノ割引ガ最良ノ放資法タル所以ハ右ニ述ベタルガ如シト雖モ用意周到以テ之ヲ行フニ非ザレバ銀行ガ損失ヲ招クノミナラズ延テ經濟社會ヲ擾亂スルコトアリ而シテ此弊害ヲ豫防セントセバ割引セントスル手形ノ性質ヲ識別スルヲ要シ殊ニ警戒ヲ加フベキハ所謂空手形即チ融通手形(Accommodation Bills, Kites)ナリトス此種ノ手形ハ真正ノ手形ノ如ク假裝スト雖モ實際賣買取引ノ基礎ナク振出人引受人又ハ受取人始ヨリ共謀シテ資金融通ノ爲メニ作成セルモノナルガ故ニ支拂ノ準備ナク更ニ新手形ヲ發行シテ舊手形ヲ償却シ以テ一時ヲ彌縫スルニ至ル而シテ資金ヲ放下セル事業成功セザルトキハ其手形遂ニ不渡トナリ割引セル銀行其害ヲ被ルノミナラズ之ガ爲メニ經濟社會ノ動搖ヲ來タセル實例少ナカラズギルバート(J. W. Gilbert)ハ融通手形ヲ看破スル方法ヲ説テ曰ク「融通手形ニハ通常金額ニ端數ナク貼用印紙ニ相當スル最多額ヲ記載シ銀行ガ割引ヲ承認シ得ベ

キ最長ノ期限ヲ有シ手形振出後直ニ割引ヲ依頼スルモノニシテ手形ノ關係者ハ親戚友人等業務上ノ關係ナキモノ多シト然レドモ割引依頼者ニシテ狡猾老練ナルニ於テハ斯ノ如キ缺點ハ容易ニ之ヲ隱蔽シ得ベキナリ故ニ更ニ手形振宛方ノ順逆ヲ見ルヲ要ス例ヘバ製造家ヨリ卸賣商ニ宛テ又ハ卸賣商ヨリ小賣商ニ宛テタル爲替手形ノ如キハ順路ヲ履ムモノナレドモ卸賣商ヨリ製造家ニ宛テ又ハ小賣商ヨリ卸賣商ニ宛テタル爲替手形ノ如キハ逆路ヲ取ル者ニシテ融通手形タルノ疑多シトス之ヲ要スルニ手形ノ良否ヲ判別スルハ容易ノ業ニ非ザレドモ少シク經驗ヲ積ムトキハ自ラ鑑識ニ長ジテ其選擇必ズシモ難事ニ非ラズト云フ然レドモ常ニ取引先ノ業務ノ状態ヲ調査シ各取引先ニ就テ豫メ割引ノ極度額ヲ定ムルハ不渡ヲ豫防スル良法ナリトス又倫敦ノ銀行ノ如キハ自ラ手形ヲ鑑別スルノ勞ヲ省クガ爲メニ確實ナル「ビルブローカー」ヨリ手形ヲ買入ル、コト多シト云フ

第三節 割引歩合

割引歩合トハ手形金額ニ對スル割引額ノ割合ニシテ一種ノ利率ニ他ナラズ我

國ニ於テハ通常日歩ヲ以テ之ヲ表示シ歐米諸國ニ於テハ年歩ヲ以テス例ヘバ「日本銀行」ノ割引歩合ハ百圓ニ付キ日歩二錢ナリト云ヒ「英蘭銀行」ノ割引歩合ハ年三分ナリト云フガ如シ

（此割引歩合ハ固ヨリ變動ヲ免レザルモノニシテ其高低スル原因ハ銀行其他ノ割引業者ノ有スル資金即チ短期ノ放下ヲ要スル資金ノ供給ト手形所有者ノ方面ニ於ケル割引ノ需要トノ關係如何ニ在リトス即チ資金増加シテ割引ノ需要之ニ伴ハザルトキハ割引歩合ハ低落シ割引ノ需要増加スルモ資金ノ増加之ニ應ゼザルトキハ割引歩合ハ上騰スルナリ又割引ノ需要増加セザルモ資金減少スレバ割引歩合ハ上リ資金増加セザルモ割引ノ需要減少スレバ割引歩合下ラザルヲ得ザルナリ而シテ割引ノ需要資金ノ供給ハ種々ナル原因ニ依リテ増減スト雖モ要スルニ一定ノ市場一定ノ時期ニ於テ割引歩合ヲ定ムルモノハ其時期ニ當リ其市場ニ於ケル資金ノ供給ト手形割引ノ需要トノ關係ナリトス而シテ此關係ノ變遷ニ因リテ割引歩合ハ如何ニ上騰シ又如何ニ下落スルカヲ見ルニ恐慌將ニ起ラントスルガ如キ時ニ於テハ非常ノ上騰ヲ來スコトアレドモ是レ實ニ一時ノ現象ニ過

ギズ結局割引歩合ハ依頼者ガ割引ニ依リテ得タル資金ヲ使用シテ獲得スル利益以上ニ長ク止ルコトヲ得ザルナリ又資金俄ニ増加シ割引ノ需要之ニ伴ハザルガ如キ時ニ當リテハ割引歩合ハ非常ニ低落スルコトアリ例ヘバ一八九五年七月倫敦ノ市場割引歩合ハ年五厘ナリシト云フ蓋シ倫敦ノ諸銀行ノ如キハ預金甚ダ多額ニシテ而モ無利息ノモノ少ナカラザルガ故ニ斯ノ如キ低率ヲ以テ尙ホ割引ヲ繼續スルコトヲ得ルナリ然レドモ割引歩合ニシテ非常ナル低率ニ達スルトキハ資金ノ一部ハ他ノ貸付又ハ公債買入等ニ使用セラレ又ハ外國ニ流出シ以テ供給ヲ減ジ而シテ他方ニ於テハ割引歩合低落ノ爲メニ企業ノ勃興ヲ促シ割引ノ需要自ラ増加スルガ故ニ割引歩合ハ上ルベキナリ

資金ガ利息ノ低キ地ヲ去リテ其高キ地ニ赴クノ傾向ヲ有スルハ理論上疑ナシト雖モ實際ニ於テハ種々ノ障礙アリ爲メニ大戰前ノ歐洲諸國ノ間ニ於テモ資金ノ移動ノ比較的容易ナリシニ拘ラズ割引歩合ニ差アルヲ免レザリシナリ例ヘバ伯林ノ割引歩合ハ倫敦ヨリモ低キコトナキニ非ズト雖モ通常英國ノ割引歩合ハ獨逸ノ割引歩合ヨリモ低ク又露國ノ割引歩合ハ獨逸ノ割引歩合ヨリモ高キヲ當

例トセリ而シテ我國ノ割引歩合モ次第ニ低落スル傾向アリト雖モ之ヲ歐米諸國ニ比スルトキハ概シテ高率ナルヲ見ルナリ蓋シ此等ノ諸國殊ニ英米ノ銀行ノ預金ハ全ク利息ヲ付セザルモノアリ又縱令之ヲ付スルモ極テ低率ナリトス是レ即チ割引歩合ノ低キ一原因ナリクレア(G. Clare)曰ク「一八八一年ヨリ同九〇年ニ至ル十年間ニ於ケル倫敦市場割引歩合ノ平均ハ年二分七厘トス故ニ此歩合ヲ以テ自己ノ資金ヲ運用スルモノトセバ寧ロ政府ノ公債ヲ買入レテ繁雜ナル割引ノ業務ヲ避クルニ如カザルナリ然レドモ割引ニ使用サル、資金ハ銀行ノ華客ガ各自取引ノ銀行ニ預入レタルモノニシテ其大部分一恐クハ三分ノ二以上一ニ對シテハ利息ヲ付セザルナリ故ニ銀行自己ノ資金ニ對シテ預金額ノ割合大ナルトキハ銀行ハ極テ廉價ニ之ヲ貸出スモ尙ホ十分ナル利益ヲ收ムルヲ得ルナリ而シテ實際拂込資本金ノ十倍又ハ十五倍ニ相當スル預金ヲ有スル銀行ナキニ非ズ此等ノ銀行ハ年一分以下ノ低率ヲ以テ其預金ヲ運用スルモ尙ホ株主ニ對シテ満足ナル利益配當ヲ爲シ得ベシ」ト然ルニ我國諸銀行ノ有スル預金ハ殆ド皆ナ利息ヲ付スルモノニシテ而モ其率低カラザルガ故ニ之ヲ割引貸付ニ放下スルニ當リテ利

率ノ高キハ蓋シ已ムヲ得ザルナリ而シテ獨リ日本銀行ハ銀行券ノ保證發行ニ依リ無利息ノ資金ヲ多額ニ運用スルノ便ヲ有スト雖モ其資金ハ固ヨリ無盡藏ニ非ザルガ故ニ濫ニ利率ヲ低フシテ無限ニ割引ノ需要ニ應ズルヲ得ズ且中央銀行トシテ金融調理ノ職務ヲ帶ブルガ故ニ經濟社會ノ大勢ニ鑑ミテ其割引歩合ヲ定ムベキナリ然レドモ實際日本銀行ハ銀行券ノ發行ニ依リ貸出資金甚ダ豊富ナルガ故ニ他ノ銀行ヨリモ其割引歩合ヲ低フスルコトヲ得ベク從テ普通ノ銀行ハ其割引手形ヲ常ニ日本銀行ニ持參シテ再割引ニ附シ割引歩合ノ差違ニ依リテ利益ヲ收ムルモノ少ナカラザルナリ是レ即チ日本銀行ガ銀行ノ銀行タル所以ニシテ英蘭銀行等ガ銀行ノ銀行ト稱セラル、所以トハ意義全ク相反スルモノトス何トナレバ前者ハ諸銀行ニ貸出ヲ爲シ後者ハ諸銀行ノ預金ヲ保有スルノ點ニ於テ此名稱ヲ負フモノナレバナリ蓋シ我國ニ於テ中央銀行ノ割引歩合ガ市場ノ歩合ヨリモ低キ所以ハ市場ノ資金未ダ豊富ナラザルニ基ヅクモノニシテ諸銀行ノ預金大ニ増加シ平日ニ於テハ敢テ日本銀行ノ援助ヲ藉ラザルモ割引貸付ノ資金不足ヲ告ゲザルニ至レバ市場ノ割引歩合モ亦自ラ低落スベキナリ而シテ此趨勢ハ近時

漸ク顯著ナラントスルモノ、如シ

歐洲諸國ニ於テハ中央銀行ノ利率市場ノ利率ヨリモ高シトハ人ノ一般ニ唱フル所ナリ故ニ漫然之ヲ想像スルトキハ中央銀行ニ割引ヲ依頼スル者ナキノ理ナレドモ實際其然ラザルハ何ゾヤ而シテ此問題ハ「銀行利率」ト「市場利率」ノ意義ヲ明カニセバ自ラ解決セン即チ歐洲諸國ノ所謂「銀行利率」(Bank Rate)トハ大ナル發券銀行殊ニ中央銀行ノ割引歩合ノ略稱ニ他ナラズ即チ此等ノ銀行ガ成規ノ條件ヲ具備スル手形ヲ割引スルニ當リ適用スル利率ニシテ豫メ世人ニ公示スルヲ以テ或ハ之ヲ「公定歩合」(Official Rate)ト稱ス次ニ「市場利率」(Market Rate)トハ中央銀行以外ノ銀行其他ノ割引業者ガ最優等ノ手形ヲ割引スル利率是ナリ而シテ市場利率ノ一般ニ低キハ市場ニ資金ノ潤澤ナルコト固ヨリ其主因ナレドモ銀行利率ガ市場利率ヨリ高キニ拘ラズ割引業務ヲ營ミ得ル所以ノモノハ要スルニ市場利率ヲ以テ割引セラル、手形ト中央銀行成規ノ條件ニ適スル手形トハ其品質同ジカラザレバナリ倫敦ノ金融市場ニ就テ之ヲ見ルニ手形ノ種類ハ一ナラズ其中ニ就キ割引業者ノ最モ歡迎スルモノハ所謂「銀行手形」(Bank Bills)即チ倫敦大銀行ノ振出し又ハ

引受ケタル手形ニシテ之ニ次グモノハ「商業手形」(Trade Bills)即チ著名ナル商工業者ノ署名セルモノ是ナリ而シテ單ニ市場利率ト稱スルトキハ三個月拂銀行手形ノ割引歩合ヲ指スモノトス是ヲ以テ市場ニ於テモ所謂市場利率ヲ以テ割引スルモノハ最優等ノ手形ニ限リ其他ノ普通ノ手形ハ公定歩合ト同一若シクハ其以上ノ利率ヲ以テ割引スルモノニシテ「英蘭銀行」モ亦一八七八年以來常ニ取引ヲ有スル華客ニ對シテハ市場利率ヲ以テ割引ノ依頼ニ應ズト云フ

又倫敦ニ於ケル割引歩合ノ細別ヲ見ルニ銀行手形、商業手形共ニ支拂期限ノ長短ニ依リテ其割引歩合ニ多少ノ差異ヲ示シ通常ノ場合ニ於テハ期限ノ長キニ從ヒテ歩合モ亦高シトス蓋シ長期ノ手形ヲ割引スルトキハ他ニ一層有利ナル用途生ズルモ速ニ資金ヲ回收シテ之ニ應ズル能ハズ且支拂期間長キトキハ手形署名者ノ支拂能力ニ變動ヲ生ズルノ危険増加スルヲ以テナリ然レドモ金融緩慢ヲ來タシ利率低落ノ傾向明カナルガ如キトキハ長期ノ手形却テ低率ヲ以テ割引セラ

ル、コトアリトス
我國ニ於テハ「日本銀行」ノ商業手形割引歩合ガ所謂「銀行利率」ナルコト言フヲ俟

タズ所謂市場利率ナルモノ、存在ニ關シテハ疑ナキニ非ズト雖モ東京大阪等ノ第一流銀行ガ適用スル商業手形最低割引歩合ナルモノ略ボ之ニ該當スト云フベキナリ而シテ特ニ「紡績手形」ト稱スルモノアリ綿絲、綿布、棉花ノ取引ニ起因スル手形ニシテ主トシテ大阪ノ金融市場ニ現ハル極メテ確實ナル手形ト見做サレ從テ其割引歩合ハ通常最モ低シトス

第四節 割引政策

曩ニ述べタルガ如ク割引歩合ハ資金ノ需要供給如何ニ依リテ定マルモノナルガ故ニ金融界ノ霸權ヲ握ル中央銀行ト雖モ一般ノ大勢ニ抗シテ隨意ニ之ヲ定ムル能ハザルナリ若シ夫レ金融甚ダ緩慢ナルニ當リ獨リ其割引歩合ヲ高ムルトキハ割引ノ請求減ジ資金ノ運用ニ窮スルニ至ラン之ニ反シテ資金ノ需要盛ニ起ルニ際シ低率ノ割引歩合ヲ保ツトキハ割引ノ請求大ニ増加シ而シテ公共的ノ性質ヲ有スル中央銀行ハ資金ノ要求ニ對シ極テ公平ノ態度ヲ採ラザルベカラザルガ故ニ成規ノ條件ヲ具備スル手形ハ悉ク之ヲ割引スルニ於テハ銀行ノ資金忽チ空

乏ヲ告グベキナリ故ニ中央銀行ノ割引歩合モ結局金融市場全般ニ於ケル資金ノ需要供給ニ伴ハザルベカラズ然レドモ中央銀行ハ一國ノ金融界ニ於テ特殊重要ノ位置ヲ占ムルモノナルガ故ニ其割引歩合ノ上下ハ或程度ニ於テ一般ノ金融界ニ影響ヲ及ボスモノトス從テ此勢力ヲ利用シテ其割引歩合ヲ定ムルハ所謂割引政策(Die Diskontpolitik)ノ主要ナルモノニシテ中央銀行ハ常ニ經濟界ノ趨勢ニ注目シ之ガ應用ニ過誤ナキヲ要スルナリ而シテ其方針トシテハ第一ニ其割引歩合ノ平準ヲ保ツコトニ努メザルベカラズ即チ十分ナル必要ヲ見ズシテ濫ニ割引歩合ヲ變更スルハ不可ナリトス蓋シ金利ノ變動ハ各種ノ企業者ヲシテ損益ノ計算ヲ齟齬セシムルノ虞アレバナリ故ニ資金ノ需要増加スルニ當リ割引歩合ノ引上ヲ行ハントセバ先ヅ需要増加ノ原因ヲ研究セザルベカラズ若シ其原因ガ半期歳末ノ貸借決済ノ如キ一時的ノモノニシテ縱令多額ノ貸出ヲ爲スモ速ニ回收シ得ベキモノナルトキハ敢テ割引歩合ヲ引上ゲ以テ需要ヲ減ズルヲ要セザルナリ此點ニ於テ獨逸中央銀行ガ創立以來大戰ニ至ルマデ實行セル所ハ其當ヲ得タルモノニシテ即チ銀行券ノ制限外發行ヲ爲シ一時増加セル資金ノ需要ニ應ズレドモ敢

テ割引歩合ノ引上ヲ爲サズ發行稅ト割引歩合トノ差ハ銀行自ラ之ヲ負擔セルノ場合少ナカラザルナリ

然レドモ膠柱的態度ハ勿論不可ナリトス資金需要ノ増加ガ商工業擴張ノ如キ原因ニ基ヅクトキハ割引歩合ハ必ズ上ルベキモノニシテ中央銀行ノ利率モ亦大勢ニ伴フベキナリ而シテ經濟界ノ好景氣一變シテ投機的事業勃興ノ兆候顯ル、ニ至ラバ中央銀行ハ時機ヲ失セズ十分ニ割引歩合ヲ引上ゲ企業者ニ警告ヲ與ヘ以テ需要ノ緊縮ヲ圖ラザルベカラズ是レ實ニ恐慌ヲ未發ニ防グノ良策トス若シ之ニ反シテ投機熱ノ盛ナラントスルニ當リ中央銀行ガ依然低率ノ割引歩合ヲ繼續シテ増加セル資金ノ需要ニ應ズルトキハ益々投機ヲ助長シ遂ニ恐慌ノ來襲ヲ見ルニ至ルナリ

中央銀行、經濟界不穩ノ狀況ニ鑑ミ投機熱ヲ鎮壓スルノ目的ヲ以テ數バ割引歩合ノ引上ヲ行フモ其效ナク恐慌遂ニ破裂スルニ及デハ更ニ割引歩合ヲ引上グルト共ニ毫モ躊躇スルコトナク盛ニ割引貸付ノ請求ニ應ゼザルベカラズ是レ實ニ人心ヲ鎮撫スルノ秘訣タリトス之ヲ「英蘭銀行」ノ歴史ニ徵スルニ一八二五年恐慌

ノ起ルニ當リ「英蘭銀行」ハ準備金ノ減少ヲ恐レ貸出ヲ緊縮セルガ故ニ却テ恐慌ノ激甚ヲ來タシタリシガ政府ノ勸告ニ依リ其方針ヲ一變シテ大ニ貸出ヲ爲スヤ世人ノ疑懼ハ忽チ消散シテ恐慌其跡ヲ收ムルニ至レリ其後一八四七年、一八五七年及ビ一八六六年ノ恐恐ニ際シテハ一八二五年ノ如ク逡巡スルコトナク初ヨリ盛ニ割引貸付ヲ行ヒタルヲ以テ鎮靜ノ效果速カナリシト云フ

之ヲ要スルニ中央銀行以外ノ銀行ハ恐慌ノ際多クハ資金ノ回收困難ニ陥リ割引貸付ノ縮少ヲ謀ルハ已ヲ得ズト雖モ中央銀行ハ獨リ狂瀾ノ上ニ巖然タルヲ得ルガ故ニ盛ニ割引貸付ヲ行ヒ以テ恐慌ノ鎮靜ヲ圖ルハ其職責ナリトス且「英蘭銀行」ノ如ク巨額ノ預金ヲ有スルモノニシテ恐慌ノ際割引貸付ノ請求ニ應ゼザルニ於テハ預金者ハ之ヲ引出シ「英蘭銀行」モ亦支拂停止ヲ行フニ至ルベキヲ以テ貸出政策ハ同時ニ中央銀行自衛ノ手段ニ他ナラザルナリ

以上述べタルハ主トシテ内國市場ニ對スル割引政策ナレドモ外國ト金融上密接ノ關係ヲ有スル國ニ於テハ金ノ流出ヲ防グガ爲メニ中央銀行ハ其割引歩合ノ引上ヲ行フコトアリ即チ國內ノ金ガ外國ニ流出スルニ當リ之ヲ自然ニ放任スル

トキハ一國ノ金ノ貯藏處タル中央銀行ノ正貨準備ハ必ズ大ニ減少シテ以テ一國ノ信用組織ノ基礎ヲ脆弱ナラシメ甚ダシキニ至リテハ銀行券兌換ノ確實性ヲ危フスルニ至ルナリ是ヲ以テ爲替相場逆調ヲ呈シ正貨流出ノ兆現ハル、トキハ中央銀行ガ警戒ヲ加フベキノ秋ニシテ而シテ正貨流出防禦策ノ最モ有效ナルモノハ割引歩合ノ引上是ナリ然レドモ此事タル諸國ガ金本位制ヲ維持シテ金ノ出入自由ナルコトヲ前提トスルモノニシテ之ヲ世界大戰前ノ事ニ徵スルニ例ヘバ金ノ英國ヨリ流出スルニ當リ「英蘭銀行」ガ其公定歩合ヲ引上グルトキハ市場ノ銀行モ亦其歩合ヲ高ムルモノトス蓋シ此等ノ銀行モ能フ限リ貸出利率ノ高キヲ欲スルハ云フヲ埃タズ且其預金ニ對シテハ公定割引歩合ニ伴フテ利率ヲ上下スルヲ約スルヲ以テ公定歩合上ルトキハ己モ亦之ニ伴フテ其割引歩合ヲ高ムルノ必要アレバナリ若シ市場ニ於ケル資金豊富ニシテ「英蘭銀行」其歩合ヲ引上グルモ市場ノ利率之ニ應ゼザルトキハ「英蘭銀行」ハ往々其所有ノ公債ヲ賣出シ又ハ直接借入ノ方法ヲ以テ市場ノ資金ヲ吸收シ以テ市場ノ利率ノ上騰ヲ促セリト云フ斯ノ如ク倫敦ノ割引歩合上ルトキハ柏林、巴里等ノ銀行其他ノ資本家ハ類ニ倫敦宛

手形ノ買入ニ努メリ何トナレバ其買入即チ割引ハ上騰セル倫敦歩合ヲ以テスルモノナレバナリ而シテ手形ノ價格上騰シテ爲替相場遂ニ正貨輸送點ニ達スルトキハ更ニ正貨ヲ倫敦ニ輸送シ倫敦ノ利率ヲ以テ之ガ運用利殖ヲ圖ルガ故ニ英國ノ爲替相場ハ却テ順調ヲ呈シ單ニ金貨ノ流出ヲ止ムルノミナラズ之ガ流入ヲ促スニ至レリ而シテ他ノ中央銀行ニ比シテ[英蘭銀行]割引歩合ノ變更甚ダ頻繁ナリシ原因ハ主トシテ此對外關係ニ存セルモノニシテ其ノ然ル所以ハ他ニ非ズ英國ノ國際貸借ハ非常ノ巨額ニシテ支拂額一時受入額ニ超過スルコト往々發生シ且倫敦ハ世界金融ノ中心地タルガ爲メニ諸外國殊ニ歐洲大陸ノ銀行ハ常ニ其資金ノ一部ヲ倫敦ニ保有セルモノ少ナカラズ而シテ此種ノ資金ハ主トシテ金利ノ高低ニ應ジテ出入スルモノトス此等ノ關係ノ爲メニ金ノ流出起ルヤ英國ニ於ケル金ノ存在高ハ比較的小ナリシヲ以テ其影響ヲ感ズルコト殊ニ鋭ク而シテ金ノ貯藏處タル[英蘭銀行]ハ之ガ監守ノ任ヲ負ヘバナリ之ニ反シテ割引歩合ノ變更最モ少ナカリシハ[佛蘭西銀行]ニシテ其然ル所以ノモノハ佛國ノ商工業者ガ大ニ利率ノ變更ヲ好マザルコト一原因ナリト雖モ其貨幣制度ガ兩本位ナルヲ理由トシテ

[佛蘭西銀行]ガ金貨引出ニ對シテ手数料ヲ課シタレバナリ即チ多額ノ銀行券兌換ヲ請フ者アルトキハ[佛蘭西銀行]ハ五フラン銀貨ヲ與ヘ若シ金貨ヲ請求スルトキハ手数料ヲ徵收セルヲ以テ輸出ノ爲メニ[佛蘭西銀行]ヨリ金貨ヲ得ルモ收支相償ハザルノ結果トナリタレバナリ

斯ノ如ク割引歩合ノ引上ヲ以テ爲替相場ノ逆調ヲ矯正シ進デ他國ノ正貨ヲ吸收シ得ルハ平素利率ニ大差ナク金融上ノ關係密接ニシテ資金ノ出入迅速自由ナル倫敦、巴里、伯林、維納、紐育等ノ間ニ於テ始テ行ハレタルモノトス我國ノ如ク絶東ニ隔離シテ外國ノ金融市場ト連絡未ダ十分ナラザルニ於テハ金貨ノ流出起ルニ當リ縱令[日本銀行]其割引歩合ヲ引上グルモ[英蘭銀行]等ノ如キ好結果ヲ收ムル能ハザルヤ疑ナク或ハ内地ノ金融ヲ緊縮シテ利率ノ上騰ヲ來スコトアルモ之ガ爲メニ特ニ外國ヨリ金貨ノ流入ヲ促スヲ得ザルナリ又[英蘭銀行]ノ歩合引上ト雖モ必ズシモ其目的ヲ達セルモノニ非ズ一八六六年大恐慌ノ後[英蘭銀行]ノ公定歩合ハ三個月間年一割ノ高率ヲ示セルモ外國ヨリ資金ノ流入極テ少ナカリシト云フ蓋シ歐洲大陸ノ資本家ハ當時英國ノ經濟界ニ對シテ疑懼ノ念ヲ懷キ其ノ利率ノ

甚ダ高カリシハ却テ資金ノ倫敦ニ來タルコトヲ妨ゲタルナリ

第五節 擔保品附手形割引

以上述べタル手形割引ナルモノハ手形署名者ノ支拂能力ニ對スル信用ヲ基礎トスルモノニシテ手形ニ優劣ノ等級アルハ主トシテ此信用ノ厚薄ニ依ルモノトス而シテ此信用ノ十分厚カラザル手形ニ對シテハ割引ノ際、擔保トシテ國債證券株券商品等ヲ徵シ以テ債務不履行ノ場合ニ備フルコトアリ所謂擔保品附手形割引ナルモノ即チ是ナリ英國ノ地方銀行ハ擔保品ヲ徵シテ約束手形ヲ割引スルコトナキニ非ズ佛蘭西銀行モ手形署名者二人ノ場合ニハ商品又ハ有價證券ヲ差入レシムルコトアリト云フ而シテ擔保品附手形割引ノ甚ダ多キハ我國ニシテ此種ノ割引ハ外形ニ於テハ割引ナリト雖モ實質ニ於テハ貸付ト云フモ不可ナキナリ又日本銀行ノ保證品附手形割引ハ實際貸付擴張ノ一手段トシテ起リタルモノニシテ即チ明治二十三年金融甚ダ逼迫ヲ告グルニ當リ日本銀行ハ大ニ貸出ヲ爲サントシタリシモ其貸付ハ日本銀行條例ニ於テ金銀貨地金銀又ハ公債證券政府發

欠

MISSING

第六章 貸付

第一節 動産擔保貸付

授信的業務ノ第二種ハ貸付ニシテ通常ノ銀行ガ主トシテ行フモノハ短期ノ「動産擔保貸付」及「當座貸越」是ナリ而シテ茲ニ動産ト稱スルハ要スルニ有價證券及ビ商品ナリトス

先ヅ動産擔保貸付ニ就テ述ベシニ銀行券ノ發行又ハ預金ノ受入ヲ以テ主要業務ト爲ス銀行ニ於テハ手形ノ割引ヲ最良ノ授信的業務ト爲スコト曩ニ述ベタルガ如シ獨逸中央銀行ノ如キハ特ニ此點ニ注意シ資金ノ運用ハ手形ノ割引平均八割以上ヲ占ムルニ當リ動産擔保貸付ハ僅ニ一割内外ニ過ギザリシナリ同行ノ當局者ハ當時其理由ヲ述ベテ曰ク「貸付ノ要求ハ商業手形ノ如ク必ズシモ賣買取引ニ起因スルモノニ非ズ寧ロ資金一時ノ不足ヲ充足スルヲ以テ目的トスルモノ少ナカラズ手形ニモ融通手形ナルモノアリト雖モ少シク經驗ヲ積ムニ於テハ之ヲ

看破スルコト難カラザルニ反シ貸付要求ノ原因ニ至リテハ之ガ鑑別容易ナラズトス抑モ貸出資金ガ豫期ノ如ク回收セラル、ヤ否ヤハ借主ガ其資金ヲ如何ナル用途ニ供スルヤニ依ルコト大ナルモノニシテ貸付ハ此用途ヲ推測スルノ標準ニ乏シク総合確實ナル擔保品ヲ徴シ用意周到以テ之ヲ行フト雖モ全ク返済延滞ノ缺點ヲ除ク能ハザルナリ蓋シ貸付資金ノ回收如何ハ結局擔保品ヲ賣却スルモ市場ガ能ク之ヲ吸收スルヤ否ヤニ關スルモノニシテ之ヲ從來ノ經驗ニ徴スルニ中央銀行ガ銀行券兌換又ハ預金拂戻ノ準備ノ爲メニ有價證券ヲ賣出サントスルガ如キ世上不穩ノ場合ニハ到底賣出ノ目的ヲ達スル能ハザルナリ」下資金運用ノ方法トシテ貸付ガ手形割引ニ劣ルコト右ニ述べタルガ如シト雖モ實際善良ナル商業手形ノ供給尙ホ少ナキニ當リ強テ割引額ノ多キヲ貪ルハ畢竟少ナカラザル危険ヲ冒ス所以ニシテ銀行ガ損失ヲ招クノミナラズ却テ真正ナル割引業ノ發達ヲ妨グルヲ以テ寧ロ確實ナル貸付ヲ行ヒ善良ナル手形ノ増加ニ伴ヒテ割引ヲ擴張スルニ如カズ獨逸中央銀行ノ前身タル「普魯西銀行」ノ貸付高ハ一八四〇年代ニ於テハ遙ニ割引高ヲ凌駕セリト云フ

動産擔保貸付ガ短期ナルヲ要スル所以ハ他ニ非ズ受信的業務ニ於テ即時ニ拂戻シ又ハ短期ニ返済スベキ債務ヲ負フガ故ニ努メテ資金ノ固定ヲ避ケザルベカラザレバナリ是ヲ以テ諸國ノ中央銀行ハ法規ヲ以テ貸付ノ期限ヲ定ムルモノ多ク獨逸中央銀行「佛蘭西銀行」ノ如キハ三個月以内ニ限リ「日本銀行」ハ其定款ニ於テ六個月ヲ超過スベカラズト爲スナリ次ニ擔保品ノ種類ヲ選擇スルコト極テ必要ニシテ要スルニ價格ノ變動甚ダシカラズ而シテ賣却セントスルトキハ購買者ヲ得ルコト容易ナルモノナラザルベカラズ此條件ヲ具フルコト最モ多キハ貴金屬ナリト雖モ其數量多カラズ且銀ノ如キハ近年其價格ノ變動少ナカラザルガ故ニ金本位國ニ於テハ最モ優良ナル擔保品ト云フヲ得ザルナリ故ニ其數量多クシテ實際優等ノ擔保品タルモノハ確實ナル有價證券ニシテ國債證券其首位ヲ占メ其他大會社ノ株券債券モ善良ナル擔保品タルヲ失ハザルナリ商品モ亦品質變更ノ憂少ナク價格ノ激變稀ナルモノニ至リテハ貸付ノ擔保品トナリ得ルモノニシテ銀行ガ自ラ其擔保品ヲ保管セザルヲ得ザルニ於テハ勞費ヲ要スルコト多ク從テ保管ノ設備ヲ有セザル銀行ハ商品擔保ノ貸付ヲ好マズト雖モ確實ナル倉庫業者

ガ倉庫證券ヲ發行スルニ於テハ銀行ハ證券ヲ擔保ト爲シ得ルガ故ニ商品擔保貸付ハ之ニ依リ便益ヲ得ルコト少ナカラザルナリ又以上述ブルガ如ク擔保品ノ種類ヲ精撰スルモ價格ノ變動ハ全ク之ヲ避クルヲ得ザルガ故ニ其擔保價格ヲ時價以下ニ見積リ且債務者ヲシテ價格低落ノ場合ニハ不足額ニ對シ入金ヲ爲シ又ハ増擔保ヲ差入ル、ノ契約ヲ結バシムベキナリ

資金ノ需要者ガ銀行宛ノ約束手形ヲ振出し又ハ銀行ヲ受取人トスル自己宛ノ爲替手形ヲ作成シテ割引ヲ受クル場合モ其形式ハ手形ノ割引ニ他ナラザルヲ以テ從來本邦ノ普通銀行及ビ貯蓄銀行ハ之ヲ割引ニ包含セシメ其大部分ハ擔保品付ナリシガ「銀行條例施行細則」ノ改正ニ依リ大正五年七月一日ヨリ之ヲ「手形貸付」ト稱シテ貸付ノ一種ト爲シ而シテ爾來此貸付ハ普通銀行ニ於テハ貸付ノ首位ヲ占ムルモノトス又普通銀行ノ貸付ハ其金額ニ於テ手形割引ヨリモ大ナルコトヲ示スニ至レリ

不動産抵當貸付ノ説明ハ之ヲ第三節ニ譲リ茲ニ一言セント欲スルハ所謂「信用貸付」即チ擔保品ヲ有セザル貸付是ナリ蓋シ手形ノ割引モ單ニ手形署名者ノ支拂

能力ヲ信用スルニ過ギザルガ故ニ無擔保ノ貸付モ敢テ不可ナキガ如シト雖モ割引ト貸付トハ其起因自ラ異リテ資金回收ノ難易同ジカラザルハ曩ニ述べタルガ如シ殊ニ信用貸付ニ至リテハ遂ニ滯貨ニ歸スル場合少ナカラザルヲ以テ信用貸付ノ割合大ナルハ喜ブベキニ非ザルナリ

第二節 當座貸越及ビ「カッシェクレヂット」

「當座貸越」(Overdraft)モ亦貸付ノ一種ナリ即チ當座預金ヲ爲ス者ガ銀行ノ許諾ヲ得テ擔保品ヲ差入レ協定セル極度ノ金額ニ達スルマデハ預金ニ對スルガ如ク何時ニテモ小切手ヲ振出し得ルモノトス定期貸付ニ於テハ期限前ニ返済セントスルモ隨意ニ之ヲ爲シ能ハザルニ反シ當座貸越ニ於テハ必要ナル金額ヲ借出し爾後其一部ト雖モ隨意ニ之ヲ返済スルヲ得ルヲ以テ常ニ必要以上ノ金額ヲ借用シテ無益ニ利息ヲ支拂フコトナク又何時ニテモ必要ノ生ズル場合ニハ資金ヲ得ルノ途存スルヲ以テ貸越約定ヲ有スル者ハ自ラ多額ノ現金ヲ貯フルヲ要セズ其便益ノ大ナルコト言フヲ埃タザルナリ次ニ銀行ノ方面ヨリ之ヲ見ルニ擔保品ヲ保有シ貸越金額ニ對シテハ定期貸付ヨリモ高率ノ利息ヲ徴スルガ故ニ善良ナル放

資法ノ一タルヤ疑ナシト雖モ金融逼迫ノ際ニハ貸越ハ自ラ契約セル極度ニ達スベキモノナルガ故ニ貸越約定ノ數多クシテ其金額モ亦大ナルニ於テハ銀行ハ之ガ爲メニ窮境ニ陥ルコトナシトセザルナリ

「カッシェクレヂット」(Cash Credit)ト稱スルハ主トシテ蘇格蘭ニ於テ行ハレタル著名ノ貸付法ニシテ當座貸越ニ類似ス即チ通例二人ノ確實ナル保證人ヲ有スル借主ニ對シ豫メ貸付金額ノ極度ヲ定メ此極度ニ達スルマデハ何時ニテモ借主ノ欲スル金額ヲ貸付クルモノニシテ借主ハ爾後隨意ニ其一部又ハ全部ヲ返済シテ再ビ之ヲ借出スコトヲ得ルモノトス故ニ當座貸越ノ場合ト同ジク必要以上ノ金額ヲ借受ケ無用ノ利息ヲ支拂フコトナク借主ハ實ニ至大ノ便益ヲ有スルナリ而シテ銀行ニ於テハ割引ノ如ク豫定ノ時期ニ返金ヲ期スルヲ得ズ又手形ノ如クニ再割引ノ便ヲ有セズ之ニ加フルニ金融ノ緩慢ナルニ當リテ返済ヲ受ケ逼迫スルトキハ借出サル、ノ不便アルハ當座貸越ニ異ラザルナリ然レドモ蘇國ノ銀行ハ之ニ依リテ銀行券ノ流通ヲ増加シ而シテ貸付ノ利率ハ割引歩合ヨリモ高ク且「カッシェクレヂット」ノ便ヲ得タル者ハ自ラ其取引銀行ヲ擁護スルノ念ヲ生ジ間接ニ銀行ノ利

Cash Credit

益ヲ來タスモノトス且有爲ノ才能ヲ有スルモ資産ニ乏シキ者ヲシテ能ク事業ヲ起サシメ蘇國ニ於テハ無資ノ青年ガ知人ノ保證ヲ以テ銀行ヨリ「カッシェクレヂット」ヲ得之ニ依リテ遂ニ有力ナル農業家又ハ製造家トナリタルモノ少ナカラズ「カッシェクレヂット」ガ蘇國ノ經濟發達ヲ助ケタルハ有名ナル事實ナリトス然レドモ此貸付法ハ蘇國以外ニハ多ク其採用ヲ見ズ同國ニ於テモ近年大ニ減退セリト云フ

第三節 不動産抵當貸付

土地ナルモノハ水害等ニ遭フモ舊狀ニ復スルコト多クハ困難ナラズ其價格亦變動少ナキガ故ニ甚ダ確實ナル抵當物件ナリトス從テ自己ノ所有ニ屬シ又ハ速ニ返還スルノ義務ナキ資金ヲ以テ土地抵當貸付ヲ行フハ決シテ不可ナキナリ然レドモ再三述べタルガ如ク銀行ノ授信的業務ハ其授信的業務ト權衡ヲ保タザルベカラザルガ故ニ一方ニ於テ銀行券ヲ發行シ又ハ多額ノ預金ヲ有スルニ當リ他方ニ於テ土地抵當ノ貸付ヲ行フハ矛盾ノ甚シキモノニシテ多大ノ危險ヲ冒スモノトス何トナレバ銀行券ノ兌換預金ノ引出ニ對シテハ即時之ガ要求ニ應ゼザル

ヲ得ズ此時ニ當リ自己ノ債務者ニ貸金ノ返還ヲ促スモ多クハ之ニ應ズル能ハズ而シテ其抵當物件ヲ處分セントスルモ購買者ヲ得ルコト難ク縱令銀行ハ遙ニ債務金額ヲ超過スル抵當物件ヲ有スルモ忽チ支拂停止ノ窮境ニ陥ルベケレバナリ是ヲ以テ銀行券ノ發行又ハ預金ノ受入ヲ以テ主タル業務トスル銀行ハ土地抵當ノ貸付ヲ避ケ此種ノ貸付ハ特種ノ信用機關ヲ以テ之ヲ行ハザルベカラザルナリ而シテ此等ノ信用機關ニ關シテハ第四章第一節ニ於テ既ニ説ケルガ故ニ更ニ之ヲ述ブルヲ要セザルベシ

本邦ニ於テハ普通銀行ニシテ地方ニ在ルモノハ土地等ノ不動産ヲ抵當トスル貸付ヲ爲スモノ少ナシトセズ故ニ前段ノ論法ヲ適用スルトキハ大ニ憂フベキ現象ナルガ如シト雖モ實際ニ於テハ必ズシモ然リト云フヲ得ザルナリ近時大都會ノ銀行ニ至リテハ純然タル商業銀行ノ本領ヲ備ヘ巨額ノ預金ヲ有スルモノ少ナカラズ此等ノ銀行ニ於テ不動産抵當ノ貸付ヲ行フハ即チ危險ヲ冒ス所以ナレドモ地方ノ銀行ニ至リテハ多クハ預金業未ダ盛ナラザルト共ニ割引ヲ行ハントスルモ真正ノ商業手形甚ダ少ナク而シテ優等ナル有價證券ハ其供給潤澤ナラズ地

方ニ於ケル小會社モ亦確實ナルモノ少ナカラザルベシト雖モ其株券ノ如キハ之ガ賣却容易ナラズトス故ニ土地抵當ノ貸付ハ寧ろ安全ナル放資法ニシテ地方銀行ガ今日之ヲ行フハ必ズシモ咎ムベキニ非ズ唯適當ノ範圍ヲ越ユルナキヲ期スベキナリ

第四節 「コール、マネー」

「コール、マネー」(Call Money)ナルモノハ倫敦ニ於テ多ク行ハル、貸付ニシテ即チ銀行ガ何時ニテモ返還ヲ請求シ得ル約束ニテ手形公債株券等ヲ擔保トシ主トシテ「ビルブローカー」ニ貸付クルモノヲ謂ヒ紐育ニ於テハ之ヲ「コール、ローン」(Call Loan)ト名ヅケ株式取引所ノ仲買人ニ貸付クルコト多シト云フ近年我國ニ於テモ東京大阪其他ノ都市ニ「コール、マネー」ノ取引行ハル、ニ至レリ而シテ東京ニ於テ此取引發生ノ當時最モ普通ナリシハ七日ヲ期限トシ期限後ニ所謂「出手」ガ返濟ヲ請求スルモ所謂「取手」ガ返金ヲ申出ヅルモノ一日前ニ通知シ前者ノ場合ニハ出手ハ返金當日ノ利子ヲ受取ラズ後者ノ場合ニハ取手ハ返濟當日ノ利息ヲ支拂フモノ

ニシテ今日ナホ「普通物」ト稱セラル「無條件」ト呼ブモノハ一日前ノ通知ヲ以テ何時ニテモ返金ヲ請求シ又ハ返金ヲ申出ヅルコトヲ得ルモノトス「翌日拂」ト名ヅクルモノハ今日貸借ヲ行ヒ翌日直ニ之ヲ返済スルモノニシテ「コール、マネー」ノ最モ短期ナルモノナリ月末ヨリ翌月初ニ互ルモノハ之ヲ「月越」ト唱ヘ翌月ニ入レバ前日ノ通知ヲ以テ返金ヲ爲シ又返金ヲ促ガシ得ルモノトス其他數十日間据置ノ「コール、マネー」アレドモ名實相適フモノニアラザルナリ以上列舉セル各種ノ「コール、マネー」ハ貸借者共ニ主トシテ銀行ニシテ之ガ媒介ヲ爲スモノハ「ビルブローカー」ナリトス即チ「ビルブローカー」ハ或ハ單ニ周旋ヲ爲スニ止マリ取引ハ甲乙ノ銀行ヲシテ直接ニ爲サシムルコトアリ或ハ甲ノ銀行ヨリ借出シ乙ノ銀行ニ貸渡スコトアリ而シテ擔保品ハ之ヲ授受スル場合ト然ラザル場合トアリト云フ此取引ノ名稱ハ直ニ英語ヲ採用セルニ拘ラズ英米ノ如ク「コール、マネー」又ハ「コール、ローン」ノ一方ノミヲ唱ヘズシテ「出手」ハ之ヲ「コール、ローン」「取手」ハ之ヲ「コール、マネー」ト名ヅクルナリ

第五節 貸付ノ利率

先ヅ動産擔保貸付ノ利率ヲ見ルニ擔保品ノ性質其他ニ由リテ固ヨリ差異アリト雖モ優等ナルモノニ至リテモ要スルニ第一流手形ノ割引ニ劣ルカ故ニ利率ハ割引歩合ヨリ高キヲ常トス例ヘバ現今「日本銀行」ノ商業手形割引歩合ハ日歩一錢五厘ナルニ國債以外ノモノヲ抵當トスル貸付ノ利息ハ日歩一錢七厘以上ナリ英獨佛ノ中央銀行モ略ボ其掬ヲ一ニシ從來獨逸中央銀行ノ動産擔保貸付利率ハ割引歩合ヨリ高キコト一%ヲ通例トセリ「佛蘭西銀行」ニテハ其差一%乃至半%ノ間ヲ上下シ「英蘭銀行」ニ於テモ貸付ノ利率ハ割引歩合ニ比シテ少シク高シト云フ又本邦各地ノ金利ヲ通觀スルニ貸付利率ハ通常割引歩合ヨリモ高シトス次ニ當座貸越ノ利率ヲ見ルニ通常ノ貸付ヨリモ高ク例ヘバ「日本銀行」現今ノ貸越利率ハ日歩一錢九厘ニシテ割引歩合ニ比シ四厘ノ差アリ「コール、マネー」ニ至リテハ其利率通常市場割引歩合ヨリモ低シトス蓋シ此種ノ貸付ハ銀行ガ其準備金ノ一部ヲ貸出スモノニシテ何時ニテモ回收スルヲ得ルモノナレバナリ紐育ニ於テ「コール、ロ

「イン」ノ利率ノ往々非常ナル暴騰ヲ來タスコトアルハ想フニ倫敦ノ「ビル」ブローカ
「」ガ金融逼迫ノ際「英蘭銀行」ヨリ資金ノ融通ヲ受クルガ如キ便宜ヲ紐育ノ株式仲
買人ノ有セザルガ爲メナラン然レドモ高率ノ繼續スルハ多クハ數日間ニ過ギズ
ト云フ

終ニ不動産抵當銀行ノ長期貸付ノ利率ヲ觀察スルニ前述ノ如ク此種ノ貸付ニ
使用スル資金ハ主トシテ債券ノ發行ニ依リテ得ルモノナルガ故ニ貸付ノ利率ハ
債券ノ利息ヨリモ多少高カラザルヲ得ザルナリ然レドモ他方ニ於テハ長期貸付
ヲ要スル農業ノ如キハ其收益大ナラザルガ故ニ到底高率ノ利息ヲ支拂フ能ハズ
且確實ナル抵當物ヲ徴シテ其見積價格以下ニ於テ貸出スヲ以テ損失ノ憂甚ダ少
ナク從テ其利息ハ所謂保險料ノ元素ヲ含ムコト多カラザルガ故ニ高率ナルヲ要
セザルナリ而シテ此種ノ資金ハ長期ノ放下ヲ要求シ若シクハ期待スルモノニシ
テ割引等ニ用キラル、所謂短期資金トハ自テ性質ヲ異ニシ從テ其利率ノ變動ハ
頻繁ナラズ緩慢ニ昂低スルモノトス

第七章 爲替

第一節 内國爲替

爲替ヲ別チテ内國爲替及ビ外國爲替 (Foreign Exchange) トス而シテ本章ノ目的ハ
主トシテ外國爲替ヲ説明セントスルニ在リト雖モ内國爲替モ亦銀行ノ重要ナル
業務ナルガ故ニ少シク之ヲ述ベント欲ス

例ヘバ東京ノ甲大阪ノ乙ニ對シテ千圓ヲ支拂フベキ義務ヲ負フト同時ニ東京
ノ丙大阪ノ丁ヨリ千圓ヲ請求スルノ権利アルモノトセバ甲ハ丁ニ宛テタル千圓
ノ手形ヲ丙ヨリ譲受ケテ之ヲ乙ニ送付スルトキハ乙ハ此手形ヲ以テ丁ヨリ千圓
ヲ受取ルモノトス是レ即チ爲替ナルモノニシテ甲乙及ビ丙丁ハ互ニ百餘里ヲ隔
ツト雖モ其間ノ貸借ハ一片ノ信用證券ヲ以テ之ヲ決済シ爲メニ貨幣輸送ノ危険
ト勞費トヲ避クルコトヲ得ルナリ然レドモ實際ニ於テ甲ハ果シテ丙ガ大阪ヨリ
支拂ヲ請求スルノ権利アルヤ否ヲ知ラズ又丙ハ何人ガ大阪拂ノ手形ヲ要スルヤ

ヲ知ルコト難ク縦合互ニ之ヲ知ルモ甲乙ノ債權債務ガ金額及ビ支拂期日ニ於テ符合スルガ如キ場合ハ稀ナルベキナリ是ヲ以テ手形ノ需要者ト供給者トノ間ニ立チテ雙方ノ希望ヲ達セシムル機關甚ダ必要ニシテ其ノ最モ重要ナルモノハ即チ銀行ナリトス

銀行ガ爲替ノ業務ヲ營マントスルトキハ諸處ニ支店又ハ爲替取組ノ約定アル銀行ヲ有スルヲ要シ而シテ上述ノ如ク金額支拂期限等ニ關シ需要者ト供給者ノ希望多クハ一致セザルガ故ニ一方ヨリ買取リタル手形ヲ直ニ他方ニ賣渡スモノニ非ズ例ヘバ東京ノ一銀行ガ大阪ヘノ爲替ヲ依頼セラレ、トキハ大阪ノ支店若シクハ約定銀行宛ノ爲替手形ヲ作成シテ之ヲ依頼人ニ賣渡シ又大阪拂ノ手形ヲ持來ル者アルトキハ之ヲ買入レテ大阪ノ支店若シクハ約定銀行ニ送付シ期日ノ到來ヲ待テ之ガ取立ヲ爲サシメ以テ自己ノ賣渡シタル手形ノ支拂資金ニ充ツルモノトス手形ノ性質其他ノ事情ニ依リ手形ノ買入ヲ好マザルトキハ手形所有者ノ需ニ依リ單ニ代金取立ノ爲メニ之ヲ大阪ノ支店若シクハ約定銀行ニ送付スルコトアリ又荷物引換證若シクハ船荷證書及ビ保險證券ヲ添ヘタル手形ノ割引ハ

之ヲ荷爲替ト稱スルコト第五章ニ述べタルガ如シ

爲替ニ使用スル證券ハ爲替手形ヲ以テ常則ト爲スト雖モ小切手モ亦用キラルコト少ナカラズ支拂至急ヲ要スル場合ニハ電信爲替ヲ行フモノニシテ即チ爲替依頼人ハ受取人ニ取組銀行ハ支拂銀行ニ對シテ各電報ヲ發シ支拂銀行ハ受取人ノ差出ス電報ト取組銀行ヨリ到着セル電報トヲ照合シテ支拂ヲ爲スモノトス之ヲ要スルニ爲替ハ他所拂ノ手形ヲ賣買スルニ他ナラズ而シテ手形ノ買入ハ授信業務ノ一タル割引ナルガ故ニ相當ノ利潤ヲ生ジ手形ノ賣渡ハ一ノ受信的業務ニシテ手形ノ實際支拂ハル、マデハ無利息ノ資金ヲ得ル所以ナルヲ以テ是レ亦利潤ノ源泉ナリトス而シテ爲替取組ヲ相約スル銀行ハ互ニ支拂ノ極度額ヲ定メ且雙方共ニ手形支拂額ニ對シテ常ニ利息ヲ附スルガ故ニ甲銀行乙銀行ニ對シテ借越トナルトキハ早晚貨幣ノ輸送又ハ他銀行ノ爲替ニ依リ幾多ノ勞費ヲ以テ支拂ヲ爲スヲ要スルナリ是ヲ以テ一銀行ニ對スル爲替尻著シク借越トナルニ於テハ或ハ爲替ノ依頼ヲ謝絶シ貸越ノ甚ダシキ場合ハ手形ノ支拂ヲ拒絕スルコトアリトス又當座勘定ヲ有スル者ニ對シテハ無償ニテ爲替ノ依頼ニ應ズレドモ其

他ノ場合ニハ多少ノ手数料ヲ徴スルヲ以テ常例ト爲スナリ

獨逸等ノ如ク中央銀行ガ國內ニ數百ノ支店ヲ有シテ盛ニ振替業務ヲ行ヒ又英國ノ如ク倫敦ニ於テ小切手ノ地方交換ヲ爲スニ於テハ國內各地間ノ支拂ハ爲替ノ方法ニ依ラズシテ之ヲ爲スコトヲ得ベシト雖モ此等ノ設備ナキ國ニ於テハ內國爲替ハ甚ダ重要ナル銀行業務ノ一ナリトス

第二節 外國爲替ノ意義

數多ノ邦國相交通スルニ當リ其間ニ或ハ支拂ヲ爲シ或ハ支拂ヲ受クルノ必要發生スルハ自然ノ結果ニシテ此等ノ受拂ハ主トシテ爲替ノ方法ニ依リ決濟セラレ、モノトスクレーア(G. Clear)嘗テ曰ク「一八九一年ニ當リ英國ノ輸出入總額ハ六億八千二百萬磅ニ上レリ而シテ此巨額ノ取引ハ總テ爲替手形ニ依リテ決濟セラレタリト云フモ不可ナク遠隔セル邦國間ノ支拂ヲ爲スガ爲メニ現今類ニ使用セラル、電信爲替ハ一覽拂ノ爲替手形ト看做スコトヲ得ルモノナリ」ト前世紀ニ於テ既ニ斯ノ如クナリシトセバ爾後國際取引ノ増加セルニ從テ爲替ノ效用ノ益、大

ナルヤ言フヲ俟タザルナリ

外國爲替ノ目的ハ內國爲替ノ場合ト同ジク金銀貨幣又ハ地金銀ノ輸送ヲ爲サズシテ國際貸借ノ決濟ヲ行フニ在リトス例ヘバ甲國ノ「イ」乙國ノ「ロ」ニ一萬圓ノ物品ヲ賣却セルニ當リ甲國ノ「ハ」乙國ノ「ニ」ニ對シ一萬圓支拂ノ義務ヲ有スルトセバ「ハ」ハ「イ」ガ「ロ」ニ對シテ振出シタル爲替手形ヲ買入レ之ヲ「ニ」ニ送ルトキハ「ニ」ハ「ロ」ニ呈示シテ一萬圓ヲ受取り四人間ノ貸借ハ貨幣ヲ輸送セズシテ相殺スルコトヲ得ルナリ若シ夫レ遠隔セル邦國間ニ於テ貨幣又ハ地金銀ノ輸送ヲ行フトキハ幾多ノ危険及ビ勞費之ニ伴ヒ且輸送ニ要スル日數間ハ利息ヲ失フモノトス而シテ外國爲替ノ場合ニ於テモ外國ニ對シテ何人ガ支拂ノ義務ヲ負ヒ又何人ガ支拂請求ノ權利ヲ有スルヤヲ知ルコト難キガ故ニ外國拂手形ノ需要供給ハ外國トノ取引盛ナル都市ニ集中シ而シテ通常ノ商人等ガ直接ニ自ラ手形ヲ買ハントスルモ金額支拂期日等自己ノ希望ニ適合スル手形ヲ得ルコト容易ナラズ殊ニ手形ノ良否ニ至リテハ之ヲ識別スルコト甚ダ難キヲ以テ多クハ手形ヲ要スル者ハ外國爲替ヲ營業トスル銀行ニ到リ銀行ガ外國所在ノ支店又ハ爲替取組ノ約定アル銀行ニ

宛テ振出シタル手形ヲ買フモノトス手形ヲ賣ラントスル者モ亦直接又ハ仲買人ヲ經テ之ヲ銀行ニ提供シ而シテ銀行ハ此等ノ手形ヲ支店又ハ約定銀行ニ送付シ以テ支拂資金ニ充ツルナリ

前掲ノ例ニ於テ乙國ノ「ニ」ハ甲國ノ「ハ」ヨリ手形ノ送付ヲ待チタリト雖モ若シ「ニ」ガ「ハ」ニ對シテ爲替手形ヲ振出シタリトセンカ「ハ」ハ既ニ手形ヲ送付セルヲ以テ自己ニ宛テラレタル手形ノ支拂ヲ拒絶セザルヲ得ザルナリ故ニ支拂ヲ受クル者ハ豫メ支拂ヲ爲ス者ト約束ヲ爲シ或ハ手形ヲ振出シ或ハ先方ヨリ手形ノ送付ヲ待ツモノトス而シテ之ヲ世界大戰前ノ實際ニ徵スルニ英國ノ債務者即チ支拂ヲ爲スベキ者ハ多クハ外國ノ債權者即チ支拂ヲ受クベキ者ヲシテ倫敦拂ノ手形ヲ振出サシメ又債權者ハ外國ノ債務者ニ對シテ手形ヲ振出スコト少ナク外國ノ債務者ヲシテ倫敦拂ノ手形ヲ送付セシメタリ故ニ外國ニ於テ振出シタル倫敦拂ノ手形ハ英國ヨリ振出シタル外國拂ノ手形ニ比シ其數遙ニ多カリシト云フ蓋シ英國ノ貿易ハ全世界ニ互リテ天涯地角英國ト取引セザル邦國ナク之ニ加フルニ英國ハ外敵襲入ノ虞少ナク其貨幣制度ハ鞏固ニシテ倫敦拂ノ手形ハ必ズ金ヲ以テ支

拂ハレ金融上ノ便益ハ至大ニシテ信用アル者ハ容易ニ之ヲ利用シ得ル等ノ原因ニ依リ倫敦ハ第十九世紀ノ初ヨリ國際貸借ノ決済所タル地位ヲ占メ從テ倫敦拂手形ハ世界到ル處其需要者ヲ得ルコト容易ニシテ其價格モ亦高カリシヲ以テ英國ニ貨物ヲ輸出シタル者ノ如キハ直ニ倫敦拂ノ手形ヲ作成シテ之ヲ賣却セリ然ルニ英國ヨリ他國ニ物品ヲ輸出セル場合ニ手形ヲ振出スモ需要少ナク貧弱國ニ宛テタル手形ノ如キ信用少ナキガ爲メニ殊ニ然リトス是レ即チ英國人ガ多クハ債務者ヨリ倫敦拂ノ手形ヲ送付セシメタル所以ナリ而シテ倫敦拂ノ手形ハ單ニ英國ニ對スル支拂ニ用キラレタル、ノミナラズ例ヘバ米國人ガ支那ヨリ茶ヲ輸入シ之ガ代價ヲ支拂フニ當リ上海拂ノ手形ヲ以テセルコト少ナク輸出者ヲシテ倫敦拂ノ手形ヲ振出シテ之ヲ賣却セシメ而シテ豫メ倫敦ノ銀行又ハ所謂引受商會ニ手形引受ヲ依頼スルヲ以テ上述ノ手形ハ倫敦ニ到着スルト共ニ引受ヲ得ルモ其支拂期限ノ到來前ニ手形支拂ノ資金ヲ倫敦ノ銀行又ハ引受商會ニ送付スルガ故ニ銀行又ハ引受商會ハ毫モ自己ノ資金ヲ用ウルヲ要セズシテ若干ノ手数料ヲ收メタルモノトス而シテ手数料ハ勿論低率ナレドモ之ヲ支拂フ所以ハ曩ニ

第六節ニ述ベタルガ如ク此種ノ手形ハ其信用厚クシテ其割引歩合甚ダ低キガ爲メナリ倫敦拂ノ「磅」手形即チ所謂「スターリング・ビル」(Sterling Bill)ハ上述ノ如キ理由ヲ以テ往々國際的通貨ト稱セラレ各國ニ於テ大ニ尊重セラレタリシガ世界大戰ノ開始ト共ニ倫敦ハ金ノ自自市場タルノ實ヲ失ヒ次デ其爲替相場ハ米國ニ對シテ著シク逆調ヲ呈セル以來國際貸借ノ決濟所タル地位ヲ失墜セルノ觀アリシガ今ヤ略ボ之ヲ回復セルガ如シ然レドモ「弗」爲替ヲ中心トシテ紐育ノ之ニ對峙スルヲ見ルナリ外國爲替ヲ營業トスル銀行ハ各國ニ存在スト雖モ斯ノ如キ銀行ハ外國ニ數多ノ支店又ハ爲替取組ヲ契約セル銀行ヲ有セザルベカラズ本邦ノ銀行ニシテ專ラ外國爲替ヲ取扱ヘルハ從來主トシテ橫濱正金銀行ナリシガ近時他ノ銀行モ頻ニ此業務ヲ行フモノアルニ至レリ

第三節 外國爲替發生ノ原因竝ニ爲替手形ノ需要及ビ供給

數多ノ邦國相交通スルニ當リ其間ニ或ハ支拂ヲ爲シ或ハ支拂ヲ受クルノ必要ヲ生ズト前節ニ述ベタルハ要スルニ國際貸借ノ謂ニシテ「國際貸借」(International

Indebtedness)トハ一國ガ他國ニ對シテ或ハ支拂ヲ爲シ或ハ支拂ヲ受クル關係ヲ總括セルモノトス而シテ外國爲替ハ此等ノ國際貸借ヲ決濟スルガ爲メニ發生セルモノニシテ之ガ爲メニ使用セラル、爲替手形(小切手、電信爲替ヲ含ム)ヲ供給シ又需要スルモ國際貸借ナリトス國際貸借ノ生スル原因ノ重要ナルモノヲ左ニ列舉セン

第一 貨物ノ輸出入 甲國乙國ニ對シテ貨物ヲ輸出スレバ乙國ヨリ支拂ヲ受クルノ地位ニ立チ之ニ反シテ乙國ヨリ貨物ヲ輸入スレバ之ガ支拂ヲ爲サルベカラズ而シテ貨物ノ輸出入ガ國際貸借ノ最モ重要ナル原因ナルハ言フヲ埃タズト雖モ唯一ノ原因ニハ非ザルナリ

第二 資金ノ移動 他國ノ公債株券債券等ヲ買入ル、トキハ貨物ヲ輸入セルト同ジク外國ニ支拂ヲ爲スノ必要ヲ生ズルナリ又外國ノ政府都市會社等ノ債券ノ募集ニ應ゼルトキモ同一ニシテ實際ノ債權者ハ應募者ナリト雖モ一時其金額ヲ債券募集者タル政府都市會社等ニ支拂ハザルヲ得ザルナリ後日ニ至リ此等債務者ガ年々利息ヲ支拂ヒ又ハ元金ヲ償却セントスルトキハ債權國ニ對シ

ヲ支拂フ爲スノ必要ヲ生ズルモノニシテ外國人ノ有スル株式ニ對スル利益配當金ヲ支拂フ場合モ亦然リトス世界大戰前ニ於テハ倫敦巴里柏林アムステルダムブルツセル維納紐育等ノ如ク金融上ノ關係密接セル都市ノ間ニ於テハ金利ノ高低ニ依リ資金ノ移動常ニ行ハレ國際貸借上ヨリ見レバ實際ノ必要ニ起因スル受拂ニ異ラザルナリ又最近歐洲諸國ニ於テ不換紙幣濫發ノ爲メニ其價值ノ低落甚シク將來益然ラントスル形勢現ハル、ヤ所有ノ財產殊ニ移動ニ便ナル資金ヲ安全ナル外國ニ輸出スルコト盛ニ行ハレ「資本ノ逃亡」(Flight of Capital)ト稱セラル、ニ至レリ

之ヲ要スルニ「資本ノ輸出」又ハ「國外投資」ト呼ビ或ハ「外資輸入」ト名ヅクルモノハ其形式如何ニ關セズ其期間ノ長短ニ拘ラズ皆資金ノ移動ニシテ國際貸借ノ一原因ナリトス而シテ多年資金ヲ外國ニ放下シタル結果第一ノ債權國タリシハ從來英國ニシテ此關係ニ於テ英國ガ毎年受領セル金額ハ非常ノ巨額ニ上リタリシガ大戰ノ爲メニ其對外債權ノ一大部分ヲ失ヒタルノミナラズ米國ニ對シテ莫大ナル負債ヲ爲スニ至レリ之ニ反シテ米國ハ一躍シテ債務國タル境遇

ヲ脱シタルノミナラズ債權國トシテ英國ヲ凌駕セントスルモノ、如シ

第三 運賃備船料保險料口錢利潤等ノ受拂 數多ノ船舶ヲ有シ自國ノ貨物旅客ヲ運搬スルノミナラズ他國ノ商品其他ヲ搭載スルニ於テハ運賃ナルモノモ亦他國ヨリ支拂ヲ受クル一原因ニシテ英國ノ如キハ其適例ナリトス大戰開始後ニ於テ本邦ノ國際貸借ガ數年間非常ニ順調ナリシハ輸出超過以外ニ船舶ノ運賃備船料等ノ領收ニ負フ所大ナリトス又倫敦ノ如キ國際商業ノ中心地ニ於テハ外國ヨリ受取ルベキ保險料口錢ノ金額少ナカラザルナリ外國ニ在留スル商人ガ其本國ニ其利潤ヲ送ルモ亦國際貸借ノ一原因ヲ成シ移民ノ送金モ之ト同ジトス

第四 外國在留者ノ經費 外國ニ旅行又ハ逗留スル者ハ經費ノ支辨ヲ其本國ニ仰グコト多ク從テ其本國ヲシテ外國ニ對スル支拂ヲ増加セシムル所以ナリ例ヘバ露國ノ如キハ往時其貴族ガ外國ニ滞在シ又ハ旅行ヲ爲スガ爲メニ年々消費セル所少カラズ而シテ國際貸借上貨物ヲ輸入セルト同一ノ結果ヲ生ゼリ之ニ反シテ伊太利瑞西ノ如ク遊覽ノ旅客常ニ來集スル邦國ニ於テハ之ガ爲メニ

外國ヨリ支拂ヲ受クル金額少ナカラザルナリ其他外交官留學生等ノ要スル經費モ此部類ニ屬スベキナリ

第五 不時ノ原因 例ヘバ償金ノ受拂ノ如キ是ナリ一八七〇年乃至七一年ノ獨佛戰爭後佛國ガ獨逸ニ五十億フランヲ支拂ヒ明治二十七八年ノ戰勝ニ依リ我國ガ清國ヨリ三千二百九十一萬磅餘ヲ領收セルガ如キ其實例ナリトス世界大戰ノ結果トシテ獨逸ガ聯合國ニ支拂フベキ賠償金ニ至リテハ其額實ニ莫大ニシテ獨逸將來ノ國際貸借上非常ノ負擔ナルヤ言フヲ俟タザルナリ其他外國ノ災害ニ對シ救濟金ヲ贈ルガ如キモ不時ニ起レル國際貸借ノ一種ト謂フベシ以上列舉セル國際貸借ノ原因ハ亦同時ニ爲替手形ノ需要竝ニ供給ノ原因タルコト曩ニ述ベタルガ如シ而シテ之ヲ概言スレバ國際貸借ニ於テ支拂ヲ爲サントスル者ハ手形ヲ需要シ支拂ヲ受クル者ハ手形ヲ供給スルモノトス例ヘバ貨物ノ輸出入ニ於テ輸入者ハ手形ヲ需要シ輸出者ハ之ヲ供給スルナリ然レドモ同一ノ取引ニ於テハ當事者ノ一方ガ需要者若シクハ供給者トナルモノニシテ双方ガ同時ニ需要者供給者トナルニ非ザルコトハ前節ニ於テ述ベタルガ如シ斯ノ如ク國

際貸借アリテ始メテ外國爲替起リ手形モ亦之ガ爲メニ出現スルモノナレドモ外國爲替行ハル、ガ爲メニ生ズル手形ノ需要及ビ供給アルコトヲ忘ルベカラズ直接國際貸借ニ起因スルモノヲ第一次ノ需要及ビ供給ト稱スルヲ得バ之ニ對シテ第二次ノ需要及ビ供給ト名ヅクベキモノハ即チ左ノ如シ

第一 爲替ノ「出合」銀行ガ爲替ノ依頼者ニ手形ヲ賣渡スニ於テハ其支拂人タル支店又ハ約定銀行ニ對シテ債務ヲ生ズルコトヲ豫期セザルベカラズ是ヲ以テ此債務ノ辨濟ノ爲メニ手形ヲ買入レテ支店又ハ約定銀行ニ送付シ其手取金ヲ以テ自己ノ振出シタル手形ノ支拂資金ニ充ツルコトヲ努ムルモノトス即チ此場合ニハ銀行ハ先ヅ手形ノ供給者トナリ次デ其需要者トナルナリ之ニ反シテ銀行ガ例ヘバ輸出者ノ依頼ニ應ジテ其手形ヲ買入レタルトキハ他方ニ於テ自ラ手形ヲ賣出シテ資金ノ補充ヲ圖ルヲ要スルモノニシテ此場合ニハ銀行ハ先ヅ手形ノ需要者トナリ次デ手形ノ供給者トナルナリ共ニ爲替ノ「出合」ヲ求ムルモノニシテ銀行ガ外國爲替業務ヲ營ムニ於テハ手形ノ賣買ハ絶エズ並ビ行ハザルヲ得ズ而シテ此賣買ハ國際貸借ノ關係ニ於テ或ハ支拂ヲ爲シ或ハ支拂ヲ

受クル原因ヨリ起ルニ非ズ全ク爲替業務ヲ營ムガ爲メニ生ズル手形ノ需要又ハ供給ナリトス

第二 爲替ノ「裁定」外國爲替ニ於テ行ハル、彼ノ「裁定」モ亦手形ノ需要又ハ供給ノ一原因ナリトス爲替ノ裁定トハ後節ニ述ブルガ如ク同時期ニ於ケル各地ノ爲替相場ヲ比較シ二個處以上ニ於テ或ハ手形ヲ賣出シ或ハ之ヲ買入レ其間ニ差益ヲ得ルノ方法ニシテ或ハ手形ノ供給トナリ或ハ其需要トナルナリ而シテ此業務ハ外國爲替ヲ營業トスル者ニシテ始メテ之ヲ行ヒ得ルモノトス

第三 爲替ノ投機 爲替相場變動ノ範圍少シク大ナルニ於テハ外國爲替モ亦投機ノ目的物トナリ銀爲替ニ於テ其ノ行ハル、ソミナラズ不換紙幣國ノ爲替ニ於テ特ニ旺盛ナルヲ見ルナリ即チ單ニ將來ノ相場ヲ豫想シテ或ハ手形ヲ買ヒ或ハ之ヲ賣ルコトハ株式米穀等ノ投機買賣ト異ラズ「賣」ハ手形ノ供給ニシテ「買」ハ其需要ニ他ナラザルナリ而シテ此投機ハ爲替ヲ營業ト爲サザル者モ亦之ヲ行フコト少ナカラズトス

第四節 爲替相場

前節ニ述べタルガ如キ原因ニヨリ手形ヲ賣ラントスル者及之ヲ買ハントスル者アリ而シテ其價格ハ他ノ財貨ノ場合ト同ジク要スルニ需要供給ノ關係如何ニ由リテ高低ヲ來シ以テ爲替相場ナルモノ現出スルニ至ル

外國拂手形ノ金額ハ通常支拂地ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示スルモノナレドモ之ガ賣買ハ賣買地ノ貨幣ヲ以テスルガ故ニ手形ノ賣買セラル、ヤ直ニ外國貨幣ト自國貨幣トノ交換比例ヲ現出スルモノトス是レ即チ爲替相場ニシテ之ヲ表示スルニ或ハ一定額ノ自國貨幣ヲ以テ標準ト爲スコトアリ或ハ一定額ノ外國貨幣ヲ以テ基礎ト爲スコトアリ前者ヲ受取勘定又ハ外貨建ノ相場ト稱シ一圓ニ付キ英貨二志〇片四分ノ一ト云フガ如キ即チ是ナリ後者ハ之ヲ支拂勘定又ハ邦貨建ノ相場ト名ヅケ英貨一磅ニ付キ九圓七十五錢ト云フガ如キ即チ是ナリ

爲替相場變動ノ程度ヲ測定スルガ爲メニ設クル標準ハ所謂「法定平價」(Mint Par)ナルモノ是ナリ法定平價トハ法律ニ規定スル品位量目ニ依リ各國ノ本位貨幣ガ

含有スベキ貴金屬ノ分量ヲ互ニ比較シテ其相當價值ヲ表示セルモノトス是ヲ以テ英國ト濠洲又ハ南阿トノ間ノ如ク名稱實質ノ同一ナル貨幣ヲ用フル場合ニ於テハ敢テ法定平價ヲ求ムルヲ要セズト雖モ世界ノ諸國多クハ貨幣制度ヲ異ニスルガ故ニ一々其間ニ於ケル法定平價ヲ算出セザルヲ得ザルナリ試ニ日英間ノ法定平價ヲ見ルニ我一圓ハ英貨ノ二志〇片十六分ノ九ニ當リ英貨一磅ハ我九圓七十六錢三厘ニ均シキモノトス而シテ法定平價ハ本位貨幣ノ物質ヲ同ジウスル邦國間ニ於テノミ之ヲ定メ得ベキモノニシテ金本位國ト銀本位國トノ間ニハ之ヲ定ムルヲ得ズ何トナレバ金銀ノ比價常ニ變動スレバナリ又不換紙幣ノ行ハル、邦國ニ對シテモ然リトス

爲替相場ノ建方ニ二種アルコト屢ニ述ベタルガ如シ支拂勘定ノ建方ハ近時諸國ノ採用スル所ナレドモ倫敦ニ於テハ約三分ノ二ハ受取勘定ノ建方ヲ用キ我國ニ於テハ少數ノ場合ノ外總テ受取勘定ノ建方ナリトス受取勘定ノ建方ニ於テ爲替相場上騰スト云フトキハ手形ノ價格下落シテ外國貨幣ニ對スル我貨幣ノ價值即チ對外價值上レルナリ爲替相場下落スト云フトキハ手形ノ價格上騰シテ外國

貨幣ニ對スル我貨幣ノ價值即チ對外價值下レルナリ而シテ受取勘定ノ建方ニ於テ爲替相場平價以上ニ昇ルトキハ之ヲ順又ハ利ト云ヒ平價以下ニ降ルトキハ之ヲ逆又ハ不利ト稱ス蓋シ受取勘定ノ建方ニ於ケル爲替相場ノ上騰ハ通常手形ノ供給潤澤ニシテ外國ヨリ支拂ヲ受クルコト多キヲ示シ爲替相場ノ低落ハ手形ノ需要旺ニシテ外國ニ支拂ヲ爲スコト大ナルヲ表ハスモノニシテ第一ノ場合ニハ正貨輸入セラレ第二ノ場合ニハ正貨流出スルノ結果ヲ生ズベキナリ正貨ノ多少ハ直ニ之ヲ以テ一國ノ貧富ヲトスベカラザルハ言フヲ埃及ズ而シテ右ノ如ク爲替相場ノ上騰ヲ利又ハ順ト稱シ其低落ヲ不利又ハ逆ト名ヅクルハ往時ノ重商主義ニ淵源スト雖モ今日所謂順逆利不利ナルモノハ一國全般ノ經濟ヨリ之ヲ謂フニ非ズ主トシテ金融市場ニ及ボス影響ニ徴シテ此等ノ言辭ヲ費用スルニ過ギザルナリ

爲替相場ハ手形ノ需要供給ノ關係ニ依リテ上下スルモノナレドモ對手國ノ貨幣制度ガ共ニ金本位又ハ共ニ銀本位ニシテ金又ハ銀ノ出入自由ナルニ於テハ其變動ニハ自ラ制限アルモノトス即チ手形ノ價格甚ダシク上騰即チ受取勘定ノ建

方ニ於テハ爲替相場ノ下落スルニ於テハ外國ニ支拂ヲ爲サントスル者ハ手形ノ買入ヲ止メテ正貨即チ金(又ハ銀)ヲ輸送シ又手形ノ價格著シク下落即チ爲替相場ノ上騰(スルトキハ手形ノ所持人ハ之ヲ支拂地ニ送付シ正貨ノ廻送ヲ請求スルニ至ルベキナリ)而シテ之ヲ實際ニ徴スルニ爲替相場ノ變動ニ乘ジ正貨ノ輸出又ハ輸入ヲ行フハ主トシテ外國爲替ヲ營ム銀行等ナリトス即チ此等ノ銀行ハ手形ノ需要大ニシテ其價格ノ上騰或程度ニ達スルトキハ正貨ヲ輸出スルト共ニ之ニ對スル手形ヲ振出シテ之ヲ賣渡シ以テ手形ノ供給ヲ増加スルガ故ニ手形ノ價格ハ上騰ヲ止ムルナリ又手形ノ需要少ナクシテ其價格或程度ニ下落スルトキハ手形ヲ買入ル、ト同時ニ外國ノ支店若シクハ約定銀行ヲシテ正貨ヲ輸送セシムルモノトス茲ニ於テ手形ハ需要ノ増加ニ依リ價格ノ低落ヲ停止スルナリ斯ノ如ク正貨ノ輸入又ハ輸出ヲ促スニ至ル爲替相場ヲ正貨輸送點(Specie Points)ト稱シ爲替相場ハ上騰スルモ亦低落スルモ通常之ヲ超ユルコトナキナリ

此正貨輸送點ナルモノハ法定平價ノ上下ニ在ルモノニシテ受取勘定ノ建方ニ於テハ正貨輸入點ハ運賃保險料手数料利息等ヨリ成立スル輸送費ヲ法定平價ニ

加ヘタルモノニ均シク正貨輸出點ハ法定平價ヨリ輸送費ヲ控除セルモノトス例ヘバ一九二八年末ニ於ケル倫敦對紐育ノ正貨輸送點ヲ見ルニ一磅ノ法定平價ハ四弗八六六ニシテ正貨輸出點ハ四弗八五一、輸入點ハ四弗八八八ナリトス勿論特別ノ便宜ヲ有スル者ハ他ニ比シ僅少ノ費用ヲ以テ輸送スルコトヲ得ベク又巨額ノ正貨ヲ輸送スルトキハ運賃ノ割引ヲ得ルガ如キコトアルヲ以テ正貨輸送點ハ確定不動ノモノニ非ザレドモ略ボ一定スルモノトス而シテ外國爲替ヲ營ム銀行等ノ間ニ行ハル、競争ト交通機關ノ進歩トニ因リ正貨輸送點ハ次第ニ法定平價ニ近ヅクノ傾向アルモノナレドモ保險料運賃等ノ増率ノ爲メニ一時反對ノ現象ヲ呈スルコトナキニ非ザルナリ

以上述べタルハ參著拂手形即チ手形振宛地ニ到着次第直ニ振宛人ヨリ其支拂ヲ受クル手形ニ關スルモノニシテ次ニ定期拂手形ノ價格ハ如何ニシテ定マルカヲ見ルニ參著拂手形ノ價格ニ對スル差違ハ主トシテ支拂期日ノ長短ト手形支拂地ニ於ケル利率トニ基ヅクモノトス例ヘバ甲國ヨリ乙國ニ手形ヲ郵送スルニ三十日ヲ要スルモノトセバ日附後九十日目拂ノ手形ノ價格ハ乙國ニ於ケル六十日

間ノ利息ヲ參著拂手形ノ價格ヨリ控除シ又一覽後九十日目拂ノ手形ノ價格ハ九十日間ノ利息ヲ控除シタルモノトス而シテ參著拂ト定期拂トヲ比較スルニ支拂期限ノ長キニ從ヒ不渡ノ危險増加スルヲ以テ定期拂ノ手形ノ價格ハ右ニ述ベタルガ如ク單ニ利息ヲ控除セルモノヨリモ尙ホ多少低キモノトス又手形支拂地ニ於ケル利率ヲ標準トスル所以ハ他ナシ定期拂ノ手形ガ支拂地ニ到着スルモ支拂期日ニ達セザルニ當リ之ヲ現金ニ引換ヘント欲セバ其地ノ銀行ニ就テ割引ヲ請ハザルヲ得ズ而シテ銀行ハ其所在地ノ利率ヲ以テ割引ヲ爲スベケレバナリ之ヲ換言スレバ兩種ノ手形ガ支拂地ニ於テ同時ニ現金トナル額ヲ標準トシテ振出地ニ於テ之ガ價格ヲ定ムルナリ定期拂ノ手形ニ反シ其價格參著拂手形ヨリ高キモノハ電信爲替(Telegraphic Transfer, T. T.)ナリトス電信爲替ハ外國ニ電報ヲ發シ其著次第外國ニ於テ支拂ヲ受クルモノニシテ例ヘバ手形ノ郵送ニ三十日ヲ要スルトセバ現金ヲ受領スルコト參著拂手形ヨリ三十日早キヲ以テ支拂地ニ於ケル三十日間ノ利息ヲ參著拂手形ノ價格ニ加ヘタルモノナラザルベカラザルナリ

爲替相場ハ右ニ述ベタルガ如ク手形ノ支拂期限ノ長短ニ從ヒ高低アルノミナ

ラズ手形ノ信用如何ニ依リテモ亦然リトス而シテ信用ノ最モ大ナルハ所謂銀行手形ナルモノニシテ此種ノ手形ハ振出人支拂人共ニ著名ナル銀行ナルヲ以テ其信用厚ク從テ其價格最モ高シトス定期拂ノ手形ノ價格ニ就テハ振宛地ノ利率直接ノ關係ヲ有シ而シテ銀行手形ハ他ノ手形ヨリモ割引歩合低キガ故ニ是レ亦銀行手形ノ價格ヲ大ナラシムル一原因ナリ銀行ノ發行セル信用狀ニ據リ該銀行ニ宛テ振出サレタル手形ノ如キモ一種ノ銀行手形ニ他ナラズト雖モ純然タル銀行手形ニ比スレバ其價格少シク低キヲ常トス信用狀トハ銀行ガ外國所在ノ支店又ハ爲替取組ノ約定アル銀行ニ宛テ發行セルモノニシテ其所持人ガ發行者タル銀行宛ノ手形ヲ作成シテ該支店又ハ約定銀行ニ持參スルトキハ一定ノ條件ノ下ニ之ヲ買取ルコトヲ依頼スル文書ナリトス次ニ商業手形ト稱スルモノハ確實ナル内外國ノ商工業者ガ振出人支拂人タル手形ニシテ其信用ニ關シテハ敢テ疑ヲ容レズト雖モ要スルニ其價格ハ前二者ニ劣ルナリ終ニ擔保品附手形ナルモノアリ即チ輸出商ガ其輸出貨物ノ買主ニ對シテ手形ヲ振出シ之ニ船荷證券保險證書ヲ添ヘタルモノニシテ荷爲替ト稱スルモノ是ナリ其性質ハ内地ノ荷爲替ニ異ルナ

ク手形が不渡トナルトキハ銀行ハ其貨物ヲ賣却シテ辨償ニ充ツルコトヲ得ルモノトス而シテ此種ノ手形ノ價格ガ通例最低位ニ在ル所以ハ他ナシ其信用主トシテ其擔保品ノ上ニ存シ其價格下落スルガ如キ場合ニハ損失ヲ招クコトナシトセザレバナリ而シテ此荷爲替手形モ信用狀ニ據リテ振出サル、コト少ナカラズトス

彙ニ述ベタルガ如ク外國爲替手形ノ金額ハ通常支拂地ノ貨幣ヲ以テ表示スルモノナレドモ往々振出地ノ貨幣ヲ以テスルモノアリ我國ニ於テ支拂ハル、ニ拘ラズ英貨ニテ表示スル「スターリング、ビル」ヲ英國人ノ振出スガ如キ其一例ニシテ近時我國ニ於テモ上海等ヲ支拂地トスル「圓手形」ナルモノアリ而シテ此種ノ手形ハ多クハ同時ニ「利付手形」ナルモノナリトス即チ手形ノ振出人ハ直ニ之ヲ自國ノ銀行ニ賣渡シ之ヲ買取リタル銀行ハ之ヲ振宛國ノ支店又ハ爲替取組ノ約定アル銀行ニ送付シ手形支拂人ヲシテ支拂期日又ハ支拂人ノ希望ニ依リ期日、前ニ當日ノ爲替相場ヲ標準トシテ手形金額並ニ最初買取リタルトキヨリ支拂金ガ銀行ニ到着スルマデノ日數ニ應ズル利息ヲ支拂ハシムルモノトス是レ即チ利付手形ノ

稱アル所以ナリ又爲替相場ニ「賣」又「買」ノ語アリ是蓋シ外國爲替ヲ營業トスル銀行ヨリ見タルモノニシテ該銀行ノ賣ラントシ又買ハントスル相場ノ意義ナリトス「打歩」又ハ「割引」ノ語モ亦往々用キラル主トシテ貨幣制度ノ同一ナル場合ニシテ例ヘバ南阿ニ於テ倫敦宛電信爲替ガ「二パーセント」割引ト稱スルトキハ千磅ノ爲替ガ九百八十磅ニテ取組マレ得ルニ他ナラズ之ニ反シテ千磅以上ヲ要スルトキハ爲替相場ハ若干ノ打歩ヲ現ハセルナリ

第五節 變動ノ甚シキ爲替相場

前節ニ述ベタルハ金本位國間(又ハ銀本位國間)ニ於テ平穩無事ノ日ニ當リ現出スル爲替相場ニシテ其變動ノ範圍ハ狹隘ナリト雖モ戰亂恐慌等ノ場合ニ於テハ異例ノ相場ヲ生ズルコトアリ又銀本位國對金本位國ノ爲替相場ハ變動往々激甚ナルコトアリ不換紙幣國ノ爲替相場ニ至リテハ殊ニ然リトス
先ヅ戰亂恐慌等ノ際爲替相場ニ異常ノ變動ヲ現セル場合ヲ見ルニ一八六一年ノ初ニ於ケル紐育ノ爲替相場ノ如キ是ナリ即チ米國ハ前年ニ於テ穀物ヲ歐洲ニ

輸出セルコト甚ダ多ク同時ニ國情不穩ノ兆既ニ顯レ輸入從テ減少セルヲ以テ手形ノ供給ハ需要ニ超過シ爲メニ手形價格ガ多少下落スベキハ當然ノコトナリシト雖モ當時内亂破裂ノ危機切迫シ恐慌將ニ襲來セントスルガ如キ形勢ナリシヲ以テ輸出者ハ先ヲ爭フテ其手形ヲ賣出シ之ヲ現金ニ引換ヘントセルヲ以テ手形ノ價格ハ非常ニ低落ヲ來セルナリ一九一四年ノ七月末歐洲大戰ノ勃發セントスルニ當リ紐育ニ於テ倫敦宛手形ノ價格ガ異常ノ騰貴ヲ現ハセルモ亦一例ナリトス又甲國ニ於テ世情不穩ノ形勢現ル、ニ當リ乙國ニ於ケル甲國宛手形ノ價格ハ異例ノ下落ヲ爲スコトアルベシ何トナレバ甲國ニ於テ戰爭破裂スルガ如キ場合ニハ手形ガ果シテ支拂ハル、ヤ否ヤ人ヲシテ疑懼ノ念ヲ懷カシムベケレバナリ一國ニ於ケル本位貨幣ノ磨損甚ダシキ場合ニモ爲替相場ハ多少ノ異狀ヲ呈スルコトアリ例ヘバ假ニ甲國ノ金貨大ニ磨損スルニ於テハ同國宛手形ハ此磨損セル貨幣ヲ以テ支拂ハル、モノト看做サルヲ得ザルガ故ニ他國ニ於ケル甲國宛手形ノ價格ハ此磨損ノ程度ニ應ジテ低落シ從テ遙ニ法定平價以下ニ降レル相場ヲ現出スルニ至ルベシ然レドモ國際貸借ニシテ順調ナル間ハ此低落ハ實現スル

モノニ非ザルナリ又英國ニ於テハ一八八〇年代ノ改鑄マデ金貨ノ過半ガ通用最輕量以下トナレルニ拘ラズ其ノ爲替相場ニ影響ナカリシハ「英蘭銀行」ノ保有セル金貨ハ其量目十分ニシテ同行ハ之ヲ以テ常ニ兌換ノ需ニ應ジタレバナリ

金本位國對銀本位國ノ爲替相場モ其變動ニハ限度ナキモノトス何トナレバ銀貨ヲ金本位國ニ輸入スルモ當然貨幣ト爲シテ支拂ニ供スルヲ得ズ金貨ヲ銀本位國ニ輸入セル場合モ亦同一ニシテ金本位國間ニ於ケルガ如キ連絡存在セザレバナリ而シテ金本位國對銀本位國ノ爲替相場ヲ定ムル根本原因ハ國際貸借ナレドモ金本位國ニ於テ金地金ガ自由鑄造制度ニ由リ殆ド確定セル價格ヲ有スルガ如ク銀本位國ニ於テハ銀ガ殆ド確定セル價格ヲ有スルヲ以テ金ハ金本位國ヘノ支拂ニ於テ又銀ハ銀本位國ヘノ支拂ニ於テ共ニ爲替手形ト同一ノ目的ニ用キ得ラレ之ガ爲メニ爲替相場ト金銀比價トノ間ニ密接ナル關係ヲ生ズルナリ而シテ有力ナル銀本位國又ハ完全ナル兩本位國ノ數少カラズ從テ銀ヲ吸收シ又銀ヲ吐出スル地域尙ホ廣キトキニ於テハ金銀ノ比價即チ金本位國ニ於ケル銀相場ハ金本位國對銀本位國及ビ兩本位國ノ爲替相場ニ依リテ左右セラレタルモ諸國相踵テ或

ハ金本位制ニ移リ或ハ銀貨ノ自由鑄造ヲ停止シ從來ノ如ク法定價格ヲ以テ銀ヲ買入ル、國極メテ少數且微力トナルニ及ンデハ銀ノ價格ハ普通ノ商品ノ場合ト同ジク主トシテ需要供給ノ關係ニ依リテ高低シ而シテ金本位國對銀本位國ノ爲替相場ハ從前ノ如ク銀相場ヲ調節スルノ力甚ダ弱ク却テ銀相場ニ依リテ支配セラル第二十世紀ニ入りテハ主タル銀本位國ハ支那ニシテ對支爲替相場ガ銀相場ニ左右セラル、ハ顯著ナル事實ナリトス而シテ金本位國ガ或ハ不換紙幣國トナリ或ハ金ノ輸出ヲ禁止セルガ如キ場合ニ於テモ銀價ノ騰落ハ此等ノ諸國ト銀本位國トノ間ニ爲替相場ニ影響ヲ及ボスモノトス然レドモ銀本位國ニ於テモ銀貨ノ自由鑄造ヲ禁止スルトキハ金銀比價ノ變動ハ爲替相場ニ對シ關係ヲ絶ツハ西班牙等ノ實例之ヲ明示シ金爲替本位制ハ要スルニ銀價變動ノ爲替相場ニ及ボス影響ヲ免ル、ガ爲メニ設ケラレタルモノトス

不換紙幣國ノ爲替相場ト雖モ必ズシモ甚シク變動スルモノニ非ズ一八七〇年代ノ佛國又ハ世界大戰前ノ伊太利ニ於ケル爲替相場ノ如キハ殆ド平價ヲ維持セリ然レドモ多數ノ場合ニ於テ激甚ナル變動ヲ現ハシ世界大戰後獨逸露國埃太利

等ニ於ケル爲替相場ノ如キハ何人モ豫想セザリシ所ナリトス

不換紙幣國ノ爲替相場モ之ガ決定ノ根本原因ハ國際貸借ナレドモ先ヅ一言スベキハ爲替相場ト金(又ハ銀)ノ打歩トノ關係ナリトス此二者ハ當然同一ナルモノニ非ザレドモ金(又ハ銀)ノ輸出入自由ナルニ於テハ事實上同一ナルモノニシテ其ノ然ル所以ハ他ニ非ズ金(又ハ銀)ガ對手國ノ本位貨幣ノ原料ニシテ自由鑄造ノ制度存在スレバナリ例ヘバ或原因ニヨリ金ニ打歩生ズルニ於テハ金本位國宛ノ爲替手形ノ價格ハ之ニ應ジテ騰貴スルモノトス何トナレバ手形ノ價格騰貴セザレバ其所有者ハ之ヲ賣却セズシテ振宛國ニ郵送シ其手取金ヲ金貨ニテ取寄スルヲ以テ有利ト爲セバナリ又或原因ヨリシテ手形ノ價格騰貴セバ金ノ打歩ハ之ニ應ジテ増加スベシ若シ此場合ニ相當ノ増加ナキニ於テハ金本位國ニ支拂ヲ爲サントスル者ハ金ヲ買入レテ之ヲ輸出スルニ至ラン斯ノ如ク爲替相場ト金(又ハ銀)ノ打歩トハ結局一ニ歸スルモノナレドモ何レガ主ニシテ何レガ從ナルヤハ一定セズ不換紙幣出現ノ初ニ於テ世人ノ疑懼心大ナルトキハ金銀貨ハ忽チ蓄藏セラレ之ヲ獲得セントシテ若干ノ打歩ヲ拂フ者ヲ生ジテ手形ノ價格モ之ニ應ジテ上

騰スルニ至ル然レドモ斯ノ如キ一時的現象消散スルトキハ爲替相場變動シテ打歩之ニ追隨スルヲ常例トシ世界大戰後倫敦ニ於ケル金地金ノ價格ガ主トシテ紐育宛爲替相場ニ依リテ定マルガ如キ其一例ナリトス而シテ爲替相場ハ要スルニ國際貸借ノ關係ニ依ルモノナレバ貸方幸ニ順調ナルトキハ爲替相場ノ回復ニ伴ヒ打歩モ減少シテ或ハ消滅スルニ至ル然レドモ不換紙幣ハ多クハ戰爭等ノ際ニ發行セラル、モノニシテ國內ノ生産ハ衰退シ外國ニ對スル食物原料其他ノ需要増加スルヲ以テ國際貸借ハ自ラ逆調ヲ呈シ而シテ紙幣ノ増發相踵グトキハ物價騰貴シ其程度ニシテ爲替手形ノ上騰ヨリモ甚シキトキハ益輸入ノ増加ヲ促ガスガ故ニ國際貸借ハ一層借方ノ超過トナリ從テ爲替相場モ之ニ應ジテ低落受取勘定ノ建方セザルヲ得ザルナリ

銀本位國殊ニ不換紙幣國ノ爲替相場ニ就テ一時的ノ激變ヲ生ゼシムルモノハ投機ナリトス蓋シ投機ハ價格ノ變動頻繁ニシテ其範圍ノ大ナル場合ニ行ハル、モノニシテ金本位國間ノ爲替相場ハ正貨輸送點ノ制限ニ依リテ投機ヲ試ムルノ餘地甚ダ狹シト雖モ銀本位國ノ場合ニハ銀相場ノ變動ノ往々大ナルニ伴ヒ其騰

落ヲ豫想シテ爲替ノ賣買ヲ爲ス者少ナカラズ即チ投機ニ起因スル手形ノ需要若シクハ供給出現シテ爲替相場ニ影響スルコト稀ナラザルナリ不換紙幣ノ場合ニハ爲替相場變動ノ範圍ハ殆ド無限ナルヲ以テ投機ノ行ハル、ハ怪シムニ足ラズ而シテ經濟上ノ事件ハ勿論、戰爭ノ勝敗、政局ノ變化等投機ノ材料トナリ以テ爲替相場變動ノ原因ヲ爲スナリ又自國ニ於ケル政治又ハ經濟ノ將來ニ對シ國民ガ大ニ不安ヲ感ズルヤ其資産ヲ安全ナル外國ニ移サントスル者多ク即チ所謂資本ノ逃亡ナルモノ盛ニ行ハレ外國手形ノ需要激增スルヲ以テ是亦其價格ノ暴騰ヲ來タスモノニシテ最近獨逸等ニ於テ數バ實見セル現象ナリトス

不換紙幣國間ノ爲替相場ニ關シテ「購買力平價說」(Purchasing Power Parity Theory)ナルモノ近時頻ニ唱道セラル此說ノ骨子トスル所ヲ述ブレバ下ノ如シ例ヘバ小麥一石ノ價格日本ニ於テハ二十五圓、英國ニ於テハ五磅ナリトスレバ日英間ノ爲替相場ハ一磅即チ五圓トナラザルベカラズ若シ一磅ガ六圓ナリトセバ日本ニ於テ二十五圓ヲ以テ小麥一石ヲ買入レ之ヲ英國ニ送りテ五磅ニ賣却シ而シテ三十圓ニ換フレバ五圓ノ利潤ヲ得ルナリ又反對ニ一磅ガ四圓ナルニ於テハ二十圓ヲ五

磅ニ換ヘ此五磅ヲ以テ英國ニ於テ小麥一石ヲ買入レ日本ニ送リテ二十五圓ニ賣却スレバ同ジク五圓ノ利潤アリトス是ヲ以テ何レノ場合ニ於テモ多數ノ取引行ハレ其結果トシテ第一ノ場合ニハ磅ノ圓ニ對スル比例ヲ高メ第二ノ場合ニハ之ヲ低メ結局一磅即チ五圓ノ爲替相場出現スルニ至ル之ヲ換言スレバ日英間ノ爲替相場ニ於テハ一磅即チ五圓ガ其平價ニシテ其ノ然ル所以ハ要スルニ小麥一石ノ價格ガ英國ニ於テハ五磅日本ニ於テハ二十五圓ナルガ爲メナルニ在ルナリ斯ノ如ク極メテ簡單ナル場合ヲ想像スレバ此說ハ殆ド自明ノ理ナリト云フモ不可ナシトス然レドモ國際關係ハ極メテ複雑ニシテ例ヘバ英國並ニ日本ニ同時ニ存在スル同種ノ財貨ハ少ナキニ非ザレドモ一方ニノミ存シテ他方ニ在ラザルモノ亦多數ニシテ此等ノ財貨ノ價格ハ比較スルヲ得ズ即チ兩國ノ貨幣ノ購買力ヲ計算スル基礎トナラザルナリ然ルニ購買力平價說ヲ唱フル者ハ其主張ノ證明ニ此等ノ財貨ノ價格ヲモ包含スル物價指數ヲ適用セントスルモノニシテ大ニ精確ヲ缺クモノトス之ヲ要スルニ一國ノ物價ガ他國ノ物價ヨリ高キトキハ輸入ヲ促シ輸出ヲ妨グルノ傾向ヲ有シ從テ國際貸借ニ變化ヲ生ゼシメ或程度ニ於テ爲替相

場ニ影響スルコトアルハ否認スルヲ得ズト雖モ兩國ノ物價ガ平價ヲ定メ爲替相場ノ之ニ歸着セントスルコトナホ金本位國間ノ法定平價ノ如クナリト爲スハ誇張ノ甚シキモノナルノミナラズ反對ニ爲替相場ガ物價ヲ左右スルコトアルヲ知ラザルベカラズ又假ニ斯ノ如キ平價アリトスルモ此平價ハ兩國物價ノ騰落ト共ニ移動スルモノナルガ故ニ之ヲ平價ト稱スルハ不當ト謂フベキナリ

第六節 爲替相場變動ノ影響及ビ其調節方法

曩ニ述ベタルガ如ク金本位國間ノ爲替相場ハ變動ノ範圍狹隘ナルヲ以テ其影響微弱ナリト雖モ絶無ナルニ非ズ即チ手形ノ價格上ルトキハ輸出促進セラルノ傾向アリトス蓋シ爲替相場變動スルモ國內ノ物價賃銀等ハ多クハ直ニ影響ヲ蒙ラズ假令影響ヲ蒙ルモ其程度ハ同一ナラザルナリ是ニ因リ自國ノ貨幣ヲ以テ計算スル生産費ハ從來ト大差ナキニ當リ外國ニ於テ外國貨幣ヲ以テ計算スル販賣價格著シク低落スルコトナクンバ輸出品ニ對シテ振出サレタル手形ノ價格ノ上騰ハ輸出者ニ利益ヲ與フルモノトス結局外國ニ於テハ供給増加ノ爲メニ價格

低落シ國內ニ於テハ原料ノ騰貴貨銀ノ上騰等ニ依リ生産費増加スベシト雖モ此結果ノ實現スルマデニハ多少ノ時日ヲ要シ其間ハ輸出者ノ利益多キガ故ニ輸出自ラ促進セラル、ナリ之ニ反シテ輸入ハ妨害セラル、モノニシテ其ノ然ル所以ハ他ニ非ズ即チ外國ニ於ケル買入價格ハ同一ナルモ手形ノ價格上騰ノ爲メニ之ニ對シテ支拂フ自國ノ貨幣ハ増額スルヲ以テ勢ヒ其販賣價格ヲ引上グルノ結果需要ノ減少ヲ來タセバナリ之ヲ要スルニ爲替相場低落(受取勘定ノ建方ニ於テ)ノ場合ニハ外國ニ對シテ支拂ヲ爲ス者ハ不利ノ地位ニ立チ外國ヨリ支拂ヲ受クル者ハ利益スルモノトス爲替相場騰貴ノ場合ニハ上述スル所ト反對ノ結果ヲ生ズルコト言フヲ俟タズ而シテ此損益ノ程度ハ爲替相場ノ變動ノ大小ニ伴フモノニシテ銀爲替殊ニ紙幣爲替ニ於テハ其影響往々激甚ナリトス從テ此等ノ場合ニ於テハ輸出入其他ノ國際取引ハ極メテ冒險的性質ヲ帶ブルニ至ルナリ

之ヲ要スルニ爲替相場ノ變動ハ國際取引ノ安定ヲ得ルガ爲メニ之ヲ避クルヲ要シ從テ或場合ニハ特ニ變動抑制ノ方法ヲ採ラザルベカラザルナリ而シテ爲替相場安定ノ根本トナルモノハ國際貸借ノ均衡ニ在リトス即チ外國ニ對シテ支拂

ヲ爲シ又支拂ヲ受クル金額略ボ相等シキトキハ爲替相場ハ殆ド變動ノ餘地ナシト云フモ不可ナク之ニ反シテ國際貸借均衡ヲ失ヒ支拂ノ超過甚シキトキハ貨幣制度其他ノ施設完備スルモ遂ニ自ラ支フル能ハズシテ其機能ヲ爲ササルニ至ル例ヘバ英國ノ貨幣制度ハ其鞏固ナルヲ以テ多年天下ニ誇レルモ世界大戰ノ勃發ニ伴ヒ米國等ニ對スル支拂ノ非常ニ膨脹スルヤ金ノ輸出ヲ禁止シ「證券動員」等ニ依リテ一時爲替相場ヲ維持スルコトヲ得タルモ戰後ハ甚シキ逆調ヲ示シ漸ク一九二五年ニ至リテ戰前ノ平價ニ復スルコトヲ得從テ金ノ輸出禁止モ解除セラレタリ而シテ和蘭ノ如キ其貨幣制度ハ跛行本位ニシテ形式上完全ナラザレドモ其國際貸借ハ常ニ貸方多キヲ以テ爲替相場モ亦概シテ順調ナリトス

斯ノ如ク爲替相場安定ノ根本ハ國際貸借ノ均衡ニ在レドモ此關係大體ニ於テ均衡ヲ失ハザルニ於テハ間歇的ニ發生スル變動ハ貨幣制度ニ依リテ之ヲ防止スルコト可能ニシテ亦必要ナリトス然ラバ如何ナル貨幣制度ガ此目的ヲ達スルニ於テ最モ有效ナルヤハ理論上ノ問題ニ非ズシテ寧ロ事實ニ鑑ミテ定ムベキナリ即チ第十九世紀ノ後半ヨリ現世紀ニ互リテ世界ノ諸國ガ相踵デ金本位制ヲ採レ

ルハ要スルニ貿易其他國際取引ニ於テ最モ有力ナル英國ガ既ニ金本位制ヲ有シタルガ爲メナリトス蓋シ英國ノ金本位ニ對シテ自國モ此制度ヲ設クルニ於テハ其間ニ於ケル爲替相場變動ノ範圍極メテ狹隘トナルハ再三縷述セルガ如クナレバナリ而シテ金本位制ノ邦國其數ヲ増加スルニ從テ此利益ハ擴大シ世界大戰前ニ於テハ事實上金本位ノ貨幣同盟成立セルガ如キ状態ヲ爲シ此等諸國間ノ爲替相場ハ略ボ安定スルヲ得タリ然ルニ大戰ト共ニ諸國ハ殆ド皆不換紙幣國トナリ爾後數國ハ舊ニ復セルモノホ紙幣爲替多クシテ其變動ノ往々激甚ナル蓋シ已ヲ得ザルナリ

上述ノ如ク金本位制ハ諸國ヲシテ爲替相場ノ安定ヲ得セシメタレドモ是レ「金本位」タルガ爲メニ非ズ同一制度ヲ採レル邦國多カリシガ故ニシテ銀本位制ト雖モ有力ナル諸國多數之ヲ採ルニ於テハ同一ノ結果ヲ生ズベカリシナリ然レドモ事實上銀本位ノ邦國ハ國際經濟上優勢ナラズ且其數次第ニ減少セルヲ以テ金本位制ニ對抗スルヲ得ズ而シテ金銀比價ノ變動ト共ニ金本位國ニ對スル爲替相場モ高低激甚トナレルヲ以テ西班牙ノ如キハ銀貨ノ自由鑄造ヲ停止シ印度ハ「金爲

替本位制」ヲ設クルニ至レリ即チ一八九三年「ルービー」銀貨ノ自由鑄造ヲ停止シ次デ一磅十五「ルービー」ノ割合ヲ以テ英國金貨ヲ印度ニ於テモ無制限法貨ト爲スト共ニ略ボ同一ノ割合ヲ以テ印度政府ハ倫敦拂ノ爲替手形ヲ賣渡スコト、爲セリ茲ニ於テ英印間ノ爲替相場ハ金本位國間ニ於ケルガ如ク安定シテ一九二〇年マデ之ヲ持續セリ此好成绩ニ鑑ミテ金爲替本位制ハ爾後數國ニ行ハレタルモノニシテ銀價ニ非常ノ暴騰ナク國際貸借著シク均衡ヲ失セザル限リ金爲替本位制ガ爲替相場ノ變動ヲ抑制スルニ於テ有效ナルヲ知ルベキナリ

再三縷述セルガ如ク金本位國間ニ於テハ爲替相場變動ノ範圍狹隘ナルガ故ニ多少ノ高低アルモ大體之ヲ自然ノ趨勢ニ放任シテ可ナリト雖モ相場ノ逆調長キニ互リテ金ノ流出甚シキガ如キ場合ニハ之ヲ抑制スルノ必要アリ而シテ諸國ノ中央銀行就中「英蘭銀行」ガ其割引歩合ノ引上ヲ以テ之ニ處スルコトハ曩ニ述ベタルガ如シ又一國ノ貿易ニ於テ輸出ト輸入トガ其時期ヲ異ニシ例ヘバ前半期ハ輸入多ク後半期ハ輸出超過スルガ如キ場合ニハ爲替銀行ハ前半期ニ於テ外國銀行ヨリ資金ノ借入ヲ爲シ之ニ對シテ手形ヲ振出し以テ手形ノ供給ヲ増加シ後半期